法學士 行森龍太
法論社長 後藤本馬合 著

# 改正民事訴訟法釋義

附 民事訴訟法施行條例 供託法
民事訴訟費用法 民事訴訟用印紙法

東京 嵩山堂出版

# 自序

民事訴訟法ノ發布施行セラレテ以來民事ノ訴訟及ヒ其裁判ノ手續一定シテ也タ紛亂混淆セス然レモ元來訴訟法ハ卽チ運用法ニシテ而シテ不干涉主義ヲ採レルカ故ニ其運用ノ巧拙如何ハ實躰上ノ權利ノ消長ニ關シ權利ノ消長ハ一國一家ノ盛衰ニ關セスンハアラスサレハ何人モ訴訟法ノ運用ニ巧妙ナル手腕ヲ有シ苟モ權利ノ行使ニ危險ナカラシメンコトヲ企ハサル者アラスト雖訴訟法ノ研究ハ他ノ法律諸學科ニ比シ頗ル困難ナルヲ以テ或ハ半途ニシテ之カ研究ヲ抛チ或ハ專門ノ士ニ托シテ僅ニ焦眉ノ急ヲ醫セントスル者瀕々タリ蓋シ世人ノ訴訟法ヲ以テ難解トスル所以ノモノハ訴訟法ノ規定交錯シテ關係スル所深且大ナルヲ以テ徒ラニ條文ノ末ニ拘泥シ彼我法理ノ關聯スル

モノアルヲ知ラス又法律解釋ノ通則ヲ暗セスシテ字句ニ頭腦ヲ疲勞セシムルノ結果ト謂ハサルヘカラス著者甚タ之ヲ遺憾トス仍テ著者ハ本書ヲ艸スルニ當リテ法律ノ意義立法ニ精神ヲ闡明シ以テ法理ノ存在及其關係ヲ示シ字句ノ如キハ務メテ意ヲ用ヒス之レ法律思想ニ乏キ者ヲシテ法律ノ眞意ヲ玩味シ併セテ斯法全豹ノ大義ト法律解釋ノ方法トヲ悟了セシムルノ便ニ供センカ爲メナリ庶幾ハ訴訟法ヲ繙キ權利ノ行使ヲ完カラシメンコトヲ努ムル者ニ聊カ裨益スル所アラン歟

明治卅三年二月十一日ノ嘉節東都ニ於テ

著者識



# 改正民事訴訟法釋義目錄


第一編　總則……一丁
第一章　裁判所……二丁
第一節　裁判所ノ事物ノ管轄……仝丁
第二節　裁判所ノ土地ノ管轄（裁判籍）……十三丁
第三節　管轄裁判所ノ指定……二十八丁
第四節　裁判所ノ管轄ニ付テノ合意……三十丁
第五節　裁判所職員ノ除斥及ヒ忌避……三十三丁
第六節　檢事ノ立會……四十二丁
第二章　當事者……四十四丁
第一節　訴訟能力……仝丁
第二節　共同訴訟人……五十丁
第三節　第三者ノ訴訟參加……五十六丁
第四節　訴訟代理人及ヒ補佐人……七十四丁
第五節　訴訟費用……八十五丁
第六節　保證……百〇二丁
第七節　訴訟上ノ救助……百〇七丁

第三章　訴訟手續……百十八丁
第一節　口頭辯論及ヒ準備書面……百十八丁
第二節　送達……仝　丁
第三節　期日及ヒ期間……百四十七丁
第四節　懈怠ノ結果及ヒ原狀回復……百六十九丁
第五節　訴訟手續ノ中斷及ヒ中止……百八十一丁
第二編　第一審ノ訴訟手續……百八十九丁
第一章　地方裁判所ノ訴訟手續……二百〇一丁
第一節　判決前ノ訴訟手續……二百〇一丁
第二節　判決……仝　丁
第三節　闕席判決……二百三十五丁
第四節　計算事件、財産分別及ヒ此ニ類スル訴訟ノ準備手續……二百五十二丁
第五節　證據調ノ總則……二百六十八丁
第六節　人證……二百七十七丁
第七節　鑑定……二百九十丁
第八節　書證……二百二十一丁
第九節　檢證……二百二十九丁
第十節　當事者本人ノ訊問……三百四十八丁
第十一節　證據保全……三百五十一丁
第二章　區裁判所ノ訴訟手續……三百五十四丁
第一節　通常ノ訴訟手續……三百六十丁
第二節　督促手續……三百六十一丁
第三編　上訴……三百六十八丁
第一章　控訴……三百八十一丁
第二章　上告……仝　丁
第三章　抗告……四百十丁
第四編　再審……四百二十七丁
第五編　證書訴訟及ヒ爲替訴訟……四百四十一丁
第六編　强制執行……四百六十丁
第一章　總則……四百七十四丁
第二章　金錢ノ債權ニ付テノ强制執行……仝　丁
第一節　動産ニ對スル强制執行……五百五十三丁
第一款　通則……五百五十四丁
第二款　有體動産ニ對スル强制執行……仝　丁

第三款　債權及ヒ他ノ財産權ニ對スル强制執行……五百八十二丁
第四款　配當手續……六百三十三丁
第二節　不動産ニ對スル强制執行……六百五十三丁
第一款　通則……仝　丁
第二款　强制競賣……六百五十七丁
第三款　强制管理……七百三十六丁
第三節　船舶ニ對スル强制執行……七百五十一丁
第三章　金錢ノ支拂ヲ目的トセサル債權ニ付テノ强制執行……七百六十四丁
第四章　假差押及ヒ假處分……七百七十四丁
第七編　公示催告手續……八百〇三丁
第八編　仲裁手續……八百二十六丁

附錄

民事訴訟法施行條例……一丁
民事訴訟費用法……三丁
民事訴訟用印紙法……五丁
供託法……八丁



# 民事訴訟法釋義

行森龍太
後藤本馬　共著

## 第一編　總則

註疏　總則トハ民事訴訟法ノ全部ニ通シ適用スベキ通則ヲ定メタルナリ民事訴訟法トハ何ゾヤ曰ク民事訴訟法トハ私法上ノ權利保護ノ目的ヲ以テ裁判所ニ向ヒ其權利ヲ實行スル方式ヲ定メタルモノ是ナリ而シテ之ガ保護ノ方法ハ威力アル判決ト强制執行トニ依ラザルベカラス

判決ハ原告ヨリ被告ニ對シ爲ス所ノ權利保護ノ請求正當ナリヤ否ヤヲ確定スル國家ノ意思ノ宣言ナリ强制執行ハ其判決ニ基キ敗訴者ニ對シ有形的無形的ニ脅迫ヲ施行スル國家ノ公力ナリサレバ民事訴訟ニ於テハ原告被告ノ當事者アルベキハ勿論國家ノ機關タル裁判所亦無カルベカラサルモノタルヤ明カナリ本編第一章ハ裁判所ノ事ヲ定メ第二章ハ當事者ノ事

ヲ定ム斯ク原告被告ノ當事者アリ裁判所アリテ訴訟ノ提起アリトセバ茲ニ訴訟上ノ權利義務ノ關係ヲ生ス之レ第三章ニ訴訟手續ノ定メアル所以ナリ

# 第一章　裁判所

## 第一節　裁判所ノ事物ノ管轄

註疏　事物ノ管轄トハ訴訟事件ノ目的物ニ從ヒテ定マルモノヲ稱シ事物ノ管轄ニ對スルモノハ土地ノ管轄是ナリ何トナレバ事物ノ管轄既ニ定リタルトキハ之ヲ土地ノ區域ニ依リテ管轄セシムルノ要アレバナリ如此ク訴訟事件ヲ各裁判所ニ配分賦當スルハ司法上數種ノ裁判所ヲ設クルノ必要アルガ爲メナリ

**第一條**　裁判所ノ事物ノ管轄ハ裁判所構成法ノ規定ニ從フ

註疏　本條ハ事物ノ管轄ハ裁判所構成法ノ定ムル所ニ從フベキヲ定メタルナリ而シテ其區裁判所ノ事物ノ管轄ハ裁判所構成法第十四條ニ之ヲ定ム乃チ左ノ如シ

第一　百圓ヲ超過セザル金額又ハ價額百圓ヲ超過セザル物ニ關ル請求

第二　價額ニ拘ラズ左ノ訴訟

（イ）　住家其ノ他ノ建物又ハ其ノ或ル部分ノ受取明渡使用占據若ハ修繕ニ關リ又ハ賃借人ノ家具若クハ所持品ヲ賃貸人ノ差押ヘタルコトニ關リ賃貸人ト賃借人トノ間ニ起リタル訴訟

（ロ）　不動産ノ經界ノミニ關ル訴訟

（ハ）　占有ノミニ關ル訴訟

（ニ）　雇主ト雇人トノ間ニ雇期限一年以下ノ契約ニ關リ起リタル訴訟

（ホ）　左ニ掲ゲタル事項ニ付旅人ト旅店若ハ飲食店ノ主人トノ間ニ又ハ旅人ト水陸運送人トノ間ニ起リタル訴訟

（一）　賄料又ハ宿料又ハ旅人ノ運送料又ハ之ニ伴フ手荷物ノ運送料

（二）　旅店又ハ飲食店ノ主人又ハ運送人ニ旅人ヨリ保護ノ爲預クタル手荷物金錢又ハ有價物

地方裁判所ノ事物ノ管轄ハ裁判所構成法第二十六條ニ之ヲ定ム乃チ左ノ如シ

第一　第一審トシテ

區裁判所ノ權限又ハ裁判所構成法第三十八條ニ定メタル控訴院ノ權限ニ屬スルモノヲ除キ其ノ他ノ請求

第二　第二審トシテ

（イ）　區裁判所ノ判決ニ對スル控訴

（ロ）區裁判所ノ決定及ヒ命令ニ對スル法律ニ定メタル抗告

控訴院ノ事物ノ管轄ハ裁判所構成法第三十七條ニ之ヲ定ム乃チ左ノ如シ

第一　地方裁判所ノ第一審判決ニ對スル控訴

第二　區裁判所ノ判決ニ對スル控訴ニ付爲シタル地方裁判所ノ判決ニ對スル上告

第三　地方裁判所ノ決定及命令ニ對スル法律ニ定メタル抗告

皇族ニ對スル民事訴訟ニ付第一審及第二審ノ裁判權ハ東京控訴院ニ屬ス

（裁判所構成法第三十八條）

大審院ノ事物ノ管轄ハ裁判所構成法第五十條ニ之ヲ定ム乃チ左ノ如シ

第一　終審トシテ

（イ）第三十七條第一ニ依リ爲シタル判決及ヒ第三十八條ノ第一審ノ判決ニ非ザル控訴院ノ判決ニ對スル上告

（ロ）控訴院ノ決定及ヒ命令ニ對スル法律ニ定メタル抗告

**第二條**　訴訟物ノ價額ニ依リ管轄ノ定マルトキハ以下數條ノ規定ニ從フ

註疏　訴訟物トハ原告ガ被告ニ對シ訴求スル目的物是ナリ例ヘバ原告タル金員ノ貸ケ主ガ其預ケ金ノ一分（千圓ノ内ナレバ五百圓）ヲ訴求スル時ハ其訴求額ナル五百圓ハ訴訟物ナリ

訴訟物ノ價額ニ依リ管轄ノ定マルトハ訴訟物ノ價額ノ多寡ニ依リテ或ハ地方裁判所ノ管轄トナリ或ハ區裁判所ノ管轄トナルガ如キヲ云フ例ヘバ甲者アリ乙者ニ對シ三百圓ノ賣掛代金ヲ請求セントスルトキハ何レノ裁判所ニ出訴スベキヤト云フニ此場合ハ訴訟物ノ價額百圓以上ナルヲ以テ地方裁判所ノ管轄ニ屬ス之ニ反シ若シ丙者ヨリ丁者ニ對シ九十九圓ノ貸金ヲ請求スルモノナル時ハ區裁判所ニ出訴スレバ可ナリ何トナレバ此場合ハ訴訟物ノ價額百圓以下ナレバナリ（裁判所構成法第十四條第二十六條參看）

**第三條**　訴訟物ノ價額ハ起訴ノ日時ニ於ケル價額ニ依リ之ヲ算定ス

果實損害賠償及ヒ訴訟費用ハ法律上相牽連スル主タル請求ニ附帶シ一ノ訴ヲ以テ請求スルトキハ之ヲ算入セス

註疏　起訴ノ日時トハ原則トシテハ民事訴訟法第百九十條ノ規定ニ從ヒ訴狀ヲ裁判所ニ差出シタル日是ナリ其區裁判所ニ提起スル訴ニ付テハ口頭ニ依リ之ヲ爲シタル時ヲ以テ起訴ノ日時ト爲スコトアリ

管轄既ニ定リタル後訴訟物ノ價額ニ增減アルモ其管轄ニ影響ヲ及ボスモノニアラズ

果實トハ天然ノ果實ハ勿論利息ノ如キ法律上ノ果實ヲモ包含ス損害賠償トハ其失フタル利得及ヒ過怠金ヲモ之ヲ包含ス訴訟費用トハ其繫屬スル裁判ニ於ケル訴訟費用ノミナラ

ズ其訴訟事件ノ第一審ヨリ終審ヲ經テ强制執行ニ至ルマデノ一切ノ費用ヲ稱ス故ニ訴訟用ノ印紙代出廷日當旅費等ハ勿論郵便料拒絶證書作成費用等苟モ權利伸張ニ必要ナリシモノヲバ皆之ヲ含ムモノト知ルベシ

本條第二項ハ法律上相牽連スル主タル請求即チ其權利關係ノ基ク請求ニ附帶シ一ノ訴ヲ以テ請求スルトキニ限リテ果實損害賠償訴訟費用ノ三者ヲ訴訟物ノ價額中ニ算入セズトノ義ナリ其理由ハ若シ果實其他ノ物ノ請求ヲ確定スル事ガ主タル請求ノ如クニ至緊至要ナルトキハ附帶請求ト爲サズシテ獨立ノ請求ト爲シ訴ヲ爲スベキモノナルニ主タル請求ニ附帶シ之ヲ請求スルトキハ其訴訟ノ目的物ハ即チ主タル請求ニ止マルモノナルガ故ナリ例ヘバ甲者アリ賃貸借期限後賃貸人ナル乙者ノ承諾ナク其家屋ニ住居スル爲メ乙者ハ自己ノ所有權ニ基キ甲者ニ對シ家屋明渡ヲ請求シ且本訴提起迄ノ家賃ヲ損害額ニ見積リ附帶請求ヲ爲シタリトセヨ其損害額ナル家賃ハ甲者ガ不法ニ家屋ヲ占領シ明渡サヽルヨリ生ズルモノナレバ法律上明渡ノ請求ニ相牽連スルモノタリサレバ從タル損害賠償ハ本訴ノ訴訟物ノ價額ニ算入セザルハ當然トス之ニ反シ例ヘバ貸金請求ノ場合ニ於テ元金ノ殘額ト既ニ辨濟シタル元金ノ利子ト共ニ訴求スルトキハ其利子ハ現ニ訴求スル元金ノ殘額ト權利關係ヲ有セス即チ法律上相牽連セザルヲ以テ此利子ト現ニ訴求スル所ノ元金トハ次條ノ規定ニ從ヒ合算セザルベカラズ

**第四條** 一ノ訴ヲ以テ數個ノ請求ヲ爲ストキハ前條第二項ニ揭クルモノヲ除ク外其額ヲ合算ス

本訴ト反訴トノ訴訟物ノ價額ハ之ヲ合算セス

註疏 前條第二項ニ揭グルモノトハ即チ果實損害賠償及ビ訴訟費用ノ附帶請求ヲ云フ元來數個ノ請求ヲ爲ストキハ各別ニ訴ヲ起スベキモノナリト雖特ニ一ノ訴ヲ以テ數個ノ請求ヲ爲ストキハ第百九十一條ノ規定ニ從ヒ一個ノ訴ニ併合シタル場合ナルヲ以テ數個ノ請求ヲ合算スルモノトスサレドモ其請求各個ノ價額ニ依レバ元ト區裁判所ノ管轄ニ屬スベキモ數個ノ請求ヲ併合シテ之ヲ一團ト爲スヲ以テ價額百圓トナルトキハ自ラ地方裁判所ノ管轄ヲ生ズ

本訴ト反訴トノ訴訟物ノ價額ヲ合算セザルハ訴訟物ノ價額ハ起訴ノ日時ニ於ケル價額ニ依リ算定スヘキモノナルニ反訴ノ如キ本訴提起ノ際未ダ提出ノ有無測ラレザルモノヲ算入スルヲ得ザルガ爲メナリ

**第五條** 訴訟物ノ價額ハ左ノ方法ニ依リ之ヲ定ム

第一 債權ノ擔保又ハ債權ノ擔保ヲ爲ス從タル物權カ訴訟物ナルトキハ其債權ノ額ニ依ル但物權ノ目的物ノ價額寡キトキハ其額ニ依ル

第二　地役カ訴訟物ナルトキハ要役地ノ地役ニ依リ得ル所ノ價額ニ依ル但地役ノ爲メ承役地ノ價額ノ減シタル額カ要役地ノ地役ニ依リ得ル所ノ價額ヨリ多キトキハ其減額ニ依ル

第三　賃貸借又ハ永貸借ノ契約ノ有無又ハ其時期カ訴訟物ナルトキハ爭アル時期ニ當ル借賃ノ額ニ依ル但一ケ年借賃ノ二十倍ノ額カ右ノ額ヨリ寡キトキハ其二十倍ノ額ニ依ル

第四　定時ノ供給又ハ收益ニ付テノ權利カ訴訟物ナルトキハ一ケ年收入ノ二十倍ノ額ニ依ル但收入權ノ期限定マリタルモノニ付テハ其將來ノ收入ノ總額カ二十倍ノ額ヨリ寡キトキハ其額ニ依ル

註疏　本條ハ無形ノ訴訟物ニ付法律上訴訟價額ノ算定方法ヲ定メタルナリ債權ノ擔保ヲ爲ス從タル物權トハ民法ノ留置權動產質權不動產質權先取特權抵當權ノ如キ是ナリ本條第一號ノ場合ニ於テ債權ノ價額ヲ以テ訴訟物ノ價額ト看做ス所以ノモノハ固ト此擔保ハ債權ノ執行ヲ安全ナラシムル爲メニ要スルモノナルヲ以テ擔保ノ價値ハ債權者ニ取リテハ其債權ノ額ヨリ多カラザルベシ仍テ假令實際ハ物權ノ目的物カ高價ナリトスルモ猶ホ債權ノ額ヲ以テ訴訟物ノ價額ト看做サヽルヲ得ズ而シテ若シ其物權ノ目的物ノ價額寡少ナルトキハ經令債權ハ多額ナリトモ債權者ニ取リテ其債權ハ右物權ノ目的物ノ價額ニ比シテ價値少キモノト看做スヲ以テ其寡少ノ價額ナル物權ノ目的物ノ價額ニ依ルベキモノトス

地役權カ或ル土地ニ附隨スルトキハ其地價ニ差異ヲ生ズベキニ依リ其差額ヲ以テ地役ノ價額即チ第二號ノ訴訟物ノ價額トス蓋シ地役ナルモノハ要役地ノ爲メニ存スルモノナレバ要役地ノ利益ヲ重ンシ其要役地ノ地役ニ依リ得ル所ノ增加額ヲ以テ訴訟物ノ價額トス然レトモ若シ地役ノ爲メニ承役地ノ價額ヲ減殺スル場合ニ於テハ其減額カ要役地ノ地役ニ依リ得ル增加額ヨリ多キトキハ其減額ニ依ルベキモノナリ

第三號ノ爭アル時期ニ當ル借賃ノ額トハ爭アル時期ニ於テノ借賃ノ總額ヲ云フ例ヘバ五ケ年間或ル物品ノ賃貸借契約ヲ取結ビ五ケ年ニ於ケル此借賃ヲ四百圓トスル時ハ爭アル當時ノ借賃額ハ即チ四百圓ナルベシ然ルニ其一ケ年ノ借賃八十圓トスレバ借賃ノ二十倍ハ一千六百圓トナリ爭アル時期ノ借賃額ヨリモ多額トナルカ故ニ此場合ハ單ニ爭アル時期ノ借賃額ヲ以テ訴訟物ノ價額ト爲サヽルベカラズト雖モ若シ一ケ年ノ借賃十圓ニシテ四十ケ年四百圓ノ借賃ナリトセバ一ケ年ノ二十倍ハ即チ二百圓ニシテ爭アル時期ノ借賃四百圓ヨリ寡少ナルヲ以テ之ヲ訴訟物ノ價額ト爲ス蓋シ二十倍ト規定シタルハ各國利子ノ割合五朱即チ百分ノ五ノ割合ヲ普通トスルヲ以テ之ニ二十ヲ乘ジ元本ト同額ニ至ラシムルノ趣意ニアリ

第四號ニ所謂定時ノ供給トハ一回ニ非ズシテ其定リタル時期毎ニ權利者ニ或ル物ヲ附與スルヲ謂フ例ヘバ終身年金、養料等ノ如キ是ナリ訴訟物ノ價額ヲ一ヶ年ノ收入額ノ二十倍トシ其收入權ノ期限ガ定リタルモノニ付テハ將來ノ收入スベキ總額ト一ヶ年收入額ノ二十倍ト比シテ其寡少ノ額ニ依ルモノトス

**第六條** 訴訟物ノ價額ハ必要ナル場合ニ於テハ第三條乃至第五條ノ規定ニ從ヒ裁判所ノ意見ヲ以テ之ヲ定ム

裁判所ハ申立ニ因リ證據調ヲ命ジ又ハ職權ヲ以テ檢證若クハ鑑定ヲ命スルコトヲ得

註疏 裁判所ノ管轄ガ訴訟物ノ價額ニ依リ定マル場合ニ於テ訴訟物ガ一定ノ金額ニ非ザルトキハ其價額ヲ掲ケザルベカラズ本法第三條乃至第五條ハ訴訟物ノ價額算定方法ヲ規定シタルモノナレバ原告タル者宜シク右各條ノ規定ニ準據シ訴訟物ノ價額ヲ定ムベキハ勿論必要アル場合ニ於テハ裁判所自ラ其意見ヲ以テ右各條ノ規定ニ準據シ之ヲ定メラルヽナリ即チ必要アル場合トハ例ヘバ被告ガ口頭辯論ニ於テ訴訟物ノ價額ヲ爭ヒ以テ管轄違ヲ主張スル時ノ如シ斯カル場合ニ於テハ裁判所ハ本條第二項ニ從ヒ價額ヲ定ムルニ付證據調ノ申立アルトキハ之ヲ取調ベ又ハ職權ヲ以テ臨檢ヲ爲シ若クハ鑑定人ニ其鑑定ヲ命ズルコトヲ得ルナリ



**第七條** 地方裁判所ノ判決ニ對シテハ其事件カ區裁判所ノ事物ノ管轄ニ屬ス可キ理由ヲ以テ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

註疏 地方裁判所ハ合議制ニシテ其裁判ハ三人ノ判事合議ノ上ニテ審理判決ス之ニ反シ區裁判所ハ單獨制ニシテ一人ノ判事審理判決ヲ專行スサレバ地方裁判所ノ判決ハ區裁判所ノ判決ニ比スルトキハ鄭重且完全ト謂ハザルベカラズ從テ或ル事件ガ地方裁判所ニ於テ判決セラレタル時其事件ガ區裁判所ノ事物ノ管轄ニ屬スベキ理由ノミヲ以テ不服ヲ申立ルコトヲ許サヽルナリ尤モ事物ノ管轄ヲ異スル點ヲ以テセズ他ノ理由ヲ以テスルトキハ控訴ノ理由ト爲スヲ得ベキヤ余ノ疑ハザル所ナリ

**第八條** 事物ノ管轄ニ付區裁判所又ハ地方裁判所カ管轄違ナリト宣言シ其裁判確定シタルトキハ此裁判ハ後ニ其事件ノ繫屬ス可キ裁判所ヲ羈束ス

註疏 羈束スルトハ後ニ其事件ニ付訴ヲ受クル裁判所ハ其事物ノ管轄ニ付テノ判決ヲ爲スヲ得ズ必ズ其事件ノ審理裁判ヲ爲スノ義務アリト云フノ義ナリ

夫レ管轄違ヲ宣言シタル裁判所ガ地方裁判所ナルトキハ區裁判所ヲ羈束シ區裁判所ガ管轄違ヲ宣言シタルトキハ地方裁判所ヲ羈束スルハ事物ノ管轄ニ付テ然ルノミニシテ土地ノ管轄ニ付テハ羈束セザルヲ以テ自由ニ判決ヲ爲シ得ルハ言ヲ待タズ蓋シ本條ノ規定ハ

一ノ事件ニ付數個ノ牴觸スル判決ヲ避ケンガ爲メナリ

**第九條** 地方裁判所カ事物ノ管轄違ナリトシテ訴ヲ却下スルトキハ原告ノ申立ニ因リ同時ニ判決ヲ以テ原告ノ指定シタル自己ノ管轄内ノ區裁判所ニ其訴訟ヲ移送ス可シ

區裁判所カ事物ノ管轄違ナリトシテ訴ヲ却下スルトキハ同時ニ判決ヲ以テ其訴訟ヲ所屬ノ地方裁判所ニ移送スヘシ

移送ノ申立ハ判決ニ接著スル口頭辯論ノ終結前ニ之ヲ爲ス可シ

移送言渡ノ判決確定シタルトキハ其訴訟ハ移送ヲ受ケタル裁判所ニ繫屬スルモノト看做ス

註疏 本條ハ事物ノ管轄違ナリトシテ訴ヲ却下スルトキ他ノ裁判所ニ其事件移送ノ手續ヲ定メタルナリ

本條第一項ニ原告ノ申立ニ因リトアルハ地方裁判所ガ管轄違ヲ理由トシテ訴ヲ却下シタル時ハ原告ハ更ニ區裁判所ニ起訴スルト否トハ隨意ニシテ裁判所ノ干渉スベキモノニ非ザルヲ以テ原告ノ申立ヲ待テ初メテ移送スベキモノト定メタル義ナリ

凡ソ裁判所ニ於テ訴ヲ却下スルトキハ裁判所ノ職分茲ニ盡クルヲ以テ原告タル者ハ更ニ他ノ管轄裁判所ニ起訴セザルベカラザルノ必要アリ然レモ徒ラニ手續ヲ煩ハスハ當事者ノ爲メニ不便ナルヲ以テ法律ハ其起訴ノ手續ヲ省カンガ爲メニ移送ノ手續ヲ設ケタルモノニシテ乃チ地方裁判所ヨリ却下ト同時ニ區裁判所ニ移送シタルトキハ初ヨリ此區裁判所ニ繫屬スルト同一ノ效力ヲ生ジ原告ニハ巨多ノ利益ヲ與フベク亦被告ニモ爲メニ何等ノ害ナシ之レ本條第一項ノ規定アル所以ニシテ移送ヲ受ケタル區裁判所ハ前ニ言渡シタル地方裁判所ノ却下ノ言渡ニ羈束セラレ假令事物ノ管轄違ナリトスルモ事物ノ管轄違ナル點ヲ以テ裁判スルコトヲ得ス

第二項ノ場合モ原告ノ申立アルトキ移送ノ判決アルベキハ勿論ナレモ區裁判所ノ直近上級ノ地方裁判所ハ唯一ナルヲ以テ指定ヲ要セザルニアリ第三項ハ移送申立ノ時期ヲ定メタルモノニシテ第四項ハ移送言渡ノ判決確定ノ效力ヲ定メタルナリ乃チ其移送ヲ受ケタル裁判所ニ事件ノ繫屬スルモノト看做スヲ以テ新ニ起訴スルノ必要ナキノミナラズ口頭辯論期日ニ當事者ノ一方出頭セザルトキハ欠席判決ヲ爲スニ至ルベク亦双方出頭セザルトキハ事件休止ニ至ルベシ

## 第二節 裁判所ノ土地ノ管轄(裁判籍)

註疏 土地ノ管轄トハ同等ノ裁判所ガ或ル事件ニ付土地ノ區域ニ從ヒ裁判ヲ爲スノ權利及ビ義務ヲ云ヒ裁判籍ハ人民ノ方面ヨリ立言シタルモノニシテ訴訟事件ニ付裁判ヲ受ク

ベキ場所是ナリ詳言スレバ其所謂管轄ナル語ハ裁判所ノ方ヨリ之ヲ云ヒ裁判籍ハ人民ノ側ヨリ之ヲ云ヒタルナリ而シテ其裁判所ニ普通裁判籍特別裁判籍ノ二アリ普通裁判籍ハ專屬裁判籍ヲ定ムルモノヲ除クノ外總テノ訴訟事件ニ付裁判ヲ受クベキ場所ヲ云ヒ特別裁判籍ハ或ル種ノ訴訟事件ノミニ限リ屬スル裁判籍ヲ云フ

又タ專屬裁判籍ナルモノアリ普通裁判籍ニ全然反對スルモノニ非ズシテ普通裁判籍モ亦專屬裁判籍ナルコトアリ

**第十條** 人ノ普通裁判籍ハ其住所ニ依リテ定マル

普通裁判籍アル地ノ裁判所ハ其人ニ對スル總テノ訴ニ付キ管轄ヲ有ス但訴ニ付キ專屬裁判籍ヲ定メサル場合ニ限ル

註疏 本條ハ普通裁判籍ノ何タルヲ示シタル規定ナリ乃チ第一住所第二若シ住所ナキトキハ現在地第三現在地ナキトキハ其人ノ最後ニ有セシ住所ニ依リテ定ムベキモノナレバ先ヅ本條ニ其住所ニ依リテ定マル旨ノ原則ヲ掲ゲタルナリ元來住所ハ民法上各人ノ生活ノ本據ヲ指スモノナレバ其本籍ナルト寄留ナルトヲ問ハズ唯本人ノ住シテ生活ノ本據トヲ爲シ此ニ留在スルノ意思アルヲ以テ足レリトス

第二項ハ普通裁判籍アル地ノ裁判所ハ其人卽チ被告ニ對スル一切ノ訴訟事件ニ付管轄權ヲ有ストノコトナリ

**第十一條** 軍人軍屬ハ裁判籍ニ付テハ兵營地若クハ軍艦定繫所ヲ以テ住所トス但此規定ハ豫備、後備ノ軍籍ニ在ル者及ヒ兵役義務履行ノ爲メノミニ服役スル軍人軍屬ニ之ヲ適用セス

註疏 此軍人軍屬ニ對スル訴訟上ノ裁判籍ヲ定メタル所以ハ是等ノ者ハ實際他ニ其住所アリトモ輙ク兵營地又ハ軍艦定繫所ヲ離去スル能ハザルガ故ナリ軍人トハ士官下士兵卒ニシテ軍屬ハ軍醫主理理事又ハ會計官吏ノ如キ陸海軍ニ關スル吏員是ナリ此等ノ人々ハ兵營地若クハ軍艦定繫所ヲ以テ其住所トス然レモ此規定ハ總テノ軍人、軍屬ニ之ヲ適用スルニ非スシテ豫備軍籍ニ在ル者後備軍籍ニ在ル者單ニ兵役義務履行ノ爲メノミニ服役スル軍人及ヒ軍屬ニハ適用セザルナリ

兵役義務履行ノ爲メノミニ服役スル者ニ對スル訴ニ付テハ第十五條第二項ニ其特別裁判籍ヲ定メ豫備及ヒ後備ノ軍籍ニ在ル者ニ對シテハ第十條第一項ノ住所ヲ以テ普通裁判籍ト爲セリ

**第十二條** 外國ニ在ル本邦ノ公使及ヒ公使館ノ官吏幷ニ其家族、從者ノ裁判籍上ノ住所ハ本邦ニ於テ本人ノ最後ニ有セシ住所ナリトス此住所ナキモノニ付テハ司法大臣ノ命令ヲ以テ豫メ定ムル東京内ノ區ヲ以テ其住所ナリトス

註疏　外國ニ在ル日本ノ公使及ビ其公使館ノ官吏卽チ公使館附武官文官ノ如キ又其家族及ビ從者ノ如キハ其生活ノ本據トスル所何レモ外國ナリト雖モ此等ハ公法上治外法權ヲ有スル者ナルヲ以テ外國ノ裁判所ニ訴ヲ起スヲ得ズ必ズ本邦ノ裁判籍ニ依ルベキモノトス然レドモ此等ノ人々ハ本邦ニ住所ヲ有スルモノニ非ザルヲ以テ其最後ニ有セシ住所ヲ普通裁判籍ト爲シ若シ此最後ノ住所ヲ有セザルトキハ司法大臣ノ豫メ定メタル東京內ノ區ヲ以テ其住所トシ之ガ普通裁判籍ヲ定メタルモノナリ

**第十三條**　內國ニ住所ヲ有セサル者ノ普通裁判籍ハ本人ノ現在地ニ依リテ定マル若シ其現在地ノ知レサルカ又ハ外國ニ在ルトキハ其最後ニ有セシ內國ノ住所ニ依リテ定マル

然レドモ外國ニ住所ヲ有スル者ニ對シテハ內國ニ於テ生シタル權利關係ニ限リ前項ノ裁判籍ニ於テ訴ヲ起スコトヲ得

註疏　第一項ハ內國ニ住所ヲ有セザル者ニ對スル規定ナリ卽チ無賴ノ漂泊人又ハ世界ヲ以テ家ト爲ス行商ノ如キ者ニシテ日本ニ生ジタルモ日本ニ住所ナキ者ハ其現在地ヲ以テ普通裁判籍ト爲ス現在地トハ本人ガ生活ノ本據ト爲スニアラズシテ現ニ其者ノ存在スル場所ヲ云フ

又其現在地ノ知レザル者若クハ外國ニ現在スル者ニハ其人ノ內國ニ於テ最後ニ有セシ住所ヲ以テ普通裁判籍トス其外國ニ在ルカ又ハ內國ニ於ケル現在地亦明カナラザル者ニ對シテハ如何ナル方法ニ依リ被告ニ訴狀ヲ送達スルヤ卽チ起訴アリシコトヲ知ラシムヤト云フニ這ハ本法第百五十六條ノ規定ニ從ヒ訴狀ヲ公ノ告示方法ヲ以テ掲示板ニ貼附シ又ハ其抄本ヲ新聞紙ニ掲載シ以テ被告ニ訴狀ノ送達ヲ爲シタルモノト看做スニアリ

第二項ハ外國ニ住所ヲ有スル者ニ對シテハ內國ニ於テ生ジタル權利關係ニ限リ前項ノ規定ニ依ルベキモノトセリ故ニ例ヘバ外國人ガ日本ニ於テ或ル物品ヲ買求メ其代價ハ未ダ支拂ハズシテ歸國セシ時ハ卽チ日本ニ權利關係ヲ生ジタルモノナレドモ最後ノ住所ガ日本ニ之レナキヲ以テ本條ノ裁判籍ニ起訴スルコトヲ得ザルナリ

**第十四條**　國ノ普通裁判籍ハ訴訟ニ付國ヲ代表スル官廳ノ所在地ニ依リテ定マル但訴訟ニ付國ヲ代表スルニ付テノ規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

公又ハ私ノ法人及ビ其資格ニ於テ訴ヘラルヽコトヲ得ル會社其他ノ社團又ハ財團等ノ普通裁判籍ハ其所在地ニ依リテ定マル此所在地ハ別段ノ定ナキトキハ事務所所在ノ地トス若シ事務所ナキトキ又ハ數所ニ於テ事務ヲ取扱フトキハ其首長又ハ事務擔當者ノ住所ヲ以テ事務所ト看做ス

**註疏** 本條ハ公私ノ法人ニ關シ裁判籍ヲ規定シタルナリ國ハ恰モ一個人ト同シク財産權上ノ權利ヲ有シ義務ヲ負擔スルノ能力アルヲ以テ例ヘバ國ガ必要上或ル物品ヲ購買シ又ハ山林營理ノコトヲ爲スハ卽チ國ナル法人ガ一個人ト同一ノ事ヲ爲スモノナリ而シテ其訴訟ニ關シ國ヲ代表スルノ官廳ハ明治廿五年一月勅令第六號ニ依リテ定マルモノナリ司法官廳ヲ代表スルハ裁判所構成法第百四十二條ニ於テ司法官廳ニ對シテ起リタル民事訴訟ニ於テハ其訴訟ヲ受ケタル裁判所ノ檢事局之ヲ代表シ各省北海道廳及ビ府縣廳ハ其各官廳ノ長官之ヲ代表ス

第二項公ノ法人トハ府縣郡市町村又ハ寺院ヲ云フ國モ公ノ法人ナレ𪜈前項ニ規定アルヲ以テ包含セズ私ノ法人トハ民法ノ規定ニ依ルベキ法人ニシテ、其資格ニ於テ訴ヘ又ハ訴ヘラルヽコトヲ得ル會社トハ商法ニ定メラレタル合名會社合資會社株式會社株式合資會社等ヲ謂ヒ社團トハ組合又ハ協會等ノ如キ人ノ團體ヲ云ヒ財團トハ共有財産又ハ破産財團ノ如キ物ノ團體ヲ云フ

**第十五條** 生徒、雇人、營業使用人、職工、習業者其他性質上一定ノ地ニ永ク寓在ス可キ者ニ對スル財産權上ノ請求ニ付テノ訴ハ其現在地ノ裁判所ニ之ヲ起スコトヲ得兵役義務履行ノ爲メノミニ服役スル軍人軍屬ニ對シテハ其兵營地若クハ軍艦定繫所ノ裁判所ニ前項ノ訴ヲ起スコトヲ得

**註疏** 本條以下ハ特別裁判籍ニ付テノ規定ナリ特別裁判籍ハ聽許的規定ナルヲ以テ原告タル者普通裁判籍ニ起訴スルト特別裁判籍ニ起訴スルトハ其選擇ニ任ス

性質上一定ノ地ニ永ク寓在スヘキモノトハ或ル地ニ永ク寓在スルコトヲ要スレドモ其所謂永ク寓在スルトハ實際其地ニ在住スルヲ要スルニアラズシテ性質上其地ニ永ク寓在スベキコトヲ要スルノ謂ナリ卽チ生徒ノ如キハ修學ノ爲メ某地ニ永ク寓在スベキ性質ノモノニシテ雇人、職工、習業者ノ如キ亦然リ要スルニ一定ノ地ニ永ク寓在スベキ目的アルヲ以テ乃チ足レリトス故ニ其實際ハ某地ニ二十日若クハ三十日寓在シタルニ過ギズト雖モ永ク寓在スベキ性質ノ者ニシテ此目的サヘアルアレバ本條ノ規定ヲ妨ゲズ又其寓在スルハ必ズシモ繼續スルヲ要セズ例ヘバ生徒ノ如キ者ハ暑中休暇ノ間ニ諸所ニ旅行スルコトアルモ再歸ノ目的ヲ有スルモノナルヲ以テ其寓在ニ間隙アルモ本條ノ規定ニ毫モ影響ヲ及ボサズ之ニ反シ永ク寓在スルノ目的ナキ夫ノ行商ノ如キ見物旅人等ノ如キハ此ニ屬スルモノニ非ザルナリ

**財産權上ノ請求ニ付テノ訴トハ債權又ハ扶養ノ義務等ヨリ生ズル總テノ請求ヲ云フモノニシテ夫ノ婚姻、禁治産事件ノ如キ人事、分限ニ關スルモノハ財産權上ノモノニ非ザルガ故ニ人事訴訟手續法上ノ訴ニ屬スベキモノタリ**

第二項兵役義務履行ノ爲メノミニ服役スル軍人軍屬ニハ何故ニ其現在地ヲ以テ特別裁判籍トシ財産權上ノ訴ヲ此地ニ起スコトヲ許サヽルヤト云フニ元來兵卒ノ如キ者ハ多クハ兵營地又軍艦定繫所ニ在ルヲ通常トスレドモ演習等ノ爲メ不時ニ其地ヲ離ルヽコト往々之レアリ故ニ若シ現在地ヲ以テ裁判籍ト爲シ以テ此ニ財産權上ノ訴ヲ起スベキモノトセバ海軍軍人ノ海上ニ在リ陸軍軍人ノ原野ニ在ルトキニ當リテハ其海上又ハ原野ヲ以テ裁判籍トセザルヲ得ザルガ如キ實際上ノ不都合ヲ惹起スルコトナシトセズ之レ現在地ト定メズシテ兵營地又ハ軍艦定繫所ヲ以テ特別裁判籍ト爲シタルナリ

**第十六條** 製造商業其他ノ營業ニ付直接ニ取引ヲ爲ス店舗ヲ有スル者ニ對シテハ其店舗所在地ノ裁判所ニ營業上ニ關スル訴ヲ起スヿヲ得

前項ノ裁判籍ハ住家及ヒ農業用建物アル地所ヲ利用スル所有者、用益者又ハ賃借人ニ對スル訴ニ付テモ亦之ヲ適用ス但此訴カ地所ノ利用ニ付テノ權利關係ヲ有スルトキニ限ル

**註疏** 本條第一項ニ云ヘル店舗トハ其本店ナルト支店ナルトニ拘ハラズ直接ノ取引ヲ爲スモノヲ云フ其所謂支店ナルモノハ主人ノ名義ヲ以テ支配人若クハ番頭之ヲ支配シ殆ンド獨立スルモノト異ナルナキヲ以テ獨立シテ訴ヲ起スコトヲ得ルモノトス又營業上ニ關スル訴トハ例ヘバ賣買其他ノ契約ヨリ生ズル訴商品仕入諸入費其他ノ立替若クハ製造請負ノ契約等ヨリ發生スル所ノ訴ノ如キヲ云フ

第二項ニ於テ前項ノ裁判籍ト云ヘルハ店舗ノ所在地ヲ稱スレドモ農業上ニ付テハ店舗ナキヲ以テ茲ニ前項トアルハ即チ農業上ノ管理ヲ爲ス所ノ裁判籍ト云ヘル意ナリトス而シテ住家及ヒ農業用建物アル地所ヲ利用スルトハ住家及ヒ農業用建物アル地所ヲ利用スルコトハ現實ナラザルベカラズ即チ其地所ニ住家及ヒ農業用建物アルコトヲ要スルナリ而シテ此ニ其建物ハ少クモ農業上ノ管理所ヲ謂ヒ唯々夫ノ農具所在ノ場所ヲ謂フニ非ズ何故ニ住家及ヒ農業上建物ノ地ヲ此ニ規定シタルヤ之レ他タシ住家及ヒ農業上ノ建物アルニ依リテ其他ニ關スル農業上ノ事柄ハ他ヨリノ管理ヲ受ナズ獨立ノ狀態ヲ顯ハシ恰モ住所ノ如クナルヲ以テ假リニ之ヲ住所ト看做シ以テ之ガ起訴ヲ許シタルニアリ故ニ住家ノミアリテ農業上ノ建物ナク又ハ農業上建物アリテ住家ナキトキハ起訴スルコトヲ得ズ

**第十七條** 內國ニ住所ヲ有セサル債務者ニ對スル財産權上ノ請求ニ付テノ訴ハ其財産又ハ訴ヲ爲シテ請求スル物ノ所在地ノ裁判所ニ之ヲ起スコトヲ得債權ニ付テハ債務者(第三債務者)ノ住所ヲ以テ其財産ノ所在地トス又債權ニ付物ヲ擔保ノ責ヲ負フトキハ其物ノ所在地ヲ以テ財産ノ所在地トス

**註疏** 內國ニ住所ナキ者ガ其現在地ノ知レザルトキハ最後ノ住所ヲ以テ裁判籍トスト雖

然レモ未ダ內國ニ於テ一度モ住所ヲ有セザリシ者ニ對シテハ訴ヲ起スヲ得ザルベシサレバ這般ノ消息ニ處スル規定ノ必要ナルハ言ヲ要セズ之レ本條ニ財產又ハ物ノ所在地ヲ以テ特別ノ裁判籍ト爲シタルニアリ乃チ請求スル所ノ物ガ內國ニアリ且之ニ對シテ訴ヲ起シタルトキ此ニ權利ヲ得ルコトアランカ其物ヲ得又ハ金錢ノ債權ノ訴ヲ起シ其權利ヲ得ル場合ニ於テ債務者ノ財產ガ內國ニアルトキハ之ヲ賣却セシメ以テ金錢ヲ得ルニ依リテ其目的ヲ達スルヲ得ン

又其財產又ハ訴ヲ爲シテ云々トアル財產中ニハ物權債權版權及ビ特許權等ノ如キモ亦之ヲ包含ス而シテ夫ノ相續權ハ財產ニ非ザルヲ以テ此ニ屬セザルベシ何トナレバ相續權ハ唯財產ヲ將來ニ取得スベキ原因ニ過ギザレバナリ

訴ヲ爲シテ請求スル物トハ訴訟ノ目的物ヲ云フサレバ其訴求セラルヽ物ハ被告ノ財產ナルト否トニ拘ハラザルモノトス若シ原告ガ其保管物ヲ取戻サントスルトキハ其物ハ被告ノ財產ニ非ザルコトアルベシ是ヲ以テ本條ニ於テハ故ラニ訴ヲ爲シテ請求スル物ト云ヘル廣キ意味ノ文字ヲ使用シタルナリ

財產權上ノ請求ニ付テノ訴ハ其財產ノ所在地又ハ訴ヲ起シテ請求スル物ノ所在地ナルヲ以テ其物タルヤ必ズ有形物タラザルベカラズ從テ債權ノ如キ無形物ニ付テハ特別ニ之ガ規定ヲ設クルノ必要アリ是ヲ以テ本條ニ債權ニ付テハ債務者(第三債務者)ノ所在地ヲ以テ其財產ノ所在地ト爲スト云ヒ以テ第三債務者ノ住所ヲ以テ財產ノ所在地ト定メ又物ガ擔保ノ責ヲ負フトキハ其物ノ所在地ヲモ亦財產ノ所在地ト爲スナリ

**第十八條** 契約ノ成立若クハ不成立ノ確定又ハ其履行若クハ銷除廢罷解除又ハ其不履行若クハ不十分ノ履行ニ關スル賠償ノ訴ハ其訴訟ニ係ル義務ヲ履行ス可キ地ノ裁判所ニ之ヲ起スコトヲ得

**註疏** 契約ノ成立若クハ不成立ノ確定トハ此契約ノ成否ニ付豫メ訴ヲ起シテ之ヲ確定スルニ非ザレバ原告ニ於テ利害ノ關係アルノ場合ニ起ス訴ナリ例ヘバ甲ハ乙ヨリ或ル物ヲ貸與ヘラレタリトシ乙ハ貸與ヘタルニ非ズト主張スルトキハ甲ハ先ヅ自己ノ權利ヲ確定スルニ非ザレバ自己ニ損害アルベキヲ以テ貸借契約ノ成立ヲ確定セシムル爲メ訴ヲ起スベク又乙ニ損害アルトキハ貸借契約ノ不成立ヲ確定セシムル爲メ訴ヲ爲スガ如シ銷除廢罷、解除等ノ訴ハ總テ契約上ノ效力ヲ失ハシムルモノニシテ此區別ハ民法ニ依リテ定マルモノトス

**第十九條** 會社其他ノ社團ヨリ社員ニ對シ又ハ社員ヨリ社員ニ對シ其社員タル資格ニ基ク請求ノ訴ハ其會社其他ノ社團ノ普通裁判籍アル地ノ裁判所ニ之ヲ起スコトヲ得

**註疏** 本條ハ會社其他ノ社團ノ社員タル資格ニ基ク請求ノ訴ヲ爲ス場合ニ於ケル特別裁

判籍ヲ規定シタルモノナリ

**第二十條** 不正ノ損害ノ訴ハ責任者ニ對シ其行爲ノ有リタル地ノ裁判所ニ之ヲ起スコトヲ得

註疏 不正ノ損害トハ民法ニ所謂不法行爲ニシテ即チ故意又ハ過失ニ因リテ他人ノ權利ヲ侵害シタル者ハ其權利侵害ヨリ生ズル損害ヲ賠償スルノ義務アルモノトス斯ル訴ハ其侵害者ノ普通裁判籍ニ起訴スベキハ勿論ナレ𪜈原告タル者其侵害行爲ノアリタル地ニ起訴セント欲スル𪜈ハ是亦本條ノ規定ニ從ヒ特別裁判籍トシテ起訴スルコトヲ得ベシ

**第二十一條** 辯護士又ハ執達吏ノ手數料及ヒ立替金ニ付其委任者ニ對スル訴ハ訴訟物ノ價額ノ多寡ニ拘ハラズ本訴訟ノ第一審裁判所ニ之ヲ起スコトヲ得

註疏 本條ハ辯護士及ヒ執達吏ノ手數料又ハ立替金例ヘバ辯護ノ報酬、送達ノ報酬又ハ訴訟ニ付必要ナリシ郵便電信料及ヒ運賃等ノ如キモノニ付委任者ニ對シテ訴ヲ起ス場合ノミニ適用スルモノニシテ委任者ヨリ辯護士又ハ執達吏ニ對スル損害賠償等ノ訴ハ茲ニ屬スルモノニ非ザルナリ蓋シ本訴訟ノ第一審裁判所ニ起訴スルコトヲ許シタル規定ノ精神ハ委任者ノ爲メ訴訟行爲ヲ爲スニ付テ生ジタルモノナルガ故ニ其訴訟ト相牽連シ訴ノ正否ヲ審査スルニ當リ本訴訟書類ニ依ルトキハ其審査至テ容易ナルノ便宜ニ依ルモノニ外ナラズ之ニ反シテ夫ノ委任者ヨリ辯護士等ニ對スル損害ノ訴ニ至リテハ其裁判所ニアル訴訟書類ニ依ルモ之ヲ明知スルコト能ハズ之レ本條ニ委任者ヨリ辯護士又ハ執達吏ニ對スル損害賠償ノ訴ヲ爲スヲ得ルコトヲ規定セザルアリ

而シテ手數料及ヒ立替金ハ控訴審若クハ上告審ニ於テ生ジタルニセヨ本訴訟ノ第一審裁判所ニ起訴スベキヤト云フニ無論第一審裁判所ニ起訴スベキモノニテ其理由ハ訴訟記錄ヲ第一審裁判所ニ保全スベキ規定ナルガ故ニ右述ベタル如ク審査上ノ便宜ヲ得ルヲ以テナリ

**第二十二條** 不動産ニ付テハ其所在地ノ裁判所ハ總テ不動産上ノ訴殊ニ本權幷ニ占有ノ訴及ヒ分割幷ニ經界ノ訴ヲ專ラニ管轄ス

地役ニ付テノ訴ハ承役地所在地ノ裁判所專ラニ之ヲ管轄ス

註疏 本權ノ訴トハ原告タル者ガ權利ノ基本ニ依リ其權利ノ毀損ヲ訴フルモノトス例ヘバ不動産ノ所有者ガ其所有ヲ妨害セラレタル場合ニ於テ右ノ不動産ヲ現ニ占有スル者ニ對シテ其不動産取戻ヲ訴フルノ類是ナリ占有ノ訴トハ權利ノ基本ヲ外形上ノ點ヨリ訴フルモノニシテ原告ガ何レノ權利ニ基キテ占有者タルニ拘ハラズ眞實ニ事實上訴訟物ヲ占有スルヤ否ヤヲ問題トシテ起ス訴ナリ例ヘバ占有保全、占有保持又ハ占有回收ノ訴ノ如シ

分割ノ訴トハ共有物ヲ分割スル訴ヲ云ヒ經界ノ訴トハ相隣者境界地ノ確定ヲ求ムル訴ヲ云フ

訴ヲ專ラニ管轄ストハ專屬裁判籍ノ義ニシテ此專屬裁判籍アル場合ニ於テ其事件ニ付他ノ裁判所ニ訴ヲ起ストキハ被告ハ管轄違ノ抗辯ヲ爲スヲ得ルノミナラズ裁判所モ亦之ニ因リテ管轄違ノ宣言ヲ爲スベキナリ

第二項地役ニ付テハ承役地ヲ以テ其裁判籍ト定メタルハ承役地ハ實ニ要役地ヨリ利害ノ關係大ナルヲ以テナリ

本條及ヒ次條ハ不動產上ノ訴ニ付特ニ之ガ裁判籍ヲ設ケタルモノトス其之ヲ設ケタル理由ハ蓋シ第一不動產ヲ尊重ニ取扱ヒ第二不動產ハ登記簿ニ登記シアルヲ以テ其不動產所在地ノ裁判所ニ起訴スルトキハ最モ明確ナルヲ得ベキヲ以テナリ

**第二十三條** 不動產上ノ裁判籍ニ於テハ債權ノ擔保ヲ爲ス從タル物權ニ基ク不動產上ノ訴ニ附帶シテ同一被告ニ對スル債權ノ訴ヲ起スコトヲ得

不動產上ノ裁判籍ニ於テハ不動產ノ所有者若クハ占有者ニ對スル人權ノ訴又ハ不動產ニ加ヘタル損害ノ訴ヲ起スコトヲ得

註疏　不動產上ノ裁判籍トハ前條ニ規定シタル裁判籍ヲ云ヒ債權ノ擔保ヲ爲ス從タル物權トハ民法ニ定メタル不動產質抵當權ノ如キ是レナリ

同一被告ニ對スル債權ノ訴トハ例ヘバ不動產質ノ基ク債權其モノヽ訴卽チ債權ニシテ之ガ爲メ不動產質ノ設定ヲ爲シタルモノニ限リ且物權ノ訴ト同時ニ其裁判籍ニ起ストキニ限ルナリ

損害ノ訴トハ不法行爲ニ係ルト否トヲ問ハズ總テ不動產ニ加ヘタル損害ヲ賠償セシムル訴ヲ云フナリ例ヘバ低地ノ所有者ガ高地ヨリ崩落スル土石ノ通過ヲ防遏シ爲メニ高地ノ所有者ニ或ル損害ヲ與ヘタルトキノ如シ

**第二十四條** 相續權、遺贈其他死亡ニ因リテ效果ヲ生スル處分權ニ基ク請求ノ訴ハ遺產者死亡ノ時普通裁判籍ヲ有セシ裁判所ニ之ヲ起スコトヲ得

相續裁判籍ニ於テハ遺產債權者ヨリ遺產者又ハ相續人ニ對スル請求ノ訴ヲ起スコトヲ得但遺產ノ全部又ハ一分カ其裁判所ノ管轄區內ニ存在スルトキニ限ル

註疏　遺產者死亡ノ時普通裁判籍ヲ有セシ裁判所ニ本條第一項ノ訴ヲ爲スコトヲ得セシメタル理由ハ此遺產者死亡ノ當時普通裁判籍ニ於テ遺產ノ處分ヲ爲スヲ通例トスルヲ以テ之ヨリ生ズル所ノ訴ヲ其他ノ裁判所ニ於テ裁判セシメンカ頗ル便利ニシテ且確實ナリ

バナリ相續權ニ基ク請求ノ訴ハ例ヘバ相續人ガ相續ニ因リ遺產所持人ニ對シテ其遺產ノ引渡ヲ求ムル訴ノ如キヲ謂ヒ遺贈ニ基ク請求ノ訴ハ遺言ノ場合ニ於テ其之ヲ受クル者即チ受遺者ヨリ相續人ニ對スル訴ノ如キヲ云ヒ遺產者死亡ノ時普通裁判籍ヲ有セシ裁判所トハ遺產者死亡ノ當時ニ於テ有セシ住所又ハ現在地ノ裁判所ヲ云フ

第二項ノ但書ヲ設ケタルハ第一項ハ遺產其物ニ關スル訴ナレドモ第二項ハ人ニ對スル訴ナルヲ以テノ故ナラン

## 第二十五條　第二十二條ノ規定ヲ除ク外原告ハ數箇ノ管轄裁判所ノ中ニ就キ選擇ヲ爲スコトヲ得

註疏　本條ハ原告ガ裁判管轄ノ選擇權ヲ定メタルナリ第二十二條ヲ除クノ外トアル所以ハ第二十二條ハ專屬裁判籍ナルガ故ナリ而シテ此選擇ハ選擇ヲ爲シタルトキハ他ノ裁判所ニ起訴スルノ權ヲ失フモノニアラズ故ニ選擇シタル裁判所ノ訴ヲ取下ゲ更ニ他ノ管轄裁判所ニ起訴スルコトヲ得ベシ尤モ選擇シタル裁判所ニ權利拘束ノ效力ヲ生ジタルトキハ其裁判所ニテ審理スルヲ得ザルベシ

# 第三節　管轄裁判所ノ指定

註疏　本節ノ規定ハ事物及ビ土地ノ管轄ニ關スル指定ナリ凡ソ法律上裁判管轄ナルモノハ實際之ヲ適用ス時ニ當リ往々不都合ヲ生ズルコト勢ノ免レザル所ニシテ立法上此等ノ欠點ヲ補充スル方法ヲ定ムルヲ要ス卽チ其方法ハ他ニアラズ唯此等ノ場合ニ於テハ上級裁判所ハ當事者ノ求ニ因リテ下級裁判所ヲ指定スルコト是ナリ民事訴訟上ニ於テ上級裁判所ガ管轄ヲ定ムベキモノハ次條ニ於テ之ヲ規定シ第二十七條ニ其手續ヲ定メタリ

## 第二十六條　管轄裁判所ノ指定ハ裁判所構成法ニ定メタル場合ノ外尙ホ不動產上ノ裁判籍ニ訴ヲ起スヘキ場合ニ於テ不動產カ數箇ノ裁判所ノ管轄區內ニ散在スルトキモ亦之ヲ爲ス

註疏　裁判所構成法ニ定メタル場合トハ仝法第十條ノ場合ニシテ而シテ本條ハ右ノ外民事訴訟ニ於テ不動產上ノ裁判籍ニ訴ヲ起スニ當リ其目的物ガ數個ノ裁判所管轄區內ニ散在スルトキモ亦上級裁判所ガ管轄裁判所ヲ指定スルノ權アルコトヲ定メタリ之レ他ナシ不動產ニ付テハ專屬裁判籍ノ設アルガ故ニ原告ハ第二十五條ノ規定ニ從ヒ其數個ノ裁判所ニ就キ選擇スルコト能ハザレバナリ

## 第二十七條　管轄裁判所ノ指定ニ付申請ヲ爲ス場合及ビ其決定ヲ爲ス裁判所ハ裁判所構成法第十條ノ規定ニ從フ

註疏　本條ハ管轄裁判所ノ指定ニ付申請ヲ爲スベキ場合ハ何レノ裁判所ニ爲スベキヤ又其決定ハ何レノ裁判所之ヲ爲スベキヤヲ定メタルナリ裁判所構成法第十條ノ規定ニ從フ

トキハ各裁判所ヲ併セテ管轄スル直近上級ノ裁判所裁判權ヲ有スルヲ以テ其指定ノ申請並ニ決定モ直近上級ノ裁判所ニ之ヲ爲スベキモノトス

**第二十八條** 管轄裁判所ノ指定ニ付テノ申請ハ書面又ハ口頭ヲ以テ其申請ニ付管轄權ヲ有スル裁判所ニ之ヲ爲スコトヲ得

右裁判所ハ口頭辯論ヲ經スシテ其申請ヲ決定ス

管轄裁判所ヲ定メタル決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

**註疏** 管轄權ヲ有スル裁判所トハ即チ前條ノ各裁判所ヲ併セテ管轄スル直近上級ノ裁判所トス申請ニ付決定ヲ爲スニ口頭辯論ヲ必要トセザル所以ハ申請ノ目的タルヤ唯訴訟ニ付一ノ管轄裁判所ヲ定ムルコトヲ欲スルニ過ギザルヲ以テ何レノ裁判所ガ其管轄トナルモ申請者ニ取リテ利害ノ關係ナキガ爲メナリサレバ一旦決定アリタルトキハ不服ヲ申立ルコトヲ許スノ必要ナキヲ以テ末項ノ規定アリ

## 第四節 裁判所ノ管轄ニ付テノ合意

**註疏** 本節ハ裁判管轄ノ合意ニ付テ定メタルナリ夫レ裁判管轄ノ合意ハ獨リ事物ノミナラズ土地ニ付テモ亦之ヲ許スヲ以テ區裁判所ノ相互例ヘバ甲ノ區裁判所ノ管轄ヲ乙區裁判所ノ管轄ニ、及ビ地方裁判所ノ相互例ヘバ甲地方裁判ノ管轄ヲ乙地方裁判所ノ管轄ニ爲スガ如キハ勿論假令區裁判所ノ管轄ニ屬スル事件ト雖モ之ヲ第一審ナル地方裁判所ノ管轄ト爲スコトヲ得ルナリ蓋シ地方裁判所ト區裁判所トハ固ト同種ニ非ザルモ其地方裁判所タルト區裁判所タルトヲ問ハズ均シク第一審ノ爲メニ設ケタル裁判所タレバナリ然レモ第二審以上ハ法定管轄ノ變更ヲ許サズ若シ之ヲ許ストキハ法律上上訴ノ制ヲ設ケタル立法ノ精神ヲ破却スルニ至ル憂アリ

**第二十九條** 第一審裁判所ハ當然管轄權ヲ有セサルモ當事者ノ合意ニ因リ管轄權ヲ有ス但書面ヲ以テ合意ヲ爲シ且其合意カ一定ノ權利關係及ビ其權利關係ヨリ生スル訴訟ニ係ルトキニ限ル

**註疏** 第一審裁判所トハ區裁判所又ハ第一審タル地方裁判所ヲ謂ヒ當事者ノ合意ニ因リ管轄權ヲ有ストハ第一審裁判所ハ法定ノ管轄權ナキモ當事者ノ合意アルトキハ管轄裁判所ト爲ルトノ義ナリ然レモ當事者ノ合意アルトキハ何時ニテモ管轄ナルヤト云フニ之ニハ一ノ制限アリ即チ裁判所ガ合意アリタルコトヲ明知スルコトヲ得ルガ爲メニ書面ヲ以テ合意ヲ爲シ且其合意ハ一定ノ權利關係及ビ其權利關係ヨリ生ズル訴訟ナラザルベカラズ例ヘバ甲者ガ乙者ニ千圓ノ貸金アリ之ヲ請求スル爲メ又ハ其貸借事件ヨリ生ズル權利關係即チ擔保ノ請求ヲ爲ストキノ如シ只漫然甲乙間ノ紛擾ノ總利關係ハ某裁判所ヲ以テ管轄トスト云ヘル如キ合意ハ無效ナリ若シ此制限ヲ加ヘザルトキハ其合意ヲ爲シタル

者ノ間ニ起ル訴訟ニハ法律上ノ裁判籍存セザルニ至リ爲メニ法律ガ裁判籍ヲ定メタル主旨ニ背反スルニ至ルベシ

**第三十條** 被告カ管轄違ノ申立ヲ爲サスシテ本案ノ口頭辯論ヲ爲ストキハ亦前條ト同一ノ效力ヲ生ス

註疏 法律ガ管轄ノ合意ヲ爲スニ書面ニ依ルベキヲ定メタルハ蓋シ裁判所ヲシテ其合意アリタルコトヲ知ラシメンガ爲メナリ然ルニ原告ガ管轄違ノ裁判所ニ起訴スルトキハ即チ原告自身ハ其裁判所ノ審理ヲ受ケント欲スル意思ヲ表示スルモノナレ𪜈被告ガ果シテ原告ノ表示ニ同意スルヤ否ヤハ未タ知ルベカラズ去レバ被告ハ其表示ニ不同意ナルトキハ口頭辯論ノ際管轄違ノ申立ヲ爲スヲ得ベシ然レ𪜈若シ其申立ヲ爲サズシテ本案ノ辯論ヲ爲ストキハ被告モ亦原告ノ表示ニ滿足ヲ表シタルモノト看做スヲ得ベシ之レ法律ガ本條ヲ設ケ前條ト同一ノ取扱ヲ爲ス所以ナリ

**第三十一條** 左ノ場合ニ於テハ第二十九條及ヒ第三十條ノ規定ヲ適用セス

第一 財産權上ノ請求ニ非サル訴訟ニ係ルトキ

第二 專屬管轄ニ屬スル訴ナルトキ

註疏 本條ハ管轄ノ合意ヲ許サヽルモノヲ示シタルナリ財産權上ノ請求ニ非ザル訴訟トハ例ヘバ婚姻事件養子縁組事件ノ如キ或ハ禁治産事件等ノ如シ專屬管轄ニ屬スル訴トハ民事訴訟法第二十二條ニ定メタル不動産上ノ裁判籍婚姻事件ニ付テハ夫ガ普通裁判籍ヲ有スル地方裁判所ニ專屬スルコト、禁治産ノ訴ニ付テハ禁治産ノ決定ヲ爲シタル區裁判所々在地ヲ管轄スル地方裁判所ニ專屬スルコト、强制執行手續ニ關スル裁判籍、督促手續ノ裁判籍、計算事件ノ準備手續ハ地方裁判所ノミニ屬スルコト等ナリ

## 第五節 裁判所職員ノ除斥及ヒ忌避

註疏 凡ソ訴訟ハ公平無私ニシテ且威權アル國家ノ機關タル裁判所之ヲ裁判ス故ニ之ガ裁判ヲ爲スベキ判事モ亦公平無私ナラザルベカラズ然レ𪜈裁判官モ人ナリ人情ノ纏綿スル所或ハ偏私ノ裁判ヲ爲サヽルナキヲ保セズ斯クテハ遂ニ裁判ノ公平無私ヲシテ空名タラシムルガ故ニ此弊ヲ救濟センガ爲メニ本節ノ規定ヲ設ケタリ

**第三十二條** 判事ハ左ノ場合ニ於テ法律ニ依リ其職務ノ執行ヨリ除斥セラル可シ

第一 判事又ハ其婦カ原告若クハ被告タルトキ又ハ訴訟ニ係ル請求ニ付當事者ノ一方若クハ雙方ト共同權利者、共同義務者若クハ償還義務者タル關係ヲ有スルトキ

第二　判事又ハ其婦カ當事者ノ一方若クハ雙方又ハ其配偶者ト親族ナルトキ但姻族ニ付テハ婚姻ノ解除シタルトキト雖モ亦同シ

第三　判事カ同一ノ事件ニ付證人若クハ鑑定人ト爲リテ訊問ヲ受クルトキ又ハ訴訟代理人タル任ヲ受クルトキ若クハ受ケタルトキ又ハ法律上代理人ト爲ル權利ヲ有スルトキ若クハ之ヲ有シタルトキ

第四　判事カ不服ノ申立アル裁判ヲ前審又ハ仲裁ニ於テ爲スニ當リ判事又ハ仲裁人トシテ干與シタルトキ但此場合ニ於テ判事ハ受命判事又ハ受託判事トシテハ職務ノ執行ヨリ除斥セラルヽコト無シ

註疏　共同權利者トハ判事又ハ其婦カ或ル原告ト共同シテ權利ヲ有シ被告ヲ相手取リ出訴スル場合ヲ謂ヒ共同義務者トハ判事又ハ其婦カ或ル被告ト共ニ義務ヲ負フ爲メ訴ヘラルヽ場合ヲ謂フ償還義務者トハ判事又ハ其婦カ被告ノ敗訴シタル時賠償スベキ責任アル地位ニ立ツ者例ヘバ手形ノ裏書ヲ爲シタル爲メ手形ノ所持人ヨリ償還請求ヲ受クル場合ノ如シ

親族トハ六親等內ノ血族、配偶者、三親等內ノ姻族ヲ云フ第三號ニ判事カ同一ノ事件ニ付證人若クハ鑑定人ト爲リテ訊問ヲ受クルトキ又ハ訴訟代理人タル任ヲ受クルトキ云々トアルハ判事自ラ證人又ハ鑑定人ト爲リ之レト同時ニ又其事件ノ裁判官トナルトキハ卽チ自己ノ供述又ハ意見ニ付自己之ヲ判斷セザルヲ得ザルノ奇觀ヲ呈スルニ至リ爲メニ大ナル弊害ヲ生ズ是ヲ以テ本號ニ之カ豫防ヲ定メタリ而シテ又其判事カ訴訟代理人トナリシ場合ニ於テモ亦同シ何トナレバ代理人ハ原告又ハ被告ニ代リテ訴訟行爲ヲ爲スモノナレバ宛カモ本人ナル原告又ハ被告ト同一ナレバナリ

第四號判事カ不服ノ申立アル裁判云々干與シタルトキトアルハ判事カ不服ノ申立アル裁判ヲ前審ニ於テ裁判スルカ又ハ仲裁判斷ヲ爲シタルトキハ同一ナル人ニ依テ同一ノ事件ヲ審理スルカ故ニ遂ニ上訴ノ目的ヲ達スル能ハザルニ至ラン之レ其判事ヲ除斥スル所以ナリ尤モ判事カ訴訟ノ取調ニ干與シタルモ裁判ヲ爲サズシテ後日ニ延バシタルトキノ如キハ其裁判ニ干與セザレバ該事件ニ對シテ不服ノ申立アリト雖除斥ノ理由トナルモノニ非ズ

第四號但書ヲ設ケタル所以ハ受命判事又ハ受託判事ハ只事實ノミヲ取調フルニ過ギザレバ假令此等ノ判事ハ不服ヲ申立テラレタル事ニ干與スルモ受命判事又ハ受託判事ノ資格ヲ以テ其權ヲ行フモノナルヲ以テ法律上除斥ノ必要ナシト云フニアリ

要スルニ本條ハ判事カ各個ノ場合ニ其職務ノ執行ヨリ除斥セラルヽモノナレバ判事タル者ハ其除斥ノ理由アリト思料スル時ハ其旨ヲ屆出デ職務ヲ行ハザルコト當然ナリ

**第三十三條**　判事カ法律ニ依リ職務ノ執行ヨリ除斥セラルヽトキ及ヒ偏頗ノ恐アルトキハ總テノ場合ニ於テ各當事者ヨリ之ヲ忌避スルコ

トヲ得

偏頗ノ忌避ハ判事ノ不公平ナル裁判ヲ爲スコトヲ疑フニ足ル可キ事情アルトキ之ヲ爲スコトヲ得

註疏　本條ハ判事ヲ忌避スルコトヲ得ベキ規定ナリ忌避トハ訴訟ノ當事者ヨリ判事ニ向ツテ其事件ノ審理裁判ニ干與セザランコトヲ求ムル申立ナリ

總テノ場合ニ於テ各當事者ヨリ之ヲ忌避スルコトヲ得トアルハ不利益ナル裁判ヲ恐ルヽ當事者ノ一方ノミナラス利益アル裁判ヲ受クルト思料シタル當事者ノ一方モ忌避スルコトヲ得セシムルモノナリ其不利益ナル裁判ヲ受クルノ恐アル者ハ當然其裁判官ヲ忌避スベシ利益ナル裁判ヲ受クルト思料シタル者ニ其裁判官ヲ忌避スルコトヲ得ルハ如何ト云フニ之レ他ナシ若シ偏頗ニ因リテ一時利益ナル裁判ヲ受クルト思料シタル者モ結局不利益ニ歸スルノ恐ナキニアラザレバナリ

第二項ニ謂フ偏頗トハ如何ナル場合ナルヤヲ明示セズ蓋シ其偏頗ノ何タルコトハ一々列載シ難キ所ナルベケレバナリ何トナレバ其所謂偏頗ヲ疑フニ足ルベキ事情ハ種々ナル場合ニ之レアリ今一例ヲ以テ之ヲ示セハ判事ガ或ル訴訟事件ニ付當事者ノ一方ニ其意見ヲ陳述シタル場合若クハ原告又ハ被告ニ利益ナル申立ヲ理由ナク排斥シタルトキノ如キ又ハ原告若クハ被告ニ特別ノ私情アル場合ノ如シ



**第三十四條**　判事カ法律ニ依リ職務ノ執行ヨリ除斥セラルヽ場合ニ於ケル判事ノ忌避ハ其訴訟ノ如何ナル程度ニ在ルヲ問ハス之ヲ爲スコトヲ得

偏頗ノ恐アル場合ニ於テハ原告若クハ被告其覺知シタル忌避ノ原因ヲ主張セスシテ判事ノ面前ニ於テ申立ヲ爲シ又ハ相手方ノ申立ニ對シ陳述ヲ爲シタル後ハ其判事ヲ忌避スルコトヲ得ス

註疏　本條第一項ハ除斥ノ理由ニ因ル忌避ノ效力ヲ示シタルモノナリ而シテ其理由ハ法律上必然生ズルモノニシテ第二項ノ忌避ノ場合ニ於ケルガ如ク當事者ノ申立ヲ要スル制限ヲ付セザルガ故ニ何時ニテモ忌避ノ申立ヲ爲スコトヲ得ルナリ何トナレバ法律上必然生ズルモノナレバナリ之ニ反シテ第二項ノ所謂忌避ハ判事ガ偏頗ヲ行フヲ疑フニ足ルベキ事情アルトキ發生スルモノ換言スレバ當事者ノ隨意ナルヲ以テ若シ其忌避スルノ權利ヲ行用セザルトキハ自ラ消滅スルモノトス去レバ判事ヲ忌避スルノ權ハ判事ノ面前ニ於テ原告ガ申立ヲ爲シ又ハ其申立ニ對シテ被告ガ陳述シタルトキハ其忌避申立ノ權ハ之ヲ拋棄シタルモノト看做シ其後ニ至リテ之ヲ申立ルコトヲ許サズ然レドモ之ニハ第三十五條第三項ニ依リテ一ノ例外アリ即チ判事ノ面前ニ於テ原告ガ申立ヲ爲シタル後偏頗ノ忌避ノ理由ヲ生シタルコト明白ナル場合ニ於テハ之ヲ許スモノトス

**第三十五條** 避忌ノ申請ハ判事所屬ノ裁判所ニ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

忌避ノ原因ハ之ヲ疏明スルコトヲ要ス忌避セラレタル判事ノ職務上ノ陳述ハ其疏明ノ用ニ充ツルコトヲ得

原告若クハ被告カ判事ノ面前ニ於テ申立ヲ爲シ又ハ相手方ノ申立ニ對シ陳述ヲ爲シタルニ其判事ニ對シ偏頗ノ忌避ヲ爲ストキハ忌避ノ原因其後ニ生シ又ハ之ヲ其後ニ覺知シタルコトヲ疏明ス可シ

**註疏** 本條ハ忌避ノ手續ヲ定メタルナリ而シテ其疏明ハ如何ナル方法ヲ以テ爲スベキヤハ第二百二十條ニ依リテ知ルコトヲ得ベキナリ其職務上ノ陳述トハ忌避セラレタル判事ガ忌避ニ對シテ職務上爲シタル答辨是ナリ而シテ其職務上ノ陳述ハ之ヲ疏明ノ用ニ充ツルコトヲ得ルトノ規定ヲ設ケタルハ判事ガ忌避ニ對シテ差出スベキ答辨書ヲ證據ノ一ト爲スコトヲ得セシメ以テ疏明ノ方法ヲ容易ナラシムルニ在リ第三項ハ唯々忌避ノ理由ガ後ニ生シタルトキハ忌避ノ原因ヲ其以前ニ主張セズト雖モ尙ホ忌避スルノ權アルコトヲ定メタルニアリ

**第三十六條** 忌避セラレタル判事合議裁判所ニ屬スルトキハ其裁判所忌避ノ申請ヲ裁判ス但忌避セラレタル判事ハ其裁判ニ參與スルヿヲ得ス

若シ其裁判所右判事ノ退去ニ因リ決定ヲ爲スコト能ハサルトキハ直近上級ノ裁判所其申請ヲ裁判ス

區裁判所判事忌避セラレタルトキハ上級ノ地方裁判所其申請ヲ裁判ス若シ區裁判所判事カ忌避ノ申請ヲ正當ナリト爲ストキハ裁判ヲ要セス

**註疏** 本條ハ忌避ノ裁判ニ關スル規定ナリ第一項第二項ハ地方裁判所以上ノ合議裁判所ニ於テ忌避ノ裁判ヲ爲ストキニ適用スベキモノニシテ右判事ノ退去ニ依リ云々トアルハ其判事ガ裁判スルコト能ハザルガ爲メニ其決定ヲ爲ス能ハズト云フ意ニアラズシテ事務章程ニ依リ判事ノ代理ヲ定メタル場合ニ於テ此代理判事モ亦差支アリテ裁判スルコト能ハザルトキヲ云フ此場合ニ於テハ決定ヲ爲シ能ハザルガ故ニ直近上級裁判所之ガ裁判ヲ爲スベキコトヲ定メタルモノトス

第三項ニ云ヘル區裁判所判事ノ數ハ其一名ナルト數名ナルトハ之ヲ問ハザルナリ區裁判所判事ニシテ忌避ノ申請ヲ正當ト認メタルトキハ之ヲ裁判スルヲ要セザルモノト規定シタルハ卽チ其手續ヲ畧シタルニ止マリ他ニ理由アルニ非ラズ

**第三十七條** 忌避ノ申請ニ付テノ裁判ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲ス

コトヲ得忌避セラレタル判事ハ先ツ申請ノ理由ニ付キ職務上意見ヲ述フ可シ

註疏　本條ハ聽許的規定ナルヲ以テ必ズシモ口頭辯論ヲ要セザルニアリ只口頭辯論ヲ經ズシテ裁判スルコトヲ得ルテフ意味ノ規定ニ外ナラズ然レドモ本法ニ於テハ重モニ當事者ノ直接ニ關係アルトキハ口頭辯論ヲ經ズシテ之ヲ爲スコトヲ得ルモノトセリ此ニ忌避セラレタル判事ガ職務上陳ブベキ意見ハ忌避ノ原因タル事實ノミニ付テノ意見ヲ述ブルニ止リ其事實ガ果シテ這般忌避ノ原因アリヤ否ヤハ裁判所ノ裁判スベキ事柄ニ屬シ決シテ一個人ナル判事ガ之ヲ裁判スベキモノニ非ザルナリ

**第三十八條**　忌避ノ申請ヲ正當ナリト宣言スル決定ニ對シテハ上訴ヲ爲スコトヲ得ス其申請ヲ不當ナリト宣言スル決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

註疏　申請ヲ正當ナリト宣言スル決定ニ對シテハ上訴ヲ許サヽルハ爲ニ當事者ヲ害セザルガ故ナリ而シテ本案ニ付テ上訴スルトキモ亦右ノ決定ニ對シテハ不服ヲ申立ルコトヲ得ズ

**第三十九條**　忌避セラレタル判事ハ忌避申請ノ完結スルマデ總テノ行爲ヲ避ク可シ然レトモ偏頗ノ爲ニ忌避セラレタル判事ハ猶豫ス可カラサル行爲ヲ爲ス可シ

註疏　本條ニ忌避セラレタル判事ハ忌避ノ申請ノ完結スルマデ總テノ行爲ヲ避クルコトヲ定メタルハ裁判ノ公平ヲ保タンガタメナリ而シテ其ノ偏頗ノ爲メニ忌避セラレタル判事ハ猶豫ス可カラザル行爲ヲ爲サヾル可カラズ否ラザレバ相手方ニ對シテ損害ヲ及ボスコトアルニ至レバナリ

**第四十條**　忌避申請ノ管轄裁判所ハ其申請アラサルモ忌避ノ原因タル事情ニ付キ判事ヨリ申出アルトキ又ハ他ノ事由ヨリシテ判事カ法律ニ依リ除斥セラル、疑アルトキモ亦裁判ヲ爲ス

此裁判ハ豫メ當事者ヲ審訊セスシテ之ヲ爲ス又其裁判ハ之ヲ當事者ニ送達スルコトヲ要セス

註疏　本條ハ原告又ハ被告ノ申立ヲ待タズシテ忌避ノ申請ニ付テノ管轄裁判所自ラ之ヲ裁判シ以テ忌避セラレタル判事ヲシテ其裁判ヲ爲サシメザルコトヲ定メタルナリ此除斥ノ原因ニ付テハ判事ガ其旨ヲ申出デタル時又ハ此申出ナキモ他ノ事由アル時例ヘバ裁判所ニ於テ其判事原告又ハ被告ト六親等内ノ親族ナルカ若クハ交情暖カナル朋友タル疑アル時ハ當事者ノ申請ヲ俟ツヲ要セズ裁判所當然其職權ヲ以テ裁判ヲ爲シ得ル者トス之ニ反シテ偏頗ノ爲ニ忌避ノ理由アル時ハ原告若クハ被告ノ申請又ハ判事ノ申出アルニアラ

サレバ假令ヒ其疑ハ存スルトモ裁判所ハ職權ヲ以テ當然其裁判ヲ爲スコトヲ得ズ

第二項ハ元來當事者ヨリ申請アリテ忌避ノ裁判ヲ爲スニアラザルガ故ニ之ガ裁判ヲ爲ス當事者ヲ訊問セズ又其事件ニ關スル裁判ヲ當事者ニ送達セザルニアリ

**第四十一條** 本節ノ規定ハ裁判所書記ニモ之ヲ準用ス但其ノ裁判ハ書記所屬ノ裁判所之ヲ爲ス

註疏 書記ノ職務モ亦重要ナルモノナルヲ以テ判事ガ法律上除斥セラレ又ハ當事者ヨリ忌避セラルベキ原因アルトキハ之レト同一ノ場合ニ於テ書記モ亦除斥又ハ忌避セラルル可キナリ然レドモ書記ナル者ハ第二百三十二條乃至第二百三十七條ノ規定ニ依リ裁判ヲ爲サヾルモノナレバ其裁判ヲ爲スコトニ關スルモノニ付テハ其規定ヲ書記ニ適用ス可カラズ

## 第六節 檢事ノ立會

註疏 本節ハ公益ニ關スル訴訟ニ付キ檢事ヲシテ其訴訟ニ立會ハシメ以テ其意見ヲ開陳セシメンガ爲メナリ

**第四十二條** 檢事ハ左ノ訴訟ニ付キ意見ヲ述フル爲メ其口頭辯論ニ立會フ可シ

第一 公ノ法人ニ關スル訴訟
第二 婚姻ニ關スル訴訟
第三 夫婦間ノ財産ニ關スル訴訟
第四 親子若クハ養親子ノ分限其他總テ人ノ分限ニ關スル訴訟
第五 無能力者ニ關スル訴訟
第六 養料ニ關スル訴訟
第七 失踪者及ヒ相續人廢欽ノ遺産ニ關スル訴訟
第八 證書ノ僞造若クハ變造ノ訴訟
第九 再審

檢事ノ陳述ハ當事者ノ辯論終リタルトキ之ヲ爲ス

當事者ハ檢事ノ意見ニ對シ事實ノ更正ノミニ付キ陳述ヲ爲スヿヲ得

註疏 本條ニ掲ゲタル訴訟ニ付テハ檢事之ニ立會ヒ以テ其意見ヲ述ベザルベカラザルハ勿論裁判所構成法第六條ニ依ルトキハ民事訴訟ニ於テ必要ナリトスルトキハ其訴訟ニ立會ヒ以テ其意見ヲ述ブルコトヲ得ルナリ、第一號ヨリ第七號マデハ民法ノ規定ニ屬スベキモノニシテ其第八九ノ兩號ハ卽チ本法中第二百五十一條及ヒ第四百六十七條以下ノ規定ニ依ルベキモノナレバ此兩條ヲ以テ知ルコトヲ得ベシ

# 第二章　當事者

**註疏**　茲ニ所謂當事者トハ原告及ヒ被告タル當事者ノミヲ指スモノニ非ラズシテ訴訟ニ關係アル第三者即チ參加訴訟人ヲモ亦之ヲ包含ス

## 第一節　訴訟ノ能力

**註疏**　訴訟能力トハ原告若クハ被告ト爲リテ訴訟ヲ爲ス能力ヲ云フ此能力ト當事者タル資格即チ自己ノ名義ニ於テ訴ヘラルヽコトヲ得ル能力トハ之ヲ區別スルコトヲ必要トス當事者タルノ資格即チ原告若クハ被告タルノ資格ハ訴訟能力ノ要件ナリ然レドモ其當事者タルノ資格ヲ有スル者ハ未タ必ズシモ訴訟能力ヲ有スル者ニアラズ例ヘバ未成年者又ハ法人ノ如キハ當事者タルノ能力アルモ訴訟能力ナキヲ以テ其訴訟ヲ爲ス者ハ法定代理人タル後見人又ハ理事ナルガ如シ而シテ其何人ガ當事者ト爲リ又ハ訴訟ノ能力者ナルヤハ民法ノ規定ニ依ラザル可カラズ

**第四十三條**　原告若クハ被告カ自ラ訴訟ヲ爲シ又ハ訴訟代理人ヲシテ之ヲ爲サシムル能力ト法律上代理人ニ依レル訴訟無能力者ノ代表ト法律上代理人カ訴訟ヲ爲シ又ハ一ノ訴訟行爲ヲ爲スニ付テノ特別授權ノ必要トハ民法ノ規定ニ從フ

**註疏**　本條ニ所謂自ラ訴訟ヲ爲シ又ハ訴訟代理人ヲシテ之ヲ爲サシムル能力トハ即チ訴訟能力ナリ即チ原告又ハ被告ガ自ラ期日ニ出頭スルカ或ハ代理人ヲ任命シテ其期日ニ出頭セシメ以テ有効ニ陳述セシムルコト是ナリ而シテ此訴訟能力ナル者ハ期日ニ出頭シテ訴訟行爲ヲ爲ス場合ニ於テノミ之ヲ要スルモノニ非ズシテ期日外ニ於テモ又其能力アルヲ要スルナリ例ヘバ訴訟無能力者ガ自ラ訴狀ヲ裁判所ニ差出スカ又ハ代理人ヲシテ之ヲ差出サシムルモ未タ以テ訴ノ提起アリタルモノト速斷スベカラズ何トナレバ訴訟無能力者ノ爲シタル行爲ハ其效ナケレバナリ其訴ノ提起ト爲サンニハ必ズヤ法律上代理人ヲシテ適法完全ナル訴狀ヲ裁判所ニ差出サシメザルベカラズ其訴訟無能力者ニ對スル送達ニ付テモ亦然リ

「法律上代理人ニ依レル訴訟無能力者ノ代表」トハ即チ前述シタル訴訟無能力者ニシテ原告又ハ被告タルノ資格ヲ有セザル者ニ付テ云ヘルモノナリ是等ノ者ハ自ラ訴訟ヲ爲スコト能ハザルヲ以テ必ズヤ法律上ノ代理人ニ依ラザル可カラズ是レ本條ニ於テ代表ト云フ語ヲ用ヒタル所以ナリ

一ノ訴訟行爲ヲ爲スニ付テノ特別授權ニ付テモ亦民法ノ規定ニ依ラザルヲ得ザルハ例ヘバ後見人ガ未成年者ノ爲メニ或ル訴訟ヲ爲スニ付キ自己ノ一量見ノミヲ以テ之ヲ爲ス能

ハズシテ其未成年者ノ同意ヲ得ルコトヲ要スル場合ノ如シ（民法第九百二十三條第二項）

**第四十四條** 外國人ハ自國ノ法律ニ從ヒ訴訟能力ヲ有セサルモ本邦ノ法律ニ從ヒ訴訟能力ヲ有スルモノナル片ハ之ヲ有スルモノト看做ス

**註疏** 本條ノ規定ハ外國ノ法律ト本邦ノ法律ト訴訟能力ヲ異ニスルトキニ於テ適用スベキ必要アルモノトス本邦ノ法例及民法ニ依レバ外國人ガ自國ノ法律ニヨリテ訴訟能力ヲ有セザル場合（例ヘバ日本ニテハ廿歳ヲ以テ成年ト爲シ訴訟能力ヲ有スルトモ外國ノ法律ニ從ヘバ廿五歳ナラザレバ其能力ナキトキノ如シ）ニ於テハ外國人ハ其國ノ法律ニ於テハ訴訟無能力者ナリト雖モ日本ニ於テハ訴訟能力者トス而シテ日本法律ニ於テハ訴訟無能力ナレドモ外國法律ニ依レバ能力者ナルガ如キ反對ノ場合アルベシ此場合如何ト云フニ是亦法例第三條ノ第一項ニ依レバ能力者トナサヽル可カラズ何トナレバ一旦取得シタル能力ハ土地ノ變更ニ依リテ消滅セザルハ一般ノ法理ナレバナリ

**第四十五條** 裁判所ハ訴訟ノ如何ナル程度ニ在ルヲ問ハス職權ヲ以テ訴訟能力、法律上代理人タル資格及ヒ訴訟ヲ爲スニ必要ナル授權ニ欠缺ナキヤ否ヤヲ調査ス可シ、裁判所ハ遲滯ノ爲メ原告若クハ被告ニ危害アリ且其欠缺ノ補正ヲ爲シ得ルモノト認ムルトキハ原告若クハ被告又ハ其法律上代理人ニ其欠缺ノ補正ヲ爲ス條件ヲ以テ一時訴訟ヲ爲スヲ許スコトヲ得此場合ニ於テ裁判所ハ欠缺補正ノ爲メ相當ノ期間ヲ定メ其期間ノ滿了前ニ判決ヲ爲スコトヲ得ス但其欠缺ノ補正ハ判決ノ接著スル口頭辯論ノ終結マテ之ヲ追完スルコトヲ得

**註疏** 本條第一項ニ裁判所ヲシテ欠缺ナキヤ否ヤヲ調査スル職權ヲ與ヘタルハ其欠缺ノ有無如何ヲ顧慮セズシテ訴訟ヲ進行シ後日訴訟能力ノ欠缺アルコトヲ發見スルトキハ乃チ其進行シタル訴訟行爲ハ無效ナルヲ以テナリ是レ裁判所ハ自己ノ爲シタル行爲ノ無效ナラザルコトニ注意セザル可カラザルニ由ル故ニ此場合ニ於テハ擧證ノ義務者ナシ去レバ判事ハ職權上其事實ノ眞正ナルヤ否ヤヲ探知セザル可カラズ然レトモ之ヲ調査スルガ爲ニ當事者ヲ使用スルハ妨ナシ而シテ此訴訟能力又ハ夫ノ法律上代理人ノ欠缺ノ抗辯ノ如キハ隨意ニ之ヲ拋棄シ能ハザル防訴抗辯ノ一ナリ去レバ終局判決前ナルト又ハ上訴審前ナルト其程度ノ如何ヲ問ハズ又其判事ノ方ニ在リテモ亦時ノ如何ニ拘ハズシテ之レガ調査ヲナスコトヲ得ル者トス

第二項ノ前段ハ前項ニ依リテ訴訟能力及ヒ法律上代理人タル資格等ノ欠缺ナキヤ否ヤヲ調査シ若シ欠缺アリテ訴訟ヲ爲スコトヲ許サヽルニ於テハ之ヲ許サヽルガ爲メニ遲滯ヲ生シ遲滯ヲ生シタルガ爲ニ危害從テ起ルベキ場合ニ於テ其欠缺ノ補正ヲ後ニ爲シ得ベシト思料スルトキ假リニ欠缺ノ補正ヲ爲シタル者ト看做シ以テ訴訟ヲ爲スコトヲ許シ得ル

コトヲ定メタルナリ而シテ其危害アル場合トハ證據保全又ハ不變期間ノ滿了前若クハ假差押假處分等ヲ云フニアリ

**第四十六條** 訴訟無能力者又ハ相續人ノ未定ノ遺産又ハ不分明ナル相續人ニ對シ訴ヲ起ス可キ場合ニ於テ法律上代理人アラサルトキハ其事件ノ繫屬ス可キ裁判所ノ裁判長ハ申立ニ因リ遲滯ノ爲ニ危害ノ恐アル場合ニ限リ特別代理人ヲ任スベシ

右申請ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得此裁判ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲シ其裁判ハ申請人ニ之ヲ送達シ又申請ヲ認許シタルトキハ其任セラレタル特別代理人ニモ亦之ヲ送達ス可シ

申請ヲ却下スル裁判ニ對シテハ抗告ヲ爲スコトヲ得

裁判長ヨリ任セラレタル特別代理人ハ法律上代理人又ハ相續人ノ出頭スルマテ訴訟行爲ニ付キ法律上代理人ノ權利及義務ヲ有ス

註疏 本條第一項ノ規定ハ元來原告ニ對スル恩典ニシテ卽チ事實上訴ヲ爲ス能ハザル者ニ向テ訴ヲ爲シ得ベキ便宜ト利益トヲ與ヘタルニ外ナラズ而シテ法律上代理人アルモ應訴スルヲ欲セザルカ又ハ被告ガ訴ノ提起後訴訟能力ヲ失フタル場合モ之レアル可シ斯ル場合ニ於テハ訴ノ送達ヲ受ク可キモノアリ又ハ訴ノ送達アリテ訴訟ハ既ニ成立シタルモノナルヲ以テ本條ヲ適用セズ又特別代理人ヲ任命スルノ必要ナシ本條ニ於テ特別代理人ヲ任命スル法律上ノ要件ハ法律上代理人アラザルコト又ハ相續人ノ定マラサルコト又ハ相續人ノ不分明ナルコト、訴ヲ起サントスルコト、遲滯ノ爲メニ危害ノ生ズベキ恐アルコトノ三要件ヲ具備セザル可カラズ而シテ代理人任命ノ權ハ之ヲ裁判所ニ與ヘズシテ之ヲ裁判長ニ委ヲタルハ其事柄タル起訴ノ前ニ係ルガ故ノミ

第二項ハ其申立ノ方法及ヒ之ヲ裁判スル方法又ハ送達ノ方法ヲ規定シタルニアリ第三項ハ法律上代理人ノ權利義務ヲ定メタルモノトス

**第四十七條** 第十五條ニ掲ケタル場合ニ於テ訴訟無能力者カ其現在地又ハ兵營地若クハ軍艦定繫所ノ裁判所ニ訴ヲ受クヘキ場合ニ於テ其法律上代理人他ノ地ニ住スルトキハ遲滯ノ爲メ危害ナシト雖モ前條ノ規定ニ從ヒ特別代理人ヲ任スルコトヲ得

此他裁判ニ對シ抗告ヲ許ス規定ヲ除ク外總テ前條ノ規定ヲ適用ス

註疏 第十五條ニ掲ケタル場合トハ卽チ生徒雇人職工習業者其他一定ノ土地ニ永ク寓在スベキ者及ヒ兵役義務履行ノ爲メノミニ服役スル軍人軍屬等是ナリ是等ノ者ノ中無能力者ニ對シテ同條ノ規定ニ依リ現在地又ハ兵營地若クハ軍艦定繫所ニ訴ヲ起ス場合ニ於テ若シ其ノ法律上代理人其地ニ住所ヲ有スルトキハ兎モ角若シ之ヲ有セザル時ニ當リテハ

訴ノ送達ハ之ヲ受訴裁判所所在地外ニ爲サヾルヲ得ザルニ至ルベシ斯クテハ原告ノ爲メニ大ナル不便ナリ是ヲ以テ本條第一項ハ前條ト同一ノ精神ニ循ヒ原告タル者ノ利益ヲ計リ其申立アルトキハ乃チ特別代理人任命ノ權ヲ裁判長ニ與ヘタリ夫レ然リ然レドモ法律上代理人ガ無能力者ヲ代表スルノ權利（即チ法廷ニ出頭シテ訴訟無能力者ノ爲メニ訴訟行爲ヲ爲スノ權）ハ此特別代理人ノ任命ノ爲メニ消滅スルモノニ非ラズ去レバ法律上代理人ガ出頭スルトキハ特別代理人ハ直チニ其訴訟事件ヲ處理スル所ノ代理權ヲ法律上代理人ニ讓リ以テ自ラ退廷セザルヲ得ザルナリ、前條ニ於テハ其第一項ニ危害ノ恐アル場合ニ限リ特別代理人ヲ任ズベシトアレドモ本條ニ於テ特別代理人ヲ任命スルニハ別ニ斯ル條件ヲ要セズ何トナレバ本條ハ固ト一ノ便宜ヲ慮リテ規定シタルガ故ノミ

第二項ニ前條ノ規定ヲ適用ストアルハ即チ前條第二項乃至第四項ノ規定ヲ指スモノナリ

詳言スレバ本條ハ法律上代理人アル場合即チ訴ヲ起シ且之ヲ送達スルヲ得ベキ場合ニ於テ特別代理人ヲ任命シ得ルノ便法ナルヲ以テ其特別代理人ヲ任命スルノ申請ヲ却下スルトモ爲メニ原告ノ利益ヲ害セズト云フニ在リ故ニ其却下ノ裁判ニ對シテハ抗告ヲ許サズ

## 第二節　共同訴訟人

**註疏**　原告又ハ被告ノ一方ガ數人ニシテ訴訟ヲ爲ストキハ一ノ手續ヲ以テ爲ス數個ノ訴訟ノ併合ニシテ之ヲ共同訴訟ト謂フ而シテ其數個ノ訴訟ヲ併合スルモ法理上其併合ノ爲メニ取扱上何等ノ影響アルモノニ非ラズ而シテ併合ノ利益ハ訴訟ノ手續ヲ簡易便捷ニシ又費用ヲ減ジ日子ヲ省クノ外仍ホ數個ノ訴訟ヲ併合シ同時ニ辯論裁判ヲ爲スニ依リ其併合シタル訴訟ニ付キ統一ノ取扱ヲ爲シテ且統一ノ判斷ヲ爲スニ在リ

抑々此共同訴訟ナルモノハ一人又ハ數人ノ原告又ハ被告ガ第四十八條ノ條件ニ循ヒ一ノ訴ヲ以テ數個ノ請求ヲ主張シ若クハ主張セラルヽモノナルガ故ニ取リモ直サズ原告ノ意思ヨリ生ズルヲ通例トス然レドモ亦原告ノ意思ニ反シテ生ズル場合アリ例ヘバ第百二十條ニ依リ裁判所ガ其職權ヲ以テ數個ノ訴ヲ併合スル場合ノ如キハ即チ是ナリ這ハ條下ニ說ク所アラン

**第四十八條**　左ノ場合ニ於テハ共同訴訟人トシテ數人カ共ニ訴ヲ爲シ又ハ訴ヲ受クルコトヲ得

第一　數人カ訴訟物ニ付キ權利共通若クハ義務共通ノ地位ニ立ツトキ

第二　同一ナル事實上及法律上ノ原因ニ基ク請求又ハ義務カ訴訟ノ目的物タルトキ

第三　性質ニ於テ同種類ナル事實上及ヒ法律上ノ原因ニ基ク同種類ナル請求又ハ義務カ訴訟ノ目的物タルトキ

**註疏** 權利共通若クハ義務共通ノ場合ハ一ノ物ニ付キ數人ガ權利又ハ義務ヲ有スル場合トス而シテ働方的ノ共同訴訟トハ例ヘバ地所ノ所有者ガ數人ノ承役地ノ所有者ニ對スル地役確認ノ訴ヲ起ス場合ノ如シ

第二號ハ同一ナル事實上及ビ法律上ノ原因ニ基ク權利又ハ義務アル場合トス此場合ハ數人ガ同一ノ事實(例ヘバ契約)及ビ同一ノ法則(例ヘバ民法ノ債權編ノ規定)ニ基キ權利又ハ義務ヲ有スルトキ即チ之ヲ債權者ノ方面ヨリ云ヘバ數人ガ同一ノ契約ヲ以テ或ル貸金ニ付テ起訴スル場合ニシテ債務者ノ方面ヨリ之ヲ云ヘバ數人ガ同一ノ契約ヲ以テ借用セル金圓ニ付キ共ニ訴ヲ受クルトキ即チ連帶義務ヲ負擔シタル場合是ナリ

第三號ハ性質ニ於テ同種類ナル事實上及ビ法律上ノ原因ニ基ク同種類ノ權利又ハ義務アル場合ハ數ケノ請求ニシテ其裁判ヲ爲スニ付キ同一若クハ類似ノ事實ヲ審査シ且同一ノ法律上ノ問題ヲ判斷ス可キ場合ナリ亦之ヲ債權者ノ方面ヨリ云フトキハ債務者及ヒ第三者ガ債權者ヲ詐害スルノ意ヲ以テ爲シタル契約ニ對シテ數人ノ債權者ガ起訴スル場合ニシテ之ヲ債務者受働的ヨリ云フトキハ例ヘバ數名ノ連帶債務者ガ同一條件ヲ以テ債務ノ消滅ヲ主張スルガ如キ場合ナリ

**第四十九條** 共同訴訟人ハ其資格ニ於テハ各別ニ相手方ニ對立シ其一人ノ訴訟行爲及ヒ懈怠又ハ相手方ヨリ其一人ニ對スル訴訟行爲及懈怠ハ他ノ共同訴訟人ニ利害ヲ及ホサス

**註疏** 凡ソ共同訴訟ナルモノハ種々ノ請求ニ付キ一個ノ手續ヲ以テ同一事實ノ辯論ヲ爲シ以テ等一ニ裁斷スルヲ目的トスト雖モ數個ノ訴ヲ併合スルモ之レ單ニ外形上ノ聯合ナルヲ以テ共同訴訟人間ニ在リテハ特別ノ關係ヲ生ズルモノニ非ザルナリ故ニ各共同訴訟人ノ行爲及ヒ懈怠ハ共ニ他ノ共同訴訟人ニ利害ノ關係ヲ及ボサズ從テ共同訴訟人ハ各自獨立シテ以テ攻擊防禦ノ方法ヲ用フルヲ得ベク相手方モ亦共同訴訟人ノ各個ニ對シテ以テ各別ニ攻擊防禦ノ方法ヲ用フルコトヲ得ベキナリ而シテ其結果ハ乃チ敢テ他ノ共同訴訟人ニ影響スル所ナキガ故ニ數人ノ原告又ハ被告中ノ一名又ハ數名ガ口頭辯論ノ期日ニ出頭セザルトキハ之ニ對シテハ欠席判決ヲ與ヘ其出頭シタル者ニ對シテハ辯論ヲ爲サシメテ裁判ヲ爲スナリ別言スレバ共同訴訟人ノ或ル者ガ出頭セザルコトアルモ他ノ者ニ對シテハ利害ノ關係之レナキヲ以テ其出頭シタル者ノ行爲及ヒ其懈怠者ノ懈怠ノ結果ハ其之ヲ爲シタル攻擊又ハ防禦ノ爲ニ消滅セズ即チ是等ノ行爲懈怠ノ結果ハ何レモ發生スルモノトス去レバ各個ノ訴訟人ガ自白等ヲ爲ストキハ他ノ者ノ陳述ガ假令ヒ之ニ反對スル所アルモ前者ノ自白ハ仍ホ有效ニシテ其者ノミヲ束縛スルノ力アリ是ヲ以テ各々其陳述ノ異ナル所アルトキハ同一ノ事件ニ付キ相抵牾スル判決ハ往々實際ニ見ル所ナリ

**第五十條** 然レトモ總テノ共同訴訟人ニ對シ訴訟ニ係ル權利關係カ合

一ニノミ確定ス可キ時ニ限リ左ノ規定ヲ適用ス

共同訴訟人中ノ或ル人ノ攻撃及ヒ防禦ノ方法（證據方法ヲ包含ス）ハ他ノ共同訴訟人ノ利益ニ於テ效ヲ生ス

共同訴訟人中ノ或ル人カ爭ヒ又ハ認諾セサル時ト雖モ總テノ共同訴訟人カ悉ク爭ヒ又ハ認諾セサル者ト看做ス

共同訴訟人中ノ或ル人ノミカ期日又ハ期關ヲ懈怠シタルトキハ其懈怠シタル者ハ懈怠セサル者ニ代理ヲ任シタル者ト看做ス

然レトモ懈怠シタル共同訴訟人ニハ其懈怠セサリシ場合ニ於テ爲ス可キ總テノ送達及ヒ呼出ヲ爲スコトヲ要ス其懈怠シタル共同訴訟人ハ何時タリトモ其後ノ訴訟手續ニ再ヒ加ハルコトヲ得

**註疏** 共同訴訟ニ於テハ權利關係ガ合一ニノミ確定スル場合アリ此場合ニ於テハ共同訴訟人間ニ於ケル雙互ノ權利關係ハ前條ニ云ヘルモノト其性質異ナルヲ以テ特別ノ規定ヲ要スルナリ而シテ前第四十九條ハ即チ各個別異ノ權利關係ヲ規定シタルモノトス然レトモ其所謂權利關係ヲ合一ニノミ確定スベキモノハ民法及ヒ其他ノ法律ニ於テ明確ニスルヲ得ベシ例ヘバ地役ハ不可分ノモノナルヲ以テ其權利關係ハ之ヲ合一ノミニ確定セザル可カラズ即チ本法第六百二十三條ニ從ヒ數人ノ債權者ガ第三債務者ニ對シテ訴ヲ起シタル場合等ナリ

第二項ハ即チ其權利關係ハ合一ノミニ確定スベキモノナルガ故ニ共同訴訟人中ノ或ル者ガ提出シタル攻擊及ヒ防禦方法ノ效力ハ他ノ共同訴訟人ノ利益ノ爲メニ之ニ其效力ヲ及ボスヘキモノナルコトヲ定メタルモノトス上訴故障等ニ付テモ亦然リ

第三項ニ於テハ本條ニ從ヒテ爲シタル裁判ハ總テノ共同訴訟人ニ向ツテ相異ナル所アルベカラズ即チ等一ナラザルヲ得ザルガ故ニ各個ノ共同訴訟人ハ隨意ニ訴訟ニ付テノ處分ヲ爲ス能ハズ去レバ其共同訴訟人中ノ或ル者ガ爭ヒ又ハ認諾スルコトアリト雖モ出頭シタル共同訴訟人ガ悉ク皆爾カスルニ非レバ即チ無效タリ而シテ共同訴訟人ノ或ル一部ガ爭ヒ又ハ認諾シテ他ノ者ガ爭ハズ又ハ認諾セザルトキハ裁判所ハ其自由ナル心證ニ因リテ裁判ヲ爲スベキモノタリ

第四項ハ本條ニ規定シタル事件ニ關シテハ區々ノ裁判ヲ爲スコトヲ得ズ故ニ訴訟行爲ヲ懈怠シタル者ハ他ノ懈怠セザル者ニ其行爲ノ代理ヲ任シタルモノト看做スガ故ニ例ヘバ出頭セザリシ者ニ對シテモ仍ホ出頭シタルモノト同一ナル效力ヲ有セシメタルナリ而シテ其共同訴訟人中ノ一人即チ原告若クハ被告中ノ一人ガ出頭スル時ハ其他ノ者ニ對シテモ亦欠席判決ヲ爲ス能ハザルヲ以テ其出頭シタル者ノ自白ハ隨テ亦欠席者ノ自白ト同一ニ看做スベキハ勿論トス

第五項共同訴訟人ハ云々再ビ加ハルコトヲ得ルトハ即チ前項ニ依リ解怠スルモ共同訴訟人ノ或ル者ガ解怠セザルトキハ解怠ノ結果發生セザルヲ以テ送達呼出及ビ其後一切ノ手續ニ加ハルノ權利ハ解怠ナキ場合ト同一ナリトノ意ヲ示シタルニアリ

## 第三節　第三者ノ訴訟參加

註疏　第三者ノ訴訟參加ハ種々ナル原因ヨリ發生ス主參加從參加告知參加指名參加是レナリ主參加ハ第三者ガ當事者ニ對シテ自己ノ權利ヲ直接ニ保持スル爲メニ爲ス參加ナイヒ從參加ハ當事者ノ一方ガ勝訴スル場合ニ於テ利害ノ關係アルニヨリ之ヲ補助スル爲メニ爲ス參加ヲ云ヒ告知參加ハ原告又ハ被告ガ勝訴スルトキハ第三者ニ對シ擔保又ハ賠償ノ請求ヲ爲シ得ベシト信ジ又ハ第三者ヨリ請求ヲ受クルノ恐レアルニ因リ第三者ニ訴訟ヲ告知スルニ因リテ爲ス參加ナイヒ指名參加ハ被告ガ第三者ノ名義ヲ以テ訴訟物ヲ占有シ其第三者ヲ指名スルニ因リテ爲ス參加ヲ謂フナリ

**第五十一條**　他人ノ間ニ權利拘束ト爲リタル訴訟ノ目的物ノ全部又ハ一分ヲ自己ノ爲ニ請求スル第三者ハ本訴訟ノ權利拘束ノ終ニ至ルマテ其訴訟カ第一審ニ於テ繫屬シタル裁判所ニ當事者雙方ニ對スル訴(主參加)ヲ爲シテ其請求ヲ主張スルコトヲ得

第三者カ原告及ヒ被告ノ共謀ニ因リ自己ノ債權ニ損害ヲ生スルコトヲ主張スルトキモ亦同シ

註疏　主參加人ノ請求スル目的物ハ其物權若クハ人權ニ因ルヲ問ハズ或ハ財產權上ノ訴若クハ非財產權上ノ訴タルトニ拘ハラズ主參加人ノ請求スル目的物ガ本訴訟ノ目的物ト同一ナルコトヲ要スルナリ而シテ其權利拘束ノ終ト云ヘルハ訴訟完結ノ時ヲ云フ權利拘束ノ效力ハ訴狀ノ送達ヲ以テ始マルコト第百九十五條ニ明ナリ去レバ上訴又ハ故障ヲ以テ不服ヲ申立ツルコトヲ得ルノ間ハ參加ヲ爲シ得ルヤ明カナリ加之夫ノ假執行ノ宣言ヲ付シタル判決アルモ其參加シ得ルニ至テハ則チ相同シトス故ニ判決ノ確定スルニ因リ權利拘束ノ終ヲ告グルヲ以テ通例トハナセルナリ

其訴訟ガ第一審ニ於テ繫屬シタル裁判所云々トハ此主參加ハ他ノ訴訟ノ權利關係トナリタルトキ起ス訴ナレドモ主參加ハ固ト獨立ナル訴ニシテ本訴訟ヲ以テ主張セラレタル請求ト相牽連スル者ナルガ故ニ本訴訟ノ繫屬スル裁判所ニ起訴スルコトヽハ爲セシナリ而シテ此主參加ノ爲メニ設ケタル裁判所ハ特別ニシテ且ツ繫屬裁判籍ナルヲ以テ他ノ裁判籍ニ屬セシメザルニアリ

訴訟ガ第一審ニ於テ繫屬シタル裁判所ハ本訴訟ノ初メテ繫屬シタル裁判所ナリ依テ裁判ヲ爲スベキ又ハ既ニ之ヲ爲シタル裁判所トス反言スレバ訴訟ガ第一審ニ繫屬シタルト上

級審ニ繫屬シタルトキハ問ハズ第一審ノ裁判所ハ是レ管轄ノ裁判所ナリ何トナレバ主參加ノ訴ハ乃チ獨立スル新訴ナレバナリ

主參加ハ實ニ獨立ノ訴訟ニシテ中間ノ訴訟ニ非ラズ則チ普通ノ訴訟ト異ナルコトナシ茲ヲ以テ第百九十條ノ規定ニ因リ訴狀ヲ作成シ當事者雙方ヲ共同訴訟人ト爲シテ訴ヲ起スヲ必要トス而シテ其所謂「當事者」トハ夫ノ第五十六條ニイヘル權利關係ヲ合一ノミニ確定スベキ共同ノ被告ヲ云フナリ例ヘバ甲乙二人或ル物件ノ所有ヲ爭フニ當リ第三者ナル丙其中ニ投ジ其或ル物件ヲ以テ自己ノ所有ナルコトヲ主張スル場合ノ如キハ卽チ主參加ヲ起ス場合ノ一例トス

第二項ハ當事者タル原被ガ第三者ノ債權ニ向ツテ或ル損害ヲ生セシムルノ目的ニ因リ訴訟ヲ爲ス場合ニ於テハ其第三者ノ訴訟ノ目的物ハ假令ヒ直接ニ之ヲ請求セズト雖モ性質上訴訟ノ目的物ヲ請求スルトキト同一視スベキモノナルガ故ニ此主參加ノ方法ヲ以テ其本訴訟ヲ攻擊スルコトヲ得ルノ規定ヲ設ケタルニアリ

**第五十二條** 本訴訟ハ第一審ニ繫屬スルト上級審ニ繫屬スルトヲ問ハズ原告被告若クハ主參加人ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ主參加ニ付テノ權利拘束ノ終ニ至ルマテ之ヲ中止スルコトヲ得

中止ノ申請ハ書面又ハ口頭ヲ以テ本訴訟ノ繫屬スル裁判所ニ之ヲ爲スコトヲ得

決定ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得

中止ヲ命スル決定ニ對シテハ卽時抗告ヲ爲スコトヲ得

**註疏** 本條ハ本訴訟ノ審理裁判共ニ中止ノ手續ヲ定メタルナリ抑主參加ノ訴ヲ爲シタルトキハ訴訟ノ併合ヲ得ルト雖モ本訴訟ガ上級審ニ繫屬スルトキニ在リテハ乃チ之ヲ併合スル能ハザルヤ勿論ナリ又假令ヒ併合シ得ト雖モ特ニ本訴訟ノミヲ中止スルノ必要アルコトアリ故ニ當事者ノ申立アルトキハ本訴訟ハ之ヲ中止シ又其申立ナキトキニ在リテモ職權ヲ以テ第百二十一條ノ場合ニ之ヲ中止スルコトヲ得ベキナリ

中止ノ申請ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スベク若シ中止ヲ命ズル決定アリタルトキハ七日ノ不變期限內ニ卽時抗告ヲ爲スヲ得ベシ

**第五十三條** 他人ノ間ニ權利拘束ト爲リタル訴訟ニ於テ其一方ノ勝訴ニ依リ權利上利害ノ關係ヲ有スル者ハ訴訟ノ如何ナル程度ニ在ルヲ問ハズ權利拘束ノ繼續スル間ハ其一方ヲ補助(從參加)スル爲メ之ニ附隨スルコトヲ得

**註疏** 從參加ハ第三者ガ本訴訟ノ裁判ニ依リ自己ノ權利ヲ侵害セラルヽ恐アル場合ニ於テ當事者ノ一方ニ參加シ以テ勝訴セシメンガ爲メニ補助スルトキニ發生スルモノナリ故

ニ從參加人タル者ハ獨立スル原告若クハ被告ニ非ズ又當事者一方ノ共同訴訟人ニモ非ズシテ乃チ訴訟ノ補助人ナリ而シテ其從參加アル場合ト雖モ訴訟ニ於ケル裁判ハ主タル原告及ヒ被告ノ權利關係ニ付テノミ之ヲ爲スモノトス去レバ此從參加人ハ其自ラ補助スル原告若クハ被告ガ勝訴スルニ必要ナリト思料スル事項ニ限リテ之ヲ爲スコトヲ得ルナリ而シテ其爲シタル行爲ハ主タル原告若クハ被告ノ之ト相支吾スル行爲ニ因リ其效ヲ喪失ス今從參加ノ場合ノ一例ヲ擧グレバ甲ガ或ル時計ヲ乙ヨリ買取シタルトキニ當リ丙ガ甲ニ對シ自己ノ所有物トシテ其時計取戻ノ訴ヲ起シタル場合ニ於テハ乙ハ即チ最初ノ賣主ナルヲ以テ其時計若シ不正ノモノタルトキハ甲ニ對シテ其代價ヲ辨濟スベキノ義務ヲ生スルナリ此場合ニ於テ乙ガ甲ヲ補助スルガ如キハ則チ然リトス

本條ニ所謂他人間トアルヲ以テ必ズ他人間ノ訴訟ナラザルベカラズ從テ代理人ニ依リテ爲ス訴訟ニ付テハ本人ハ則チ其參加人トナルヲ得ス例ヘバ合名會社ガ訴訟ヲ爲スニ當リテハ他ノ社員ハ訴訟ヲ爲ス所ノ社員ニ依リテ代理セラルヽモノナルガ故ニ之ニ參加スルヲ得スト云フニ外ナラズ何トナレバ這ハ皆ナ自己ノ間ニ存スル權利關係ニ付テノ訴訟ナレバナリ

又權利拘束トナリタル訴訟トハ主タル訴訟ノアルアリテ初メテ之ヲ爲シ得ルモノナレバ主參加ト同一ニ權利拘束トナリタル訴訟アルヲ必要トス

又茲ニ如何ナル程度ニ在ルヲ問ハズ云々トハ從參加ハ本訴訟ノ繫屬シテ權利拘束ノ終ルマデハ訴訟ガ第一審又ハ上級審ノ何レニ繫屬スルヲ問ハズ之ヲ爲スコトヲ得已ニ判決アリテ補助セラルヽ原告若クハ被告タル者ガ未ダ上訴ヲ爲サヾルトキハ乃チ從參加ヲ爲ス者上訴期限內ニ獨立シ以テ從參加ノ申立ト共ニ上訴ヲ爲スヲ得ルナリ

**第五十四條** 從參加人ハ其附隨スル時ニ於ケル訴訟ノ程度ヲ妨ケサル限リハ其主タル原告若クハ被告ノ爲ニ攻擊及ヒ防禦ノ方法ヲ施用シ且總テノ訴訟行爲ヲ有效ニ行ヒ殊ニ主タル原告若クハ被告ノ爲ニ存スル期間內ニ故障支拂命令ニ對スル異議又ハ上訴ヲ爲ス權利ヲ有ス從參加人ノ陳述及ヒ行爲ト主タル原告若クハ被告ノ陳述及ヒ行爲トハ相牴觸スル場合ニ於テハ主タル原告若クハ被告ノ陳述及ヒ行爲ヲ以テ標準ト爲ス但民法ニ於テ此ニ異ナル規定アルトキハ此限ニアラス

**註疏** 本條訴訟ノ程度ヲ妨ケザル限」トハ當事者ノ行爲ニ因リテ完結シタル事項ニ關スル行爲ヲナシ訴訟ヲ妨ゲザル限リト云フノ謂ナリ依テ從參加人ハ一分又ハ中間判決ヲ以テ完結シタル事項ニ付キ訴訟行爲ヲ爲スコトヲ得ス何トナレバ若シ之ヲ爲ストキハ即チ其程度ヲ妨グルモノナレバナリ又補助スル原告被告ガ拋棄又ハ懈怠若クハ中間判決ニ依リテ附隨ノ當時既ニ提出シテ之ヲ完結シタル所ノ攻擊及ヒ防禦ノ方法ヲ提出スルヲ得ズ

何トナレバ若シ之レガ提出ヲ許ストキハ乃チ又其程度ヲ妨グルコトヲ許スノ結果ニ至ルベケレハナリ而シテ前ニ此制度ヲ規定スルノ理由ハ何ゾヤ是レ從參加人ハ訴訟ノ主タルモノニ非ズ當事者一方ノ訴訟補助人トシテ訴訟スルニ過ギザルガ故ニ訴訟ハ主タル當事者間ノ爭ニ係ル請求ノミニ付キ之ヲ爲スニ止マルヲ以テナリ

第二項ハ從參加人ガ相手方ノ主張スル所ハ爭フコトヲ得ルト雖モ主タル原告若クハ被告ガ若シ自白シタルトキハ其從參加人ノ爭フコトハ茲ニ其效ナキニ至ル加之從參加人ガ自白スルトキト雖其補助セラルヽ原告若クハ被告ガ爭フトキハ又其自白ハ效ナキニ至ルナリ這ハ只證據ヲ判斷スルニ際シテ斟酌ヲ受クルニ止ルノミ而シテ其補助セラルヽ原告若クハ被告ノ名義ニ於テ故障及ビ上訴ヲ爲スコトヲ得ルト雖モ其原告若クハ被告右等ノ權利ヲ拋棄スルトキハ是亦其效ナキニ至ルナリ

**第五十五條** 從參加人ハ訴訟ヨリ脫退シタルトキ雖モ其補助シタル原告若クハ被告トノ關係ニ於テハ其訴訟ノ確定裁判ヲ不當ナリト主張スルコトヲ得ス

從參加人ハ其附隨ノ時ノ訴訟ノ程度ニ因リ又ハ主タル原告若クハ被告ノ所爲ニ因リ攻擊及ビ防禦ノ方法ヲ施用スルコトヲ妨ケラルヽトキ又ハ主タル原告若クハ被告カ從參加人ノ當時知ラサリシ攻擊及ビ防禦ノ方法ヲ故意又ハ重過失ニ因リ施用セサリシ時ニ限リ其補助シタル原告若クハ被告カ訴訟ヲ不十分ニ爲シタリト主張スルコトヲ得

**註疏** 本條ハ從參加人ト其補助ヲ受クル原告又ハ被告間ノ權利關係上ノ從參加ノ效力ヲ示シタルモノトス而シテ第一項ノ規定ハ本訴ニ於ケル判決ハ其當事者ノ權利關係ニ對シテノミ之ヲ爲スヲ以テ從參加人ニ付テハ之ヲ執行スルヲ得ズ而シテ此判決ニ基ヅキ參加ヲ爲シタル者ニ對シ償還ヲ求ムベキトキハ新訴訟ヲ爲シテ別ニ判決アルヲ要スルナリ然レドモ主タル當事者ノ權利關係ニ付キ爲シタル所ノ判決ハ從參加人ト其補助シタル原告若クハ被告トノ關係ニ於テ間接ニ其效力ヲ及ボスナリ然リ而シテ其補助セラレタル原告若クハ被告ガ敗訴スル場合ニ於テ從參加人ニ對シ償還ノ請求ヲ爲シ以テ前判決ヲ援用スルトキハ其從參加人タリシ者ハ其判決ヲ不當ナリト主張スルコトヲ得ルヤ否ヤハ之レ一個ノ問題タリ我此訴訟法ハ此問題ヲ生セシメザランガ爲メニ之レヲ主張スルノ權利ナカラシムル爲メ第一項ニ確定裁判ヲ不當ナリト主張スルコトヲ得ズト規定セリ既ニ前述シタル如ク新訴訟ニ於テハ從參加人ハ不當ナリト主張スルヲ許サヾルヲ以テ原則トスレドモ第二項ニ於テハ其取除ヲ設ケタリ抑々從參加人ハ自ラ適當ト認ムル攻擊又ハ防禦ノ方法ニシテ原告又ハ被告ノ爲メニ利益ト思料スルモノヲ提出スルモノナリ然リト雖モ他方ヨリ之ヲ見レバ又從參加人ノ利益トスルモノト云ハザルヲ得ザルベシ從參加人ナルモ

ノハ附隨セザル前ニ於テハ自己ガ訴訟ノ爲ニ必要ナリトスル攻擊防禦ノ方法ヲ前條ノ規定ニ依リテ之ヲ提出スルヲ得ズ又主タル當事者ガ其施用權ヲ故意又ハ懈怠ニ因リテ之ヲ妨害シ又ハ原告被告ノ拋棄ニ依リテ遂ニ其目的ヲ達セザルトキハ自己ノ意ニ反シタル行爲ニ依リ判決アル場合ナルヲ以テ前ノ裁判ガ不充分ナリシ理由ニ依リ相手方ニ對スル抗辯ノ權アルモノトス

**第五十六條** 從參加ハ本訴訟ノ繫屬スル裁判所ニ申請ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

申請ニハ當事者及ヒ訴訟ヲ表示シ又一定ノ利害關係及ヒ附隨セントスル陳述ヲ開示スヘシ

申請ハ當事者ニ之ヲ送達スヘシ

從參加ハ故障異議又ハ上訴ト併合シテ之ヲ爲スコトヲ得

註疏 從參加ハ本訴訟ヲ補助スル爲メニ之ヲ爲スモノナレバ從參加ヲ申立ツルノ當時本訴訟ノ繫屬スル裁判所ニ之ヲ爲スヲ當然トス之レ第一項ノ規定アル所以ナリ

第二項ハ申請ノ方法ヲ示シ第三項ハ從參加人ト當事者間トノ關係ヲ明カニシ第四項ハ從參加ハ故障異議又ハ上訴ト併合シテ爲スヲ得ルコト即チ本訴訟ノ現在スル程度ニ從フ可キヲ規定シタルニ過ギズ

**第五十七條** 原告若クハ被告カ從參加ニ付キ異議ヲ述フルトキハ當事者及ヒ從參加人ヲ審訊シタル後決定ヲ以テ參加ノ許否ヲ裁判ス其裁判ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得

利害關係ノ存否ニ付キ爭アルトキハ從參加人其關係ヲ疏明スルノミヲ以テ參加ヲ許スニ足ル

右ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

參加ヲ許サヽル裁判確定セサル間ハ從參加人ヲ本訴訟ニ立會ハシメ殊ニ總テノ期日ニ之ヲ呼出シ又本訴訟ニ關係アル裁判ヲ爲シタル時ハ從參加人ニ其裁判ヲ送達ス可シ

註疏 本條第一項前段ノ規定ニ依レバ當事者ガ異議ヲ述ベザルトキハ從參加ヲ許スヤ當然ナリ若シ當事者ガ異議ヲ述ベタルトキハ當事者及ビ從參加人ヲ審訊シタル後決定ヲ以テ參加ノ許否ヲ裁判ス然レモ其許否ニ付テハ職權ヲ以テ其調査ヲ爲サズ又之ヲ裁判スルニ付テモ口頭辯論ヲ經ルヲ要セザルナリ

第二項ノ疏明ノ方法ハ裁判官ヲシテ其主張ヲ眞實ナリト認メシムベキ證據方法ヲ申出デザル可カラズ

第三項ノ規定ハ異議ノ申立ニ因リ中間訴訟ヲ發生シ決定ヲ以テ之ヲ完結ス而シテ其決定

ニ對シテハ即時抗告ヲ許スモノトセリ其即時抗告ニ付テハ第四百六十六條ヲ參看スベシ

第四項ニ參加ヲ許サル、決定確定セザル間ハ從參加人ヲシテ本訴訟ニ立會ハシメ云々ト規定シタルハ假令ヒ從參加ヲ許サズト決定スルモ其決定ノ確定セザル間ハ或ハ抗告ニ因リ參加ヲ許スニ至ルトアルヲ以テ從參加申立人ヲシテ訴訟ニ立會ハシメザルトキハ後日不都合ノ生ズルニ至ルコトアルベキガ故ナリ而シテ若シ其之ヲ許サヾルノ決定確定スルトキハ第五十四條ノ末項ニ依リテ有效ナルモノヲ除クノ外其立會タル者ノ行爲ハ總テ無效ナリトス

**第五十八條** 從參加人ハ當事者雙方ノ承諾ヲ得テ其附隨シタル原告若クハ被告ニ代リ訴訟ヲ擔任スルコトヲ得此場合ニ於テハ其原告若クハ被告ノ申立ニ因リ判決ヲ以テ訴訟ヨリ其原告若クハ被告ヲ脫退セシムヘシ

**註疏** 當事者雙方ノ承諾ヲ得テトアルハ最初起リタル本訴訟ノ當事者間ノ關係ハ從參加ノ爲メニ變更スル者ニ非ズト雖モ補助ヲ受ケタル原告若クハ被告ガ其訴訟ヲ從參加人ニ擔任セシムルトキハ當事者ノ關係ハ爲メニ變更ヲ來スヲ以テ當事者雙方ノ同意ヲ要スルモノト定メタルナリ而シテ其之ヲ擔任セシメタル當事者ガ訴訟ヲ脫退スルトキハ即チ如何ヨク從參加人ヲシテ爲サシムル訴訟ノ效力ハ假令ヒ其訴訟ニ對スル判決アルモ脫退シタル者ニ其影響ヲ及ボサル、ガ故ニ脫退セントスル當事者ノ一方ニ判決ヲ有效ナラシメ據リテ以テ其執行ヲ爲サントスル相手方ハ從參加人ガ訴訟ヲ擔任スルヲ肯ゼザルベシ故ニ其相手方ノ承諾ヲ要スルノ結果ヲ來スハ勢已ムヲ得ザル所ナリ此場合ニ於テハ右述ベタル如ク脫退シタル原告若クハ被告ニ對シテハ其訴訟ノ效果ヲ及ボサズト雖モ尙ホ其效果ヲ及ボサヾルコトヲ確明ナラシメント欲セバ脫退セント欲スル原告若クハ被告ハ判決ヲ以テ脫退ヲ言渡サシメ以ヲ其關係ナキコトヲ確明ナラシムルヲ得ルナリ

**第五十九條** 原告若クハ被告若シ敗訴スルトキハ第三者ニ對シ擔保又ハ賠償ノ請求ヲ爲シ得ヘシト信シ又ハ第三者ヨリ請求ヲ受ク可キコトヲ恐ル、場合ニ於テハ訴訟ノ權利拘束間第三者ニ訴訟ヲ告知スルコトヲ得

**訴訟ノ告知ヲ受ケタル者ハ更ニ訴訟ヲ告知スルコトヲ得**

**註疏** 本條乃至第六十一條ハ告知參加ノ規定ニ係ル告知參加ハ從參加ト類似ノモノニシテ或ル訴訟ニ於ケル判決ガ第三者ノ權利關係ニ影響ヲ及ボスコトヲ得ル情況ヲ其原因トスルモノナリ今其一例ヲ擧グレバ或ル者ガ手形ノ裏書讓渡ヲ爲シタル結果償還請求ヲ受ケタル訴訟ニ於テ敗訴スルトキハ第三者ナル振出人ニ向ッテ賠償ノ請求ヲ爲シ得ルトキノ如シ

前述シタルガ如ク告知參加ト從參加トハ固ト相似タルモノナレドモ之ニハ左ノ區別アリ

告知參加ハ當事者一方ノ催告ニ依リテ之ヲ爲シ從參加ハ其催告ヲ要セズ第三者自ラ之ヲ爲ス換言スレバ告知參加ハ當事者一方ノ意思ニ依リテ發生シ從參加ハ參加人ノ意思ニ依リテ發生スルモノトス

告知參加ハ訴訟ニ第三者ヲ立會ハシメ(一)其補助ニ依リテ勝訴スルヲ目的トシ若シ又(二)敗訴スルトキハ告知者ト第三者間ニ後日起ル訴訟ニ於テ第三者ヲシテ前訴訟行爲ノ不十分ナル抗辨ヲ爲シ得ザラシムルヲ目的トスルモノナリ而シテ此參加ノ告知ヲ爲シ得ルノ條件ハ即チ

第一　既ニ訴訟ノ權利拘束トナリタルコト

第二　敗訴ノ場合ニ於テハ第三者ニ擔保又ハ賠償ノ請求ヲ爲シ得ベシト信シ又ハ第三者ヨリ請求ヲ受クベキコトノ恐アル場合

ノ二トス

抑々告知參加ノ效力ハ告知ノ時ヨリ發生スルガ故ニ其以前ニ效ナキハ勿論ナリ從テ第三者ハ告知前ニ於ケル訴訟行爲ニ付テハ不十分ナリトノ抗辨ヲ主張スルヲ得ベキナリ而シテ其告知參加ヲ爲シ得ル第二ノ要件ハ即チ請求ヲ爲シ得ベシト信シ又ハ請求ヲ受クベキコトヲ恐ルヽヲ以テ足レリトス故ニ告知者ハ自己ガ第三者ニ對シ償還ノ義務ヲ負ヒ又ハ第三者ガ告知者ニ斷シテ請求ヲ爲シ得ルヤ否ヤヲ確的ニ信憑スルヲ要セズ唯々單ニ之ヲ信シ又ハ之ヲ恐ルヽノ見込サヘアレバ可ナリ此告知參加ヲ爲スベキ場合ハ仲買人ノ如キ者又ハ運送取扱人ノ如キ商業ニ從事スル者ノ爲ス訴訟ニシテ第三者ノ計算及ビ危險ヲ以テ爲ス場合ニ多ク生ズルナリ

第二項ハ訴訟ノ告知ヲ受ケタル者ハ參加人ト爲ラザルトキト雖更ニ告知ヲ爲スノ權アルコトヲ定メタルモノナリ

**第六十條**　訴訟告知ハ訴訟ノ繫屬スル裁判所ニ其訴訟告知ノ理由及ヒ訴訟ノ程度ヲ記載シタル書面ヲ提出シテ之ヲ爲ス可シ

此書面ハ第三者ニ送達スルコトヲ要ス又訴訟ヲ告知スル原告若クハ被告ノ相手方ニハ其謄本ヲ送付スヘシ

註疏　本條第一項ハ訴訟ノ繫屬スル裁判所例ヘバ訴訟カ第一審裁判所ニ繫屬スルトキハ訴訟ノ告知モ亦其裁判所ニ又訴訟ガ第二審ニ繫屬スルトキハ訴訟ノ告知モ亦其第二審裁判所ニ申立ルコトヲ規定シタルモノトス是レ告知參加ハ固ト從參加ト同一ニシテ獨立スル訴訟ニ非ザルガ故ナリ

第二項ハ訴訟ノ告知ヲ受クル第三者ガ告知アリテ之ニ參加セザルコトアルモ仍ホ其告知ノ效力アルヲ以テ其書面ヲ第三者ニ送達スルコトヲ要シ又タ其效力ハ告知者ノ相手方ノ當事者

權利關係ニモ亦影響ヲ及ボスヲ以テ其相手方ニモ書面ヲ送達スベキヿヲ定メタルニアリ

**第六十一條** 訴訟ハ訴訟告知ニ拘ハラス之ヲ續行ス

第三者參加ス可キコトヲ陳述スルトキハ從參加ノ規定ヲ適用ス

註疏 告知參加ナルモノハ唯々第三者ニ爲ス訴訟ノ告知ナルガ故ニ本訴訟ハ之レガ爲メ變更ヲ生ゼズシテ之ヲ續行ス而シテ又其參加ヲ爲スヤ否ヤハ特ニ第三者ノ任ナレバ第三者ハ卽チ告知ニ依リテ參加セザル可ラザルノ義務アルコトナシ而シテ第三者ガ參加シタル爲メニ始メテ訴訟ニ變更ヲ生ジタルトキハ乃チ本條第二項ノ規定ニ從ヒ從參加ノ規定ヲ適用スベシ且第三者ガ參加スルトキハ第五十六條ノ規定ニ依リテ書面ヲ作リ以テ之ヲ當事者ニ送達シ又其告知者ノ相手方ガ參加ニ對シテ異議ヲ述ブルトキ第五十七條等總テコノ從參加ニ關スル規定ヲ適用スルモノト知ル可シ

**第六十二條** 第三者ノ名ヲ以テ物ヲ占有スルコトヲ主張スル者其物ノ占有者トシテ被告ト爲リタルトキハ本案ノ辯論前第三者ヲ指名シ之ニ陳述ヲ爲サシムル爲メ其呼出ヲ求ムルトキハ第三者ノ陳述ヲ爲シ又ハ之ヲ爲ス可キ期日マテ本案ノ辯論ヲ拒ムコトヲ得

第三者ガ被告ノ主張ヲ爭フトキ又ハ陳述ヲ爲サヽルトキハ被告ハ原告ノ申立ニ應ズルコトヲ得

第三者カ被告ノ主張ヲ正當ト認ムルトキハ被告ノ承諾ヲ得テ之ニ代リ訴訟ヲ引受クルコトヲ得

第三者カ訴訟ヲ引受ケタルトキハ裁判所ハ被告ノ申立ニ因リ其被告ヲ訴訟ヨリ脫退セシム可シ其物ニ付テノ裁判ハ被告ニ對シテモ效力ヲ有シ且之ヲ執行スルコトヲ得

註疏 本條ハ指名參加ノ一ナリ指名參加トハ被告ガ其訴訟物ヲ自己ノ爲メニ占有スルニ非ラズシテ一定シタル第三者ノ名義ヲ以テ占有スルモノナルコトヲ主張シ其第三者ヲ指名スルニ由リテ爲ス所ノ參加ヲ云フコノ指名參加ナルモノハ彼ノ告知參加ノ種類ニシテ第三者ノ告知ニヨリテ參加スルモノトス而シテ其所謂告知參加ト指名參加トノ異ナル點ハ告知參加ノ場合ハ告知者ガ訴訟ノ補助ヲ求メ又ハ訴訟行爲ノ不充分ナリシトノ抗辯ヲ能ハザラシムルコトヲ目的トス指名參加ノ場合ハ之ニ異リ單ニ訴訟ヨリ脫退シ又ハ勝訴スベキ義務ヲ免ルヽヲ目的トスルモノナリ依テ指名參加ハ他人ノ物ヲ占有スル者ガ其物ニ付キ訴ヲ受クル場合ニ於テ自己ニ利害ノ關係ナキ訴ヲ受クルノ責務ヲ免ガレ又ハ訴訟行爲ヲ爲シ又ハ原告ヲシテ滿足セシムルヲ得ザルノ責務ヲ免ルヽ方法トス而シテ此方法ハ第三者ナル本人ヲ指名シ之ニ訴訟ヲ通知セシメ以テ其權利ヲ主張セシムルニ在リ而シテ其第三者ナル本人ヲ指名スルハ債權ノ訴ノ場合ヲ重モナルモノトナス例ヘバ甲者乙者

ヨリ物件賃借シタル場合ニ丙者ヨリ其物件取戻ノ請求ヲ受ケタルトキニ當リテ其物件ハ他人ノ所有名義ノ下ニ賃借スルモノナレバ之レガ返還ノ義務ハ乙者ナル他人ニ在ルヲ以テ乙者ヲ指名シテ其呼出ヲ求ムル場合等ナリ而シテ其第三者ノ名ヲ以テ占有スル物ハ動産タルト不動産タルトヲ問ハズ

又指名參加ナルモノハ訴訟ヲ補助スルモノニ非ズシテ被告ヲ訴訟ヨリ脫退セシメ又ハ訴訟行爲ヲ爲シ又ハ原告ヲ滿足セシムルヲ得ザルノ責務ヲ免ガルヽヲ以テ其目的トスルモノナルガ故ニ必ズシモ本案ノ口頭辯論前ニ於テ之ヲ爲サヾル可ラズ何トナレバ若シ其辯論ノ後ニ之ヲ爲ストモ到底其目的ヲ達スル能ハザレバナリ

又第三者ノ呼出ヲ求ムル方法ハ先ヅ其第三者ヲ指名シ且ツ第六十條ノ規定ニ從ヒ告知ノ書面ヲ差出サヾルベカラズ而シテ此書面ハ裁判所ヨリ之ヲ第三者ニ送達スルコトヲ要スルナリ加之其書面ニハ第一被告ノ主張スル所（即チ第三者ノ名ヲ以テ物ヲ占有スルトノコト）第二第三者ガ認諾シ及ビ其訴訟ヲ引受ルヤ否ヤノ陳述ヲ爲スベキ催告ヲ掲ゲ其外尙陳述スベキ期日ヲ掲載スルコトヲ要スルモノトス而シテ右第三者ノ指名及ビ呼出ノ求ハ本案ノ辯論前書面ヲ以テ之ヲ爲シ得ルノミナラズ口頭辯論ニ際シ口頭ヲ以テモ亦之ヲ爲スコトヲ得ベシ茲ニ本條第一項ノ末段ニ第三者ノ陳述ヲ爲シ又ハ之ヲ爲スベキ期日マデ本案ノ辯論ヲ拒ムコトヲ得トアルニヨリ此第三者ヲ指名スルコトハ人動モスレバ彼ノ妨訴抗辯ノ如キ性質ナルヲ疑フ者アレドモ這ハ決シテ妨訴ノ抗辯中ニ屬スベキモノニ非ラズ何トナレバ妨訴抗辯ナルモノハ訴訟ヲ爲スコトヲ得ザル情況アルヲ必要トスレドモ指名參加ノ告知ヲ爲シタル場合ニ於テハ決シテ其情況アルコトナク從テ訴訟ヲ爲サントスレバナリ

第二項原告ノ申立ニ應ズルコトヲ得トハ例ヘバ占有ヲ求メラレタル時ハ其求ニ應シテ自己ノ占有ヲ解キ以テ之ヲ原告ニ與ヘ寄託物ヲ求メラレタル時ハ亦之ヲ原告ニ附與スルガ如ク請求ヲ認諾スルコトヲ云フ

第三項被告ノ主張ヲ正當ト認ムルトキハ其承諾ヲ得テ訴訟ヲ引受クルコトヲ得ルモ若シ被告ガ其承諾ヲ拒ムトキハ如何曰ク此場合ニ於テハ訴訟ハ被告ニ對シテ之ヲ爲シ第三者ハ從參加人トシテ補助スルノ外ナカラン

第四項ニ於テハ被告ノ申立ニ因リテ之ヲ訴訟ヨリ脫退セシムルモノトナセリ然ドモコノ脫退シタル被告ハ爲メニ其被告タル資格ヲ全ク消滅スルモノニ非ラズシテ其物ニ付テノ裁判ハ被告ニ對シテモ效力ヲ有シ且之ヲ執行スルコトヲ得ルナリ蓋シ本項ノ規定ハ元來其物ハ現ニ被告ガ所持シ居ルヲ以テ被告ニ對シテ直接ニ執行ヲ爲ストキハ其執行ニ困難ヲ或セザルガ爲メ歟

## 第四節　訴訟代理人及ヒ補佐人

**註疏**　訴訟代理人ハ原告若シクハ被告ガ訴訟ニ付キ其代理ヲ委任シタルモノニシテ委任者ナル本人トハ契約上ノ關係ヲ有スルモノナリ若シ契約上ノ關係ヲ有セザル代理人即チ法律上ノ代理人ニ付テハ本節ニ之ヲ規定セズ第四十三條ニ定メラレタリ

補佐人トハ原告若クハ被告ノ代理ニアラズシテ其原告若シクハ被告ト共ニ期日ニ出頭シ其不充分ナル行爲ヲ補充スル者是ナリ

**第六十三條**　原告若クハ被告自ラ訴訟ヲ爲サヽルトキハ辯護士ヲ以テ訴訟代理人トシテ之ヲ爲ス

辯護士ノ在ラザル場合ニ於テハ訴訟能力タル親族若シクハ雇人ヲ以テ訴訟代理人ト爲シ若シ此等ノ者ノ在ラザル時ハ他ノ訴訟能力者ヲ以テ訴訟代理人ト爲スコトヲ得

區裁判所ニ於テハ辯護士ノ在ルトキト雖モ訴訟能力者タル親族若シクハ雇人ヲ以テ訴訟代理人ト爲スコトヲ得

**註疏**　我國ニ於テハ當事者自ラ訴ヲ爲スヲ以テ原則ト爲ス然レドモ本條ノ規定ニヨレバ本人自ラ訴訟ヲ爲サヽルトキハ辯護士ヲ以テ訴訟代理人ト爲ストアルヲ以テ見レバ本人ガ若シ公務病氣其他人事故ニ依リ自ラ爲ス能ハザルトキハ先ヅ辯護士ヲ以テ訴訟代理人ト爲シ訴訟ヲ爲サヽル可ラザルナリ

第二項ノ辯護士アラザル場合トハ訴ヲ起スベキ地ニ辯護士ノ一人モ在ラザルトキ又辯護士ハ住居スルトモ當事者ノ一方ヨリ委任ヲ受ケ既ニ其委任ヲ受クルコト能ハザルガ如キ場合ニシテ此如キ場合ニ於テハ本條ノ順序ニ依リ訴訟能力者タル親族若クハ雇人ヲ以テ訴訟代理人ト爲シ若此等ノ者アルザルトキハ他ノ訴訟能力者ヲ以テ代理人ト爲ス然レドモ是地方裁判所以上ノ裁判所ニ適用スベクシテ區裁判所ニハ適用ス可ラス何トナレバ第三項區裁判所ニ於テハ辯護士ノ在ル時ト雖モ訴訟能力者タル親族若シクハ雇人ヲ以テ訴訟代理人ト爲スヲ得トアレバナリ是他ナシ區裁判所ニ於ケル事件ハ極メテ簡易ナル事柄ヲ屬スルヲ以テ特ニ專門家タル辯護士ヲ要スルニ及バザルガ故ノミ

**第六十四條**　訴訟委任ハ裁判所ノ記錄ニ備フ可キ書面委任ヲ以テ之ヲ證ス可シ

私署證書ハ相手方ノ求ニ因リ之ヲ認證ス可シ其認證ハ公證人之ヲ爲シ又相當官吏之ヲ爲スコトヲ得

口頭辯論ノ期日又ハ受命判事若クハ受託判事ノ面前ニ於テ口頭委任ヲ爲シ其陳述ヲ調書ニ記載セシムルトキハ書面委任ト同一ナリトス

**註疏** 訴訟委任ハ委任狀ヲ要スベキハ勿論ニシテ委任狀ハ實ニ代理權限ノ範圍ヲ證明スル必要ナル證書ナリ而シテ裁判所ハ事件ノ記錄ニ編入シテ保存ス何トナレバ若シ委任狀ガ裁判所ノ記錄中ニ在ラザル時ハ委任ノ範圍ニ付キ議論ノ生ジタル時之レヲ調査スルニ方リ其都度之ヲ本人及ヒ代理人ニ尋合セザル可ラザルノ不便ヲ釀シ從テ訴訟ノ進行ヲ妨グレバナリ殊ニ其委任狀ガ代理人ノ所持ニ在リトテ格別ノ利益ヲ有セザレバナリ夫レ此ノ如ク委任ノ有無範圍ヲ知ラント欲セバ裁判所ノ記錄ニ依リ調査シ得ベキヲ以テ訴訟委任ハ書面ナルコトヲ要ス

第二項ニ掲ゲタル私署證書ト稱スルハ公證人ニ囑託シテ作リタルモノニ非ラザル委任狀ヲ指シタルモノニシテ此私署證書ガ果シテ正當ナリヤ否ヤニ付キ疑ヲ生ジタル時ハ之レガ認證ヲ求ムルコトヲ得ベシ認證トハ委任狀ノ眞確ヲ證明スルモノニシテ主トシテ委任狀中ノ署名捺印ハ正當ナリヤ否ヤヲ認ムルノ謂ニシテ之レヲナスハ公證人若クハ相當官吏郡市區町村長ノ如キモノナラザル可ラズ

委任狀ハ前述ノ如ク書面ヲ以テセザル可ラズト雖モ口頭辯論ノ期日又ハ受命判事若クハ受託判事ノ面前ニ於テ口頭委任ヲ爲シ其陳述ヲ調書ニ記載スレバ書面ト同一ノ效力ヲ有ス是レ一ノ便法ニシテ本條第三項ノ規定アル所以ナリ

## 第六十五條 訴訟委任ハ反訴、主參加、故障、假差押若クハ假處分又ハ强制執行ニ因リ生スル訴訟行爲ヲ併セ訴訟ニ關スル總テノ訴訟行爲ヲ爲シ及ヒ相手方ヨリ辨濟スル費用ノ領收ヲ爲ス權ヲ授與ス

訴訟代理人ハ特別ノ委任ヲ受クルニ非サレハ控訴若クハ上告ヲ爲シ再審ヲ求メ代人ヲ任シ和解ヲ爲シ訴訟物ヲ拋棄シ又ハ相手方ヨリ主張シタル請求ヲ認諾スル權ヲ有セズ

**註疏** 本條第一項ニ訴訟委任ハ云々ノ權ヲ授與スト規定シタル理由若シ如此規定セザルトキハ訴訟代理人ガ或行爲ヲ爲スニ方リ其行爲ニ付キ果シテ委任ヲ受ケタルヤ否ヤノ疑惑ヲ惹起スルコトナキニ非ラズ此場合ニ於テ一々委任狀ヲ調査セザル可ラザルノ必要アルヲ以テ此等ノ手數ヲ省畧センガ爲メナリ而シテ本項ハ辯護士ニ委任ヲ爲ス場合ニ限リタルモノナリ何トナレバ辯護士ハ訴訟ヲ爲スヲ以テ職業ト爲スモノナルヲ以テ委任ヲ爲ストキニハ訴訟ヲ爲スニ必要ナル要件ハ充分之ヲ知リタルモノトシ本人ノ利益ノ爲メニ之等行爲ノ權ヲ附與スルコト必要ナレバナリ故ニ辯護士ヲ訴訟代理人ト爲シタルトキハ本項ノ事柄ハ當然委任シタルモノト見做スナリ而シテ其辯護士ニ限ルコトハ次條ノ明文ニ依リテ推知スルヲ得ベシ

本條第二項ニ掲ゲタル事柄ニ至リテハ當然委任者ガ代理權ヲ付與スルモノナリトハ認ム可ラズ例ヘバ委任者ガ敗訴スレバトテ必ズシモ控訴若クハ上告ヲナスベシト希望スルニ當事者

限ラズ況ンヤ訴訟物ヲ拋棄シ又ハ相手方ノ主張ヲ認諾スルガ如キニ於テヲヤ故ニ此等ハ別段ノ委任アルヲ要スル所以ナリ

**第六十六條** 訴訟委任ハ法律上ノ範圍(第六十五條第一項)ヲ制限スルモ其制限ハ相手方ニ對シ效力ナシ

然レトモ辯護士ニ依レル代理ヲ除ク外ハ各箇ノ訴訟行爲ニ付キ委任ヲ爲スコトヲ得

註疏 訴訟委任ハ第六十五條ノ制限ヲ相手方ガ知ルト雖本條ニ依リ其制限ヲ爲シタル效力ナシ何トナレバ若シ委任者ト代理者間ノ制限ガ有效ナリトセバ相手方及ビ裁判所ハ其制限アルコトヲ知ラザル場合多クシテ代理者ガ爲ス各行爲ニヨリ委任ニヨルヤ否ヤヲ調査セザル可ラズ然ルトキハ手數ニ繁雜ヲ加ヘ又遂ニ時下ノ必要ナル行爲ヲ無效ト爲スコト無キニアラザレバナリ

第二項辯護士ニ依レル代理ヲ除ク外トアルハ辯護士ニアラザル他ノ人ニ委任ヲ爲ストキハ辯護士ノ如ク充分法律上ノ智識ニ信用アラザルコト一般ナルヲ以テ各個ノ訴訟行爲ニ付委任ヲ爲スコトヲ得セシムルナリ

**第六十七條** 訴訟代理人數人アルトキハ共同若クハ各別ニテ代理スルコトヲ得但委任ニ此ト異ナル定アルモ相手方ニ對シ其效力ナシ

註疏 本條ハ原告又ハ被告ノ當事者ガ數人ノ代理人ヲ委任スルヲ得ル旨ヲ示シ併セテ其代理人間ノ關係ヲ定メタルナリ而シテ茲ニ共同若クハ各別ニテ代理スルコトヲ得トアルハ數人共同ノ行爲アルカ又ハ各人各箇ノ行爲アルコトヲ必要トスル意ニ非ラズシテ數人ガ共同ニテ或行爲ヲ爲スモ又一人ガ各別ニテ或行爲ヲ爲スモ共同ニテ行爲ヲ爲スト同視スルト云フ義ニ外ナラズ但書ヲ以テ委任ニ此ト異ル定アルモ相手方ニ對シ其效力ナシト掲ゲタレバ訴訟代理人數人ハ訴訟ニ於ケル權利關係ヲ合一ノミニ確定ス可キ場合ニ於ケル共同訴訟人ト均シクシテ若シ各個ノ代理人ノ事實上ノ陳述ガ他ノ代理人ノ陳述ト相牴觸スルトキハ裁判所ハ只心證ニ依リ判斷スベキモノナリ又但書ノ規定ヲ以テ相手方ニ對シ有效ナラシメザルハ若シ相手方ニ對シ有效ナラシムルトキハ各個ノ代理人ノ爲ス行爲ニ付キ有效ナリヤ否ヤヲ調査スル必要ヲ生ズ是レ又訴訟ノ完結ヲシテ遲延セシムル虞アルヲ以テ第六十六條ト同一ナル精神ニ依リ斯ク規定シタルモノナリ然リ而シテ本條ハ辯護士ト其他ノ代理人トノ區別ヲ爲サヾルナリ

**第六十八條** 訴訟代理人カ委任ノ範圍內ニ於テ爲シタル訴訟上ノ行爲及ヒ不行爲ハ原告若クハ被告ニ對シテハ其本人ノ行爲又ハ不行爲ト同一ナリトス

然レトモ代理人ノ事實上ノ陳述ハ其代理人ト共ニ裁判所ニ出頭シタ

ル原告若クハ被告ヨリ即時ニ之ヲ取消シ又ハ更正シタルトキニ限リ其效力ヲ失フ

註疏　本條第一項ハ訴訟代理人ガ委任ノ範圍内ニ於テ爲シタル行爲ハ委任者ガ爲シタル行爲ト同一ナルヲ規定シタルモノニシテ第二項ニ於テ代理人ナレバトテ或場合ニ於テハ事實上ニ付キ誤謬ナル陳述ヲ爲スコトナキニアラズ依テ委任者其代理人ト共ニ裁判所ニ出頭シ即時ニ之ヲ取消シ又ハ更正シ其陳述ヲ無效ト爲シ得ルコトヲ定メタリ而シテ事實上ノ陳述ニハ自白ヲモ包含スト雖モ權利上ノ陳述例ヘバ或物品ハ予ノ所有物ナリト主張シ又ハ何々契約ハ民法何條ニ依リ無效ナリト主張スルガ如キ類ハ包含セズ而シテ權利上ノ陳述ニ至リテハ之ヲ取消サシムルノ必要アラザルナリ何トナレバ裁判官ハ事實ニ據リ裁判ヲ爲スモノニテ民事ニ關スル諸般ノ法律ハ裁判ヲ爲スベキ標準トナルモ權利上ノ陳述ニ少モ關係ヲ有セザルモノナリ夫レ然リ然リト雖モ權利上ノ陳述ニシテ權利ニ關スル認諾若クハ拋棄ノ如キニ至リテハ裁判官ト雖モ之レニ依リテ裁判セザルベカラズ即チ裁判ヲ爲スノ標準ト爲ルモノナリ然ラバ何ニ故ニ本條ニ其規定ナキヤト云フニ認諾若クハ拋棄ノ事ニ付キテハ第六十五條ニ於テ特別ノ委任ヲ要スベキヲ規定シタルガ爲メナリ

**第六十九條**　委任者ノ死亡、訴訟能力若クハ法律上代理ノ變更、委任ノ廢罷及ヒ代理ノ謝絶ニ因ル委任ノ消滅ハ其消滅ヲ通知スルマテ相手方ニ對シ其效力ナシ

此通知書ハ原告若クハ被告ヨリ受訴裁判所ニ之ヲ差出シ裁判所ハ相手方ニ之ヲ送達ス可シ

代理人ハ謝絶ヲ爲スモ委任者他ノ方法ヲ以テ自己ノ權利ノ防衛ヲ爲サヽル間ハ其委任者ノ爲メニ行爲ヲ爲スコトヲ得

註疏　本條第一項ハ委任者死亡シタルトキ又ハ其訴訟能力上變更ノ生シタルトキ（例ヘバ神心喪失者ト爲リ若クハ禁治産ノ處分ヲ受ケタル場合若シクハ破産ノ宣告ヲ受ケタルガ如キ場合）又ハ法律上ノ代理ニ變更ヲ生シ（例ヘバ法律上代理人死亡シ若クハ代理人タル權ヲ失フガ如キ場合）又ハ委任者委任ヲ廢罷シ若クハ訴訟代理人代理ヲ謝絶スル時等ニ於テハ代理ハ終了スベシト雖モ當事間ノ利益ヲ計リ右等ノ事實ニ依テノミ委任者ノ相手方ニ對シテハ當然消滅セズトシ相手方通知ヲ受ケ其事實ヲ了知シタルニ於テ始メテ終了スルモノト定メタリ

第二項ハ別段説明ヲ要セズシテ明白ナレドモ第三項ニ付キ聊カ疑ナキニ非ラザレバ一言スベシ即チ第三項ニ代理人ハ謝絶ヲ爲スモ委任者他ノ方法ヲ以テ自己ノ權利ノ防衛ヲ爲サヽル間ハ其委任者ノ爲メニ行爲ヲ爲スコトヲ得トアルハ代理人ニ權利ヲ與ヘタルカ將タ義務ヲ負ハシメタルカト云フニ余ハ權利ヲ與ヘテ義務ヲ負ハシメザル規定ナリト云ハ

ントス何トナレバ未文ニ行爲ヲ爲スコトヲ得トノミアレバナリ而シテ其謝絶ヲナシテ若シ委任者ガ自ラ之ヲ處理セズ且新ニ代理人ヲモ命ゼザルトキハ代理人ハ即チ自分ノ欲セザル代理ヲ爲スニ至リ又ハ到底無益ト認ムルコトヲ强迫ニ依リ之ヲ爲サヾル可ラザルニ至ルヲ以テ法律ハ此ノ如キ場合ニ於ケル代理ハ之ヲ謝絶スルヲ得ベシト命ゼント欲スルモ或ハ遂ニ謝絶スルヲ得ザル結果ヲ來スベキヲ以テ本法ハ代理人ノ自由ニ任シ爲サヾラントスレバ爲サヾルモ可ナリトノ權利ヲ與ヘタルモノニ外ナラズ

## 第七十條　委任ノ欠缺ハ原告若クハ被告ノ爲メ其代理人ナキモノト看做ス

裁判所ハ職權ヲ以テ委任ノ欠缺ヲ調査シ委任ナク又ハ適式ノ委任ナク代理人トシテ出頭スル者ニ事情ニ從ヒ費用及ビ損害ノ保證ヲ立テシメ又ハ之ヲ立テシメスシテ假ニ訴訟ヲ爲スヲ許スコトヲ得

判決ハ欠缺ヲ補正シ又ハ之ヲ補正スル爲メ裁判所ノ適宜ニ定ムル期間ノ滿了後ニ限リ之ヲ爲スコトヲ得但欠缺ノ補正ハ判決ニ接著スル口頭辯論ノ終結マテ之ヲ追完スルコトヲ得

**註釋**　本條ハ訴訟代理人トシテ裁判所ニ出頭スル者アルモ本法第六十三條ニ依リ合法ノ委任アルコトヲ證明セザル時ハ何人モ出頭セザル者ト認メ訴訟行爲ヲ爲サヾリシト同一ノ結果ヲ生ズルヲ以テ委任ヲ欠缺シタルトキハ代理人ナキモノトシ欠席判決ヲ爲シ得ルモノトス第二項裁判所ガ委任ノ欠缺ヲ職權ニ依リ調査スルコトヲ得ト定メタルハ裁判所ハ自己ノ行爲ノ無效ト然ラザルコトニ注意ヲ爲サヾルベカラザルガ爲メニシテ其委任ナク又適式ノ委任ナク代理人トシテ出頭スル者ニ事情ニ從ヒ費用及ビ損害ノ保證ヲ立テシメ云々トアルハ即チ代理人ト主唱スル者委任狀ヲ有セズ又ハ之ヲ有スルモ法律ノ規定ニ適ゼザルモノヲ所持シテ裁判所ニ出頭スルトキハ裁判所ハ前項ニ依リ代理人ナキモノトシ訴訟行爲ヲ許ス可ラザルガ如クナレモ委任ノ欠缺ハ他日之ヲ補正スルヲ得ベキモノナルガ故ニ費用及損害ヲ事情ノ限度ニ依リ測定シ其代理人ト主唱スル者ニ其費用及損害ノ保證ヲ立テシメ又ハ之レヲ立テシメズシテ假リニ訴訟行爲ヲ爲スヲ許スモノトス是レ當事者ノ便宜ヲ計リテ設ケラレタル規定ナリ

第三項委任者ノ欠缺アリタルトキハ之レガ補正ノ有無ニ依リ裁判ヲ爲スヲ以テ其果シテ補正ヲ爲スヤ否ヤノ定マルマデハ裁判ヲ爲スヲ許サズ然レドモ欠缺ノ補正ヲ爲ス爲メニ一定ノ期間ヲ設クルノ目的ハ無委任ニテ爲シタル代理者ノ行爲有效ナルヤ將タ無效ナルヤヲ確定シ判決ヲ爲シ得ルニ至ラシムルニ過ギザル故ニ其期間滿了後ト雖モ判決ニ接着スル口頭辯論ノ終結マデニ補正ヲ爲セバ其行爲ヲ有效ト爲スモ當事者雙方ニ損害ヲ生ゼザルヲ以テナリ

**第七十一條** 原告若クハ被告ハ辯護士ヲ補佐人ト爲シ又ハ何時ニテモ裁判所ノ取消シ得ヘキ許可ヲ得テ他ノ訴訟能力者ヲ補佐人ト爲シテ共ニ出頭スルコトヲ得其補佐人ハ口頭辯論ニ於テ權利ヲ伸張シ又ハ防禦スル爲メ原告若クハ被告ヲ補助スルモノトス

補佐人ノ演述ハ原告若クハ被告卽時ニ之ヲ取消シ又ハ更正セザルトキニ限リ原告若クハ被告自ラ演述シタルモノト看做ス

**註疏** 本條ハ補佐人ニ關スル規定ナリ原告若クハ被告ノ委任ヲ受ケタルモノヲ代理人ト云ヒ原告若クハ被告カ自ラ爲シタル行爲ヲ自身ト共ニ之ヲ補助セシムル爲メニ裁判所ニ出頭セシムルモノヲ補佐人ト云フ故ニ補佐人ハ依賴者ノ不十分ナル行爲ヲ補助スルヲ以テ目的ト爲ス故ニ依賴者ガ口頭辯論ノ期日ニ於テ權利ノ伸張若クハ其防禦ヲ爲ス爲メニ必用ナル行爲ヲ爲スノ權ヲ有シ第二項ニ依リ依賴者ガ卽時ニ取消シ又ハ更正セザル演述ハ依賴者自ラ之ヲ爲シタルモノト看做コトヲ定メタリ

補佐人ハ依賴ト共ニ裁判所ニ出頭シテ補佐人ナリト許可セラルヽヲ以テ其資格ヲ得有ス若シ委任者退廷シテ補佐人ノミ法廷ニ在ル時ハ其性質ヲ失ヒ其後ニ爲シタル行爲ノ如キハ依賴者ノ行爲ト看做シ得ザルナリ然レドモ若シ第六十四條第三項ニ從ヒ依賴者ガ口頭委任ヲ爲シ其陳述ヲ調書ニ記載シタル時ハ代理人ト爲リ委任者ノ爲メ有效ニ行爲ヲ爲シ得ベキハ勿論ナリ尤モ補佐人ヲ代理人ト爲スニハ第六十三條ノ順序ニ依リ訴訟能力ヲ有セザル可ラズ

## 第五節 訴訟費用

**註疏** 訴訟費用トハ裁判所ニ於テ權利ノ伸張及ビ防禦ヲ爲ス爲メニ生シタル必要ナル費用是レナリ而シテ今訴訟費用ヲ小別シテ裁判費用ト裁判外ノ費用トノ二種トナス裁判費用トハ裁判所ニ支拂フモノニシテ卽チ民事訴訟印紙規則ニ依リ支拂フモノヲ云ヒ裁判外ノ費用トハ訴ヲ爲スニ付キ當事者ノ爲メ行爲ヲ爲シタル者ニ仕拂フ費用ニシテ卽チ民事訴訟費用法及ビ執達吏手數料規則ニ依リ支拂フベキモノナリ

**第七十二條** 敗訴ノ原告若クハ被告ハ訴訟ノ費用ヲ負擔シ殊ニ訴訟ニ因リ生シタル費用ヲ相手方ニ辨濟ス可シ但其費用ハ裁判所ノ意見ニ於テ相當ナル權利伸張又ハ權利防禦ニ必要ナリト認ムルモノニ限ル

訴訟中ニ訴ヲ取下ケ、請求ヲ拋棄シ又ハ相手方ノ請求ヲ認諾スル原告若クハ被告ハ敗訴ノ原告若クハ被告ニ同シ

**註疏** 訴訟費用ハ敗訴者之ヲ負擔スベキモノニシテ裁判所ニ於テ權利ノ伸張若クハ防禦ニ必要ナル範圍ニ於テ是レヲ命ズ而シテ論者或ハ訴訟費用ハ不正ナル行爲ニ依リテ生シ

タル賠償ナリト云フモノアレトモ是レ採ルニ足ラザルノ論ナリ何トナレバ訴訟費用ハ國家ノ許ス所ノ行爲ニ依リテ生ジタルモノニシテ不正ノ行爲ニ依リ生ジタル損害ノ賠償ニアラザレバナリ然ラバ如何ナル理由ニ基キタルヤト云ヘバ是レ訴訟ヲ爲セバ費用ヲ生ズベキハ當然ノコトナレバ訴ヲ爲ス必要ヲ起シタル者ガ其費用ヲ負擔スベキカ至當ナルニ依ルモノナリサンドモ裁判ノ判決中ニハ費用ヲ負擔スベキモノヲ定メ其負擔スベキ金額ハ之レヲ定メズ若シ其負擔スベキ費用ノ金額ヲ確定スルノ必要生ジタルトキハ訴訟費用ノ確定決定申請ニ依リ之ヲ定ムベキモノトス

費用ニ付テノ裁判ハ必ズシモ當事者ノ申立アルヲ要セズ又其權利ノ伸張又ハ防禦ニ必要ナリシヤ否ヤハ第八十四條ニ從ヒ訴訟費用ノ金額ヲ確定スル場合ニ於テ生ズル所ノ問題ナリ

本條第二項ニ掲ゲタルガ如ク原告ガ訴ヲ取下ゲタルトキハ判決ヲ爲スヲ要セズシテ事件完結スル故何レノ者ヲ敗訴者トスル判決ナシ然レドモ訴ノ提起ニ依リ費用生ズルヲ以テ費用ノ負擔者ヲ定ムル必要アルトキハ原告ガ訴ヲ起スコトヲ得ザル場合ヲ於テ訴ヲ起シタルモノナレバ之ヲ敗訴シタルモノト看做シ原告ニ訴訟費用ヲ負擔セシムルハ至當ナリ

又原告ガ訴ヘタル請求ヲ拋棄シタル時ハ第二百二十九條ニ從ヒ被告ガ訴ノ却下ヲ申立テタルトキハ訴ノ却下ヲ言渡シ本案ニ付キ判決ヲ爲スト雖モ若シ却下ノ申立ナケレバ事件判決ナク完結スルヲ以テ訴ニ依リ生ジタル費用ノ負擔者ヲ定ムル必要アルトキハ訴ノ取下ヲ爲シタル場合ト同一ノ理由ニ因リ原告ヲ費用ノ負擔者ト定ムルハ至當ナリ又被告ガ相手方ノ請求ヲ認諾スル時ニモ原告ガ請求ヲ拋棄シタルト同ジク判決ナク事件完結スルコトアリ依テコノ場合ニ於テハ判決ナクモ被告敗訴シタルト同樣ニ看做シ被告ニ訴訟費用ヲ負擔セシムルハ至當ナリ是レ本條第二項ノ規定アル所以ナリ

**第七十三條** 當事者ノ各方一分ハ勝訴ト爲リ一分ハ敗訴ト爲ルトキハ其費用ヲ相消シ又ハ割合ヲ以テ之ヲ分擔ス可シ第一ノ場合ニ於テハ各當事者ハ其支出シタル費用ヲ自ラ負擔シ他ノ一方ニ對シ辨濟ヲ請求スルコトヲ得ス

然レトモ裁判所ハ相手方ノ要求格外ニ過分ナルニ非ス且別段ノ費用ヲ生セサリシトキ又ハ判事ノ意見、鑑定人ノ鑑定若クハ相互ノ計算ニ因リ要求額ヲ定ムルニ非サレハ容易ニ過分ノ要求ヲ避クルコトヲ得サリシトキハ當事者ノ一方ニ訴訟費用ノ全部ヲ負擔セシムルコトヲ得

**註疏** 本條ハ訴訟費用ノ負擔ニ關スル規定ナリ

當事者ノ各方一分ハ勝訴トナリ一分ハ敗訴トナルトキトハ原告ガ過分ノ要求ヲ爲シタルトキ例ヘバ八千圓ノ請求ヲ爲シタリシニ其中五千圓ノミハ正當ニシテ勝訴ト爲リ三千圓

ハ不當ニシテ敗訴トナリタル如キ場合又ハ反訴ノ提起アルトキ本訴ハ勝訴ト爲ルモ反訴ニ於テ敗訴ト爲リタルガ如キ場合是ナリ

割合ヲ以テ之ヲ負擔スベシトハ裁判所ノ意見ヲ以テ之ヲ定ムベキモノニテ係爭物ノ價格又ハ金額ノミヲ以テ割合ノ標準ト爲サズ當事者ガ作爲ニ依リ生ゼシメタル狀況ヲモ標準ト爲ス而シテ其割合ノ定ハ例ヘバ原告ニ三分二ヲ被告ニ三分一ヲ負擔セシメ又ハ費用ノ五分ノ一ヲ被告ニ負擔セシメ殘餘ヲ相消スベキモノト定ムルガ如シ

第二項ノ要求格外ニ過分ナルニ非ズ且別段ノ費用ヲ生ゼザリシトキハ例ヘバ五百圓以上七百五十圓以下ノ訴訟ノ裁判費用ハ十三圓ト定メタルトキ六百圓ノ訴ヲ爲シタル場合ニ五百圓ノ請求ハ正當ナリトノ判決ヲ受ケ殘百圓ハ請求スル權ナシトノ判決ヲ受ケタル場合ノ如シ何トナレバ此場合ニ於テ百圓ハ過分ナル要求ナルモ七百五十圓マデハ十三圓ノ費用ナルヲ以テ爲メニ費用ノ增加スルコトナケレバナリ

容易ニ過分ノ要求ヲ避クルコトヲ得ザリシトキハ判事ノ意見若クハ鑑定人ノ鑑定ニ依ルニ非ザレバ正當ナル要求額ヲ定ムルコトヲ得ザル場合ヲ云フ例ヘバ損害ノ賠償ヲ求ムル訴ノ場合ニ於ケルガ如シ

**第七十四條** 被告直ニ請求ヲ認諾シ且其作爲ニ因リ訴ヲ起スニ至ラシメタルニ非サルトキハ訴訟費用ハ原告ノ勝訴ト爲リタルニ拘ハラス其負擔ニ歸ス

註疏 第七十二條ニ依レバ敗訴者ガ訴訟費用ヲ負擔スルヲ以テ原則トス然ルニ本條ノ條文ヲ一瞥スレバ如何ニモ第七十二條ノ原則ニ對スル例外ノ如クナルモ其實否ラズ本條モ亦同一旨趣ニシテ訴ヲ起スノ必要ナキ場合ニ原告訴ヲ起シタルトキハ爲メニ生シタル訴訟費用ハ被告之ヲ負擔スルノ義務ナキコトヲ定メタルニ外ナラズ

被告直チニ請求ヲ認諾シトアルハ原告請求ノ權利ヲ認ムルヲ云フ故ニ同一意義ニ非ズ自白ハ事實ヲ認ムルノ謂ナリ

又其作爲ニ因リ訴ヲ起スニ至ラシメタルトキトハ例ヘバ原告ガ被告ニ對シテ義務履行ノ起訴ヲ爲シタル場合ニ被告ハ其義務ヲ爭ヒ又ハ履行ヲ怠リタルキノ如シ之レ實ニ被告ノ所爲ニ因リ訴ヲ起スニ至ラシメタルモノナレバ被告ニ於テ訴訟費用ヲ負擔スベキハ當然ナリ

之ヲ要スルニ訴ヲ起スヲ俟タズシテ義務ノ履行ヲ得可キニ訴ヲ起シ爲メニ生ジタル訴訟費用ハ原告ノ勝訴トナリタルニ拘ラズ原告之レヲ負擔スベシト云フニアリ

**第七十五條** 期日若クハ期間ヲ懈怠シ又ハ自己ノ過失ニ因リ期日ノ變更辯論ノ延期辯論續行ノ爲メニスル期日ノ指定期間ノ延長其他訴訟ノ遲滯ヲ生セシメタル原告若クハ被告ハ本案ノ勝訴者トナリタルニ當事者

拘ハラズ此カ爲メニ生シタル費用ハ負擔ス可シ

註疏　期日ノ變更トハ期日ノ始マル前即チ事件ノ呼上ゲヲ爲サヾル前其期日ヲ取消シ再ビ期日ヲ定ムル場合ヲ云フ

辯論ノ延期トハ事件ノ呼上ゲ後ニ辯論ヲ他日ニ延期スル場合ヲイフ右二者ノ區別ノ標準ハ一ハ事件ノ呼上ゲ前ニ於テ前ノ期日ヲ取消シ再ビ期日ヲ定ムルト他ノ一ハ事件ノ呼上ゲ後ニ於テ前ノ期日ヲ取消シ再ビ期日ヲ定ムルトノ差アルノミ

辯論續行ノ爲メニスル期日ノ指定トハ辯論ノ期日ニ當リ辯論ヲ爲シタルモ當日之レヲ結了スルヲ得ズ仍ホ他日ヲ俟チテ辯論ヲ爲スノ必要アル場合ニ於テ再ビ辯論ノ期日ヲ指定スルヲ云フ又期間ノ延長トハ期間ヲ長カラシムルヲ云フ

又其他訴訟ノ延滯ヲ生ゼシメタルトハ始メヨリ提出スルコトヲ得可キ權利ノ伸張又ハ防禦ノ方法ノ申立ヲ爲サズシテ後ニ至リ提出シタル爲メ訴訟ノ進行ヲ鎖ラシタルキノ如キヲ云フ

右ニ掲グル事項ノ爲メ生ジタル費用ハ勝訴者ト爲ルモ其過失ニ依リ生ジタルモノナルトキハ訴訟費用ヲ負擔セザル可カラザルコトヲ定メタルナリ

**第七十六條**　裁判所ハ無益ナル攻擊又ハ防禦ノ方法（證據方法ヲ包含ス）ヲ主張シタル原告若クハ被告ヲシテ本案ノ勝訴者ト爲リタルニ拘ハラズ其方法ノ費用ヲ負擔セシムルヿヲ得

註疏　攻擊又ハ防禦トハ主張シ又ハ抗辯スルコトヲ云フ証據方法ハ攻擊防禦ノ方法中ニ包含スルモ亦或ハ包含セザルコトアリ、本條ニ括弧ヲ附シ証據方法ヲ包含スト記入シタルハ攻擊防禦ノ方法中ニ入ル可キヤ否ヤヲ疑フモノアランガ爲ナリ

本條ヲ適用スル場合ハ攻擊又ハ防禦ノ方法ヲ提出スルモ勝訴ニ關係ナキ無效ノ場合ヲ云フ例ヘバ賣掛代金請求ノ訴訟ニ付テ被告ハ最初既ニ支拂ヲ爲シタルノ抗辯ヲナシ證據トシテ証人ヲ指名シタルニヨリ其証人ヲ訊問シタルニ被告申立ノ證明相立タズ後チ被告ハ又消滅時效ノ抗辯法ヲ申立テ遂ニ其勝訴ト爲リタリトセンカ曩キニ證人申請ニ關スル費用ハ勝訴ニ關係ナキモノニ付キ被告即チ勝訴者ニ於テ負擔セザルガ如シ

**第七十七條**　無益ナル上訴又ハ取下ケタル上訴ノ費用ハ之ヲ提出シタル原告若クハ被告ノ負擔ニ歸ス

註疏　上訴ヲ取下ケ又ハ上訴ヲ爲スモ無益ナル場合即チ訴ノ却下ヲ受クルトキハ訴ヲ取下クル場合ト同一ナレバ第七十二條ノ規定ニ依リ上訴者ヲ敗訴者ト看做シ之レニ費用ヲ負擔セシムルコトヲ得ルガ如ク其ノ上訴ノ提出者ナル原告若クハ被告ニ於テ費用ヲ負擔セザル可カラズ

**第七十八條**　上訴ニ因リ裁判ノ全部又ハ一部ヲ廢棄若クハ破毀スルトキ

キハ訴訟ノ總費用（上訴ノ費用ヲ包含ス）ノ裁判ハ本案ノ終局裁判ト併合シテ更ニ之ヲ爲スベシ原告若クバ被告ガ前審ニ於テ主張スルコトヲ得ベカリシ事實又ハ攻擊若クバ防禦ノ方法ヲ新ニ提出スルニ因リ勝訴者ト爲ルトキハ其原告若クハ被告ニ上訴費用ノ全部又ハ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得

註疏　上訴即チ控訴又ハ上告ニ因リ裁判ノ全部又ハ一分ヲ取消シタルトキハ訴訟費用ニ付テモ本案ノ終局裁判ト同時ニ之レガ裁判ヲ爲ス可シ廢棄トハ故障又ハ控訴ヲ爲シタル時前裁判ヲ取消スコトヲ云ヒ破棄トハ上告アリタル時其上告裁判所ニテ前裁判ヲ取消スコトヲ謂フ

第二項ハ前審ニ於テ主張スルコトヲ得ベカリシ事實ヲ新タニ上訴ニ於テ提出シタルトキハ勝訴トナルモ全部又ハ一部ノ費用ヲ負擔セシムルナリ畢竟提出スベキ事項ハ速カニ提出セシムルノ旨趣ニシテ本條モ亦故意ヲ以テ訴訟ヲ遲滯スルヲ防グ所ノ方法ナリ

茲ニ注意スベキハ第一項中ノ上訴ノ語ハ控訴及ビ上告ヲ包含スルモ第二項ノ上訴ノ語ハ只控訴ニノミ適用ス何トナレバ第二項ハ事實ニ關スル上訴ニ付テノ規定ナルコトハ事實又ハ攻擊云々ト記シタルニ因リ明ナリ

**第七十九條**　當事者カ訴訟物ニ付キ和解ヲ爲ストキハ其訴訟ノ費用及ヒ和解ノ費用ハ共ニ相消シタルモノト見做ス但當事者別段ノ合意ヲナシタルトキハ此限ニアラス

註疏　和解ニ關スル規定ハ第百卅條第二百廿一條第三百八十一條第五百五十九條ニ之アリ

本條ニ當事者ガ訴訟物ニ付テ和解ヲ爲シタルトキハ訴訟及ビ和解ノ費用ハ共ニ相消シタルモノト看做スハ和解ヲナシタル場合ハ當事者ノ各方孰レモ勝訴セズ又敗訴セザルモノナルガ故ニ第七十三條ノ場合ト同視シ費用ヲ相消シタルモノト看做スナリ然レトモ合意ヲ以テ各自ノ負擔ヲ定メタルトキハ格別ニシテ其合意ニ從ハザル可カラズコレ但書アル所以ナリ

**第八十條**　法律ノ規定ニ從ヒ費用ニ付キ共同訴訟人ノ連帶義務ノ生ゼサルトキニ限リ其共同訴訟人ハ相手方ニ對シ平等ニ費用ヲ負擔ス然レトモ共同訴訟人ノ訴訟ニ於ケル利害ノ關係著シク相異ナルトキハ裁判所ハ其利害關係ノ割合ニ從ヒ費用ヲ負擔セシムルコトヲ得

共同訴訟人中ノ或ル人カ特別ノ攻擊又ハ防禦ノ方法ヲ主張シタルトキハ他ノ共同訴訟人ハ此カ爲メ生シタル費用ヲ負擔セス

註疏　本條ハ共同訴訟人ノ費用ノ負擔方法ヲ定メタルモノナリ而シテ本條ノ要件ハ共同

訴訟人ノ訴敗スルコト之ナリ若シ敗訴セザレバ費用ヲ負擔スルノ責任ヲ生ゼサルヤ勿論トス

茲ニ謂フ法律ノ規定ニ從ヒ費用ニ付キ共同訴訟人ノ連帶義務ノ生ゼザルトキハ連帶義務ヨリ生ゼザル共同訴訟ノ場合ニシテ共同訴訟人ガ訴訟費用ヲ連帶シテ負擔スベキ義務ヲ規定スル法律ヲ指示スルニ非ズ又如此キ法律ノ規定ナシ第四十八條ノ規定ニ依ルトキハ連帶義務ヨリ生ズル共同訴訟アリ本條ニ云フ所ハ連帶義務ヨリ生ズル共同訴訟ノ場合ニ於ケル費用ニ非ズシテ其他ノ場合ニ於ケル費用ハ之ヲ平等ニ負擔スベク定メタルナリ而シテ此各自平等ニ費用ヲ負擔スベク定メタル理由ハ畢意計算ヲ容易ニ且迅速ニ爲サンガ爲メノミ

然レドモ共同訴訟人ノ各自ノ利害ノ關係著シク相異ナルトキハ例ヘバ或者訴訟行爲ヲ懈怠シタル場合又ハ或者ノ請求ハ他ノ者ノ請求ニ比シテ多額ナル場合等ハ利害ノ割合ニ應ジテ費用ヲ負擔セザル可カラズ之レ第一項末段ノ例外トス

第二項ハ前項ノ但書ト同一ノ旨趣ナリ共同訴訟人中ノ或ル人ガ特別ノ攻擊又ハ防禦ノ方法ヲ使用シタルトキハ其モノハ爲メニ生ジタル費用ヲ負擔セザル可カラズ之レ特別ノ攻擊又ハ防禦ノ方法ハ他ノ者ニ利害ノ關係ナキニ依ル

**第八十一條** 從參加ニ對シ原告若クハ被告カ異議ヲ述ブルトキハ其異議ノ決定ニ於テ從參加人ト其原告若クハ被告トノ中間訴訟ノ費用ニ付キ第七十二條乃至第七十八條ノ規定ニ從ヒテ裁判ヲ爲ス可シ

從參加人ヲ許シタルトキ又ハ異議ヲ述ベサルトキハ本訴訟ノ判決ニ於テ從參加人ト相手方ナル原告若クハ被告トノ間ニ從參加ニ因リ生シタル費用ニ付テモ亦前數條ノ規定ニ從ヒテ裁判ヲ爲ス可シ

**註疏** 本條第一項ヲ案ズルニ從參加人ニ對シ異議ノ申立アリタル場合ニ決定ヲ以テ從參加ヲ許サヾルトキハ從參加人訴訟ヨリ脫退スルヲ以テ此決定ハ從參加人ニ取リテハ終局裁判ニシテ他ニ判決ヲウクルコトナシ之レ決定中ニ費用ノ裁判ヲ渴グル所以ナリ

第二項ハ從參加ヲ許シ又ハ之レニ對シテ異議ヲ述ベザル場合ニ於テハ從參加人ヲ本案ノ辯論ニ參加セシメ裁判ヲナスニ至ル故從參加ヨリ生ジタル費用ニ付テノ裁判ハ本訴訟ノ判決ニ於テ爲ス可ク定メタルナリ

**第八十二條** 費用ノ點ニ限リタル裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス然レドモ本案ノ裁判ニ對シ許ス可キ上訴ヲ提出シ且ツ追行スルトキニ限リ費用ノ點ニ付キ不服ヲ申立ツルコトヲ得

費用ノ點ニ限リタルトキト雖モ相手方ヨリ提出シタル上訴ニ附帶スル場合ニ於テハ不服申立ツルコトヲ得

註疏　費用ノ點ニ限リタル裁判トハ本案ノ裁判ヲ爲サズシテ費用ノ裁判ヲ爲ス場合ヲ云フ卽チ訴訟ノ取下ゲヲナシタルトキ原告其請求ヲ抛棄シ又ハ被告之レヲ認諾シタルトキ訴ノ却下又ハ敗訴ノ言渡ノ申立ナキガ爲メ訴訟裁判ナクシテ完結シタル場合又ハ和解ニ依リ訴訟完結シタル場合等ニ於テ只費用ノ負擔者ヲ定ム可キ申立アルトキ其裁判ヲナス場合ナリトス本案ノ裁判ニ對シテ不服ナクシテ只費用ノ裁判ニ對シテ不服アルコトアリ此場合ニ於テ獨リ費用ニ對スル不服ノ申立テヲ許ストキハ費用ノ裁判ノ當否ヲ調査スルニ當リ勢ヒ本案ノ調査ヲ爲サヽル可カラズ而シテ本案ノ裁判ノ不法ナルコトヲ發見スルモ本案ニ付テハ不服ヲ申立テザルニ依リ之レヲ奈何トモス可カラズ費用ノミニ對シテ裁判ヲ與ヘンカ本案ノ裁判ト牴觸シタル裁判ヲ與ヘザルヲ得ズ如此キ不都合ナル結果ヲ生ズルガ故ニ費用裁判ノミニ對スル不服ノ申立ヲ許サヾルニアリ

費用ニ對スル不服ト雖モ本案ニ對スル不服ノ申立ト共ニ申立テタルトキハ之ヲ許スナリ何トナレバ本案ト共ニ爲シタルトキハ前ニ述ベタル如ク本案ノ裁判ト費用ノ裁判ト牴觸スルノ不都合ナケレバナリ然レドモ右ハ本案ニ對シ單ニ上訴スルヲ以テ足レリトセズ法律上許ス上訴ナルコトヲ要ス且其上訴ヲ追行スルコト卽チ上訴ヲ爲スモ本案ニ付キ之レヲ取下ゲズ又ハ本案ノ裁判ノ變更ナドヲ申立ツル等ヲ條件トス否ラザルトキハ只費用ノミニ對シテ上訴ヲ許スト同一ノ結果ニ至レバナリ

第二項ノ場合ニ於テ之ヲ許ス所以ハ本案ノ調査ヲナサヾル可カラザルヲ以テ右述ベタル不都合ノ生ズルコトナケレバナリ

## 第八十三條　裁判所書記、法律上代理人辯護士其他ノ代理人及ヒ執達吏ノ過失又ハ懈怠ニ因リ生シタルトキハ受訴裁判所ハ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ其費用ノ辨濟ヲ負擔セシムル決定ヲナスコトヲ得

但決定前關係人ニ口頭又ハ書面ニテ陳辯ヲナス機會ヲ與フベシ

此裁判ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲナスコトヲ得其決定ニ對シテ卽時抗告ヲ爲スコトヲ得

註疏　本條ハ裁判所書記法律上代理人辯護士其他ノ代理人及ヒ執達吏ノ過失又ハ懈怠ニ因リ生シタル費用ノ辨濟ヲ命ズル決定ヲ爲スヲ得ルコトヲ定メタリ而シテ其過失懈怠トハ例ヘバ辯護士ガ口頭辯論ノ期日ニ出頭セズシテ欠席判決アリシ場合又ハ執達吏ガ過失ニテ送達ヲ法律ノ規定ニ從ハズシテ爲シタル場合若クハ裁判書記ガ第百三十六條ノ規定ニ從ヒ其執權ヲ以テ送達スベキニ送達セズ又ハ期回ニ後レテ送達シタル場合ノ如シ

茲ニ所謂受訴裁判所トハ其事件ヲ受理シタル裁判所ト云ヘルガ如キ廣義ノ意味ニテ第一審ノ受訴裁判所ヲ指スニアラズ故ニ第一審裁判所タルト否トヲ問ハズ現ニ事件ノ繫屬スル裁判所ヲ指シタルモノトス

當事者

又職權ヲ以テトアリ其申立テアリタルトキハ受訴裁判所ガ其決定ヲ爲シ得ルハ當然ナレドモ其申立ナキニ裁判所職權ヲ以テ其決定ヲ爲スハ如何ト云ニ蓋シ過失懈怠アル者ニ其費用ヲ負擔セシメテ事件ヲ駿速ニ完結セシメンガ爲メナリ

**第八十四條** 辨濟スヘキ費用額ノ確定ハ申請ニ因リ訴訟ノ第一審ニ繫屬シタル裁判所ノ決定ヲ以テ之ヲ爲ス

申請ハ第七十二條第二項又ハ上訴取下ノ場合ヲ除ク外執行シ得ヘキ裁判ニ依ルトキニ限リ之ヲ爲スコトヲ得

申請ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

申請ニハ費用計算書相手方ニ附與ス可キ計算書ノ謄本及ヒ各箇費用額ノ疏明ニ必要ナル證書ヲ添付ス可シ

註疏 本條ハ訴訟費用ノ負擔ニ付相手方ヨリ辨濟ヲ受クベキ金額ヲ確定セシムル規定ナリ費用額確定ノ申請ニ因リ確定シ得ベキ費用ハ第一審裁判所ニ於テ生シタル費用ノミニ限ルニアラズ第一審ニ於テ生シタル費用ト上級審ニ於テ生シタル費用トヲ別タズ總ベテ第一審裁判所ニ於テ之ヲ確定ス是レ畢竟便宜上ヨリ出デタルモノニシテ元來第一審裁判所ハ當事者ノ居所其近傍ニ在ルノミナラズ訴訟記錄ハ通例第一審裁判所ノ保管ニ屬スルガ故ニ最モ容易ニ又最モ正當ニ其確定ヲ爲シ得ベケレバナリ費用額確定ノ手續ハ相手方ガ既ニ辨濟ヲ爲シ其當時負擔スベキ義務アリヤ否ヤハ之ヲ問ハズ若シ既ニ辨濟シガルニ因リ異議ヲ述ベント欲スル者ハ費用ニ付强制執行ヲ受クルニ際シ第五百四十五條ニ從ヒ異議ヲ述ブルコトヲ得ルノミ而シテ此强制執行ハ第五百五十九條第一號規定ニ從ヒ之ヲ爲スコトヲ得而シテ此場合ニ於テ其執行力ヲ有スル正本ヲ第五百十六條ノ規定ニ從ヒ要スルナリ

第二項ニ因ルニ費用額確定ノ申請ヲ爲スニハ執行シ得ベキ裁判ニ基クコトヲ必要トス然レドモ第七十二條第二項ノ場合即チ訴ヲ取下ゲ請求ヲ拋棄シ又ハ相手方ノ請求ヲ認諾シタル場合又ハ上訴ノ取下ゲヲ爲シタル場合ハ其例外トス此訴ノ取下ゲノ場合ハ素ヨリ判決アルベキ道理ナキニ因リ從テ執行シ得ベキ裁判ノアラザルハ當然ニシテ又拋棄若クハ認諾ノ場合ニ於テ判決ノ申立ナキトキモ亦執行ス可キ裁判ノ生ゼザルヤ亦明ケシ上訴取下ゲノ場合ニ於テモ亦然リ此等ノ場合ニ於テハ費用ノ負擔者ハ第七十二條第二項ノ規定ニ依リ明カニシテ毫モ疑ヒナキヲ以テ右等ノ費用確定ノ申請ニ付キ執行シ得ベキ裁判ノ存在スルコト必要トセズ例ヘバ原告ガ訴ヲ取下ゲタルトキハ敗訴者ト看做シ其者ヲシテ費用ノ負擔者ト爲スト確定シ假令ヒ再ビ訴訟ヲ提起シ原告ガ勝訴者トナルモ前ノ費用ハ原告ニ於テ負擔セザル可ラザルニ依リ茲ニ例外ノ規定ヲ設ケ一ニ便宜ヲ計ルニアリ

第四項ニ申請ニ添附シテ差出ス計算書ニハ各費用額ヲ示シ且其費用額ハ權利ノ伸張及ヒ當事者

防禦ノ爲メニ必要ナル證書ヲ添付ス何トナレバ裁判所ガ其額ヲ確定スルニハ第七十二條ニ從ヒ其費用ガ權利ノ伸張及ビ防禦ニ必要ナリシモノニ限リ辨濟セシムルモノナレバナリ而シテ計算書ノ謄本ヲ相手方ニ送達スル所以ハ相手方ヲシテ其申請ニ對シ口頭辯論ヲ爲スノ準備ヲ爲サシメ又其決定ニ對シテ抗告ヲ爲ス爲メニ便センガ爲メナリ

**第八十五條** 費用額確定ノ裁判ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得

裁判所ハ裁判所書記ニ費用計算上ノ檢査ヲ命スルヿヲ得

裁判所ハ費用額確定ノ決定ヲ爲ス前相手方ニ計算書ヲ付與シテ裁判所ノ定ムル期間内ニ陳述ヲ爲ス可キ旨ヲ之ニ催告スルコトヲ得

此決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

**註疏** 第一項ニ依レル費用額確定ノ裁判ハ口頭辯論ヲ經ズシテ爲スコトヲ得ルモノナレドモ假令口頭辯論ヲ開カザルトキニテモ相手方ニ書面ヲ出シテ之ヲ審訊スルハ此ガ爲メニ妨ゲラレズ

第二項ハ各費用額確定ノ決定ハ其費用ノ果シテ權利ノ伸張及ビ防禦ニ必要ナリヤ否ヤヲ檢査シ又其費用ハ正當ナリヤ否ヤ例ヘバ旅費日當ノ請求ハ之ニ關スル規則ニ從ヒテ爲シタルモノナルカヲ檢査シ以テ其決定ヲ爲サヾル可カラザルモノナルガ故ニ元來裁判官ノ爲ス可キモノナリト雖モ計算正否ノ檢査ノ如キハ固ト機械的ノ事柄ナレバ書記ヲシテ之ニ當ラシムルノ便法ヲ設ケタリ

末項ノ相手方ニ計算書ヲ附與シテ其陳述ヲ聞クハ口頭辯論ヲ爲サズシテ決定ヲ爲ス場合ニ必要ヲ見ルナリ

**第八十六條** 當事者ハ訴訟費用ノ全部又ハ一分ヲ割合ニ從ヒ分擔ス可キトキハ裁判所ハ費用額確定ノ決定ヲ爲ス前相手方ニ裁判所ノ定ムル期間内ニ其費用ノ計算書ヲ差出ス可キ旨ヲ催告ス可シ此期間ヲ徒過シタル後ハ費用額確定ノ決定ハ相手方ノ費用ヲ顧ミス之ヲ爲ス可シ但相手方ハ後ニ自己ノ費用ヲ以テ其費用額確定ノ申請ヲ爲ス妨ト爲ルコト無シ

**註疏** 其費用ノ全部ヲ割合ヒ分擔スルトハ例ヘバ全費用ノ三分ノ一ヲ原告ガ負擔シ其三分ノ二ヲ被告ガ負擔スルガ如シ又一分ヲ分擔スルトハ例ヘバ證據調ノ費用及ビ其他ノ費用ノ三分ノ二ハ原告ニ於テ之ヲ負擔シ殘餘ノ三分ノ一ヲ被告ニ於テ負擔スルガ如シ

裁判所ニ於テ其費用額確定ノ決定ヲ爲スニ相手方ニモ計算書差出ノ催告ヲ爲スノ必要ハ當事者ノ費用ヲ分擔ス可キ場合ニ於テ當事者一方ノ差出シタル計算書ノミニシテ若シ相手方ニ生シタル費用ノ若干ナルカ分明ナラザルトキハ正當ニ其決定ヲ爲スヲ得ザレバナ

リ例ヘバ費用ノ三分ノ一ヲ原告ニ於テ負擔シ三分ノ二ヲ被告ニ於テ負擔ス可キ裁判アリト假定セン二一方ニ生シタル費用ノミニテハ其三分ノ一若クハ三分ノ二ハ若干ナルヤ之ヲ知ルニ由ナシ然レドモ必ズ相手方ノ計算書ヲ要スルモノト爲ストキハ相當ノ期間ヲ定メ其期間内ニ差出ス可キノ催告ヲ爲シ尙シ仍ホ其期間ニ差出サルヽトキハ初メテ相手方ノ費用ヲ顧ミズ一方ノ計算書ノミニテ其決定ヲ爲スナリ然レドモ此ガ爲ニ相手方ハ固有ノ權利ヲ失却スルモノニアラザルガ故ニ後日自己ノ費用ヲ以テ再ヒ費用額確定ノ申請ヲ爲スノ妨トナルコトナシ

## 第六節　保　證

**註疏**　本節ノ保證トハ當事者ノ一方ガ他ノ一方ノ訴訟ヲ提起スルニ因リ己レニ被ラシメントスル損害ヲ償ハシムル爲メ豫メ立テシムル擔保ヲ云フ

**第八十七條**　訴訟上ノ保證ハ當事者カ別段ノ合意ヲ爲ス場合又ハ此法律ニ於テ保證ヲ定ムルコトヲ裁判所ノ意見ニ於テ擔保ニ十分ナリトスル現金又ハ有價證券ヲ供託シテ之ヲ爲ス

**註疏**　本條ハ訴訟上ノ保證ヲ立ツルニ際シ其所謂保證ハ如何ナルモノヲ以テスベキヤヲ定メタルナリ

當事者ガ別段ノ合意ヲ爲ストハ保證ト爲スベキ物及ヒ價ニ付キ自由ナル合意ヲ爲スコトニテ其合意ヲ以テ保證ヲ定メタルトキハ其定メタル物ヲ以テ保證ト爲サヾル可カラズ若シ當事者ガ合意ヲ以テ擔保物ヲ定メザルトキハ本條ノ規定ニ從ハザル可カラズ

裁判所ノ意見ニ於テ擔保ニ充分ナリトスル所ノ保證物ハ獨リ現金及ヒ有價證券ニシテ現金トハ内國通用ノ貨幣ノミヲ云フニ非ズ國ノ内外ヲ問ハズ實際上貨幣ト見做ス可キ貨幣紙幣及ヒ銀行券等ニシテ内國貨幣ニ換算シ得ルモノヲ云フ而シテ有價證券トハ財産上ノ價値ヲ有スル證券ノ謂ニシテ苟モ金額ヲ記載シタル書面ハ總テ之ヲ稱シテ有價證券ナリト云フコトヲ得ズ即チ夫ノ金錢貸借ノ證書ノ如キ又ハ預リ證書ノ如キハ金額ヲ記載スルモ之ヲ有價證券ト云フコトヲ得ズ何トナレバ之レ單ニ債權ノ存在ヲ證明スル證據タルニ過ギズ獨立シテ財産ノ價値ヲ有スルモノニアラザルヲ以テナリ

**第八十八條**　原告又ハ原告ノ從參加人タル外國人ハ被告ニ對シ其求ニ因リ訴訟費用ニ付キ保證ヲ立ツ可シ

左ノ場合ニ於テハ保證ヲ立ツルノ義務ヲ生セス

第一　國際條約又ハ原告ノ屬スル國ノ法律ニ依リ本邦人カ同一ノ場合ニ於テ保證ヲ立ツル義務ナキトキ

第二　反訴ノ場合

第三　證書訴訟及ヒ爲替訴訟ノ場合

第四　公示催告ニ基キ起シタル訴ノ場合

註疏　外國人ノ原告タルトキ又ハ原告ノ從參加人タルトキ訴訟費用辨濟ノ保證ヲ立テシメ內國人ノ原告タルトキ保證ヲ立テシメザルハ公平ヲ欠グガ如クナルモ決シテ否ラズ內國人原告ニシテ若シ敗訴シタルトキハ原告ガ有スル財產ヲ差押ヘ以テ其辨濟ニ充ツルノ途アルモ外國人原告ニシテ敗訴シ且本邦ニ於テ有スル財產ヲ携ヘ歸國シ去ルトキハ遂ニ其辨濟ヲ受クル能ハザルニ至ル可シ故ニ本條ノ如ク規定シタルナリ

然レドモ右ニ揭グル數箇ノ場合ニ於テ原告タル外國人ハ保證ヲ立ツルノ義務ナシ

第一　本邦人ガ外國ニ於テ訴訟ヲ爲スニ當リ其國ノ法律又ハ條約ニ因リ保證ヲ立ツルノ義務ナキトキハ其國ノ外國人ガ本邦ニ於テ訴訟ヲ爲スニ當リテモ亦保證ヲ立ツルノ義務ハナシ之レ權利平等ノ原理ニ出デタル規定ナリ

第二　相手方ガ既ニ提起シタル訴訟ニ對シ反訴ヲ爲ス場合ニハ保證ヲ立ツルノ義務ナシ何トナレバ此場合ニ於テ相手方ノ攻擊ニ依リ反訴ヲ爲スニ至ルモノナレバナリ

第三　證書訴訟及ヒ爲替訴訟ハ最モ迅速ニ訴訟ヲ完結スル爲メニ設ケタルモノナルニ通常ノ場合ノ如ク保證ヲ要スルトキハ此ガ爲ニ訴訟ヲ遲延シ立法者ガ之ヲ設ケタル趣旨ニ反スルニ至レバナリ然レドモ證書訴訟及ヒ爲替訴訟ヲ變シテ通常ノ訴訟ト爲



シタルトキハ保證ヲ立テザル可カラザルハ勿論ナリ

第四　相手方ガ爲シタル公示催告ニ基キ訴ヲ起シタルトキハ第二ノ場合ト同シク已ムヲ得ス訴ヲ起スモノナレバ保證ヲ立ツルノ義務ナキヤ明カナリ

## 第八十九條　裁判所ハ前條第一項ノ場合ニ於テハ保證ヲ立ツヘキ數額ヲ確定ス可シ

此數額ヲ確定スルニハ被告ノ訴ヲ受ケタルカ爲メ各審級ニ於テ支出ス可キ訴訟費用ノ額ヲ標準ト爲ス可シ

訴訟中ニ保證ノ不足ヲ生シ且追增保證ヲ立ツ可キコトヲ被告カ求ムルトキハ前項ト同一ノ手續ニ依ル可シ但爭ナキ請求ノ部分カ擔保ニ十分ナルトキハ此限ニアラス

註疏　訴訟費用ノ保證ヲ立ツ可キ數額ヲ確定ス可キ裁判所ハ必シモ第一審ノ裁判所ノミニアラズ第二審以上ノ裁判所ニ於テモ之ヲ爲スコトアリ故ニ此ニ所謂裁判所トハ保證ヲ立ツルコトノ求ヲ受ケタル裁判所ト云フ意味ニ外ナラズ被告ガ訴ヲ受ケタル爲メ求ムル訴訟費用ノ保證ハ第一審裁判所ニ於テ要スル費用ノミナラズ第一審ノ判決ニ對シ上訴ヲ爲シタルトキ上級審ニ於テ生ズル費用ノ概算額ニ對スル保證トス

訴訟ノ初メニ於テ定メタル保證額ハ元來費用ノ概算ナレバ訴訟進行中費用ノ不足ヲ生ズ

當事者

ル事アリ例ヘバ訴訟中證據保全ノ必要ヲ生ズルガ如シ此費用ノ如キハ決シテ豫知ス可カラザルモノナレバ被告ヨリ追增保證ノ求メアルトキハ之ヲ立テザル可カラズ然レドモ最初ニ定メタル額ガ訴訟費用ヲ償フニ不足スルモ請求中ノ爭ナキ部分ヲ以テ之ヲ充レバ十分ナルトキハ追增保證ヲ求ムルコトヲ得ズ例ヘバ被告ガ原告請求ノ一分ヲ認諾シタルトキ即チ原告ガ預金二千圓辨濟ノ請求ヲ爲シ被告ガ其内五百圓ニ付テ義務アルコトヲ認諾シタリトセシトキハ其五百圓ハ異議ナク原告ニ支拂フ可キモノナル故之ヲ以テ保證額不足ノ塡補トスレバ被告ニ於テ損害ナシ依テ如斯場合ニ於テハ追增保證ヲ求ムルヲ得ズト定メタルナリ

**第九十條** 裁判所ハ保證ヲ立ツ可キ期間ヲ定ム可シ

此期間ノ經過後裁判アルマテニ保證ヲ立テサル場合ニ於テハ被告ノ申立ニ因リ判決ヲ以テ訴ヲ取下ケタリト宣言シ又原告カ上訴ヲ爲シタルトキハ其上訴ヲ取下ケタリト宣言ス可シ

**註疏** 本條第一項ハ保護ヲ立ツル期間ヲ定メ第二項ハ保證ヲ立テザリシトキノ效果ヲ定ム夫レ裁判所ノ定メタル期間ヲ經過スル前及ビ保證ヲ立テザル間ハ本案ノ辯論ヲ爲スヲ得ザレドモ保護ヲ立テタルトキハ期間ノ經過前ト雖モ本案ノ辯論ニ着手スルコトヲ得保證ヲ立テズシテ期間ヲ經過シ又ハ期間伸張ノ申立ヲ爲スコトナキトキハ訴ヲ取下ゲタルモノト看做ス又原告上訴ヲ爲シタルニ依リ上級審ニ於テ原告ニ保證ノ追增ヲ命ジタルニ原告之ニ從ハザルトキハ其上訴ヲ取下ゲタルモノト看做シ判決ハ原告ノ爲メ確定スルヤリ此場合ニ於テ被告若シ附帶ノ上訴ヲ爲シ居タルトキハ其附帶上訴ハ原告ノ上訴取下ゲラレタルモノト看做サルヽト同時ニ其效力ヲ失ヒ若シ又被告上訴ヲ爲シ原告附帶ノ上訴ヲ爲シタル場合ニ於テ原告保證ヲ立テザルトキハ獨立シテ上訴ヲ爲シタル場合ト同ジク附帶上訴ヲ取下ゲタリト宣言シ若シ原告附帶上訴ヲ爲サヾルトキハ訴ヲ取下ゲタルト宣言スルヲ以テ至當トスルナリ斯ノ如ク上訴又ハ訴ヲ取下ゲラレタルモノト看做サルヽトキハ前判決確定スルニ至ルヲ以テ結局原告ノ損害タルヲ免カレズト雖モ爲メニ上級審ノ判決ニ對シ上訴ヲ爲シ又ハ欠席判決ニ對シ故障ヲ述ブルノ妨ゲトナルコトナシ

## 第七節 訴訟上ノ救助

**註疏** 訴訟上ノ救助トハ貧窮ニシテ裁判費用ヲ償フ資力ナキ者ニ其權利ノ伸張ヲ爲スヲ得セシムル爲メ訴訟費用救助ノ方法ナリ而シテ此訴訟上ノ救助ニ依リ費用ヲ出サズシテ權利ノ伸張即チ訴訟ヲ爲スコトヲ得セシムルハ單ニ起訴ニ依リ爲ス所ノ純然タル訴訟而已ナラズ其他本法中ニ揭グル所ノ各手續ニモ亦之ヲ適用ス故ニ證據保全ノ手續督促手續公示催告手續等ハ起訴ヲ要セズシテ爲ス手續ナリト雖モ仍ホ本節ニ依リ訴訟上ノ救助ヲ

受クルヲ得ベシ

**第九十一條** 何人ヲ問ハス自己及ヒ其家族ノ必要ナル生活ヲ害スルニ非ラサレハ訴訟費用ヲ出タスコト能ハサル者ハ訴訟上ノ救助ヲ求ムルコトヲ得但其目的トスル權利ノ伸張又ハ防禦ノ輕忽ナラス又ハ見込ナキニ非スト見ユルトキニ限ル

**註疏** 自己及ビ家族ノ必要ナル生活ノ程度トハ身分相應ノ生活ト云フ義ニ非ズ人間普通ノ生活ノ程度ヲ云フモノニシテ又訴訟費用ヲ出スコト能ハザル者トハ現ニ所持スル金錢ナクシテ之ヲ出ス能ハザル者ノミナラズ後ニ取得ス可キ金錢又ハ元本ノ利息其他ノ財産トヲ問ハズ一モ之レナク到底訴訟費用ヲ出ス能ハザル者ヲ云フ又必シモ財産ナキトキニ限ルニ非ズ財産アルトキトイヘドモ訴訟費用ヲ出ス能ハザル場合ハ此中ニ包含ス例ヘバ訴訟上ノ救助ヲ求ムル者ガ或ル人ニ金圓ヲ預ケタルニ預リ主其辨濟ヲ爲サヾルニヨリ之ニ對シ預金辨濟ノ訴ヲ起ス可キトキ其債權ノ外他ニ一モ財産ナキ場合ノ如シ

但書ノ制限ヲ設ケタルハ訴訟ヲ好ム貧窮人ノ濫訴ニ因リ無益ナル行爲ヲ爲スヲ避クル爲メニシテ而シテ其ノ權利ノ伸張又ハ防禦ノ輕忽ナラザルヤ否ヤ又見込ナキニアラザルヤ否ヤハ事實ヲ審査スルニ非ザレバ之ヲ知ル可カラズト雖モ訴狀及ヒ證據等ニ依リ容易ニ其輕忽ナルコト又ハ其見込ナキコトヲ認ムルコトヲ得ベキ場合アリ此場合ハ直チニ之ヲ拒ムコトヲ得ルナリ

**第九十二條** 外國人ハ國際條約又ハ其屬スル國ノ法律ニ依リ本邦人カ同一ノ場合ニ於テ訴訟上ノ救助ヲ求ムルコトヲ得ルトキニ限リ之ヲ求ムルコトヲ得

**註疏** 本條ハ外國人ガ訴訟上ノ救助ヲ求メ得ベキ條件ヲ規定シタリ其條件ハ本文ニ掲グル如ク本邦人ガ外國人ノ屬スル國ニテ訴訟ヲ爲ス場合ニ於テ國際條約又ハ國際條約ナキトキハ其國ノ法律ニ因リテ訴訟上ノ救助ヲ受クルノ權ヲ有スル場合是レナリ若シ此條件ヲ要セズトセンカ外國ニ於テ我國人ニ訴訟上ノ救助ヲ許サヾルニモ拘ハラズ我國ニ於テ外人ニ訴訟上ノ救助ヲ許シ彼我對等ノ原則ニ反スルニ至ルナリ

**第九十三條** 訴訟上救助ノ申請ハ訴訟ノ關係ヲ表明シ且證據方法ヲ開示シテ其救助ヲ求ムル審級ノ裁判所ニ之ヲ提出ス可シ其申請ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

原告若クハ被告ハ申請ノ提出ト共ニ管轄市町村長ヨリ發シタル證書ヲ出タスコトヲ要ス其證書ニハ原告若クハ被告ノ身分職業財産并ニ家族ノ實況及ヒ其納ム可キ直稅ノ額ヲ開示シテ訴訟費用支拂ノ無資力ヲ證ス可シ

當事者

註疏　救助ヲ求ムル審級ノ裁判所トハ事件ノ繫屬スル各審級ノ裁判所ヲイフ救助ノ申請ハ書面ヲ以テスルヲ要セズ口頭ニテモ爲スコトヲ得

第二項ハ原告若クハ被告ガ何等ノ證據ナクシテ訴訟上ノ救助ヲ求ムルヲ許サズ其憑據ヲ差出サシムルノ規定ナリ而シテ其依據スベキ證據トハ當事者ヲ直轄スル所ノ市町村長ヨリ發シタル身分職業財産幷ニ家族ノ實況及ビ其納ムベキ直稅ノ額ヲ開示シ以テ其無資力ヲ證明シタル書面ナリ

**第九十四條**　訴訟上ノ救助ハ各審ニ於テ各別ニ之ヲ付與ス第一審ニ於テハ强制執行ニ付テモ之ヲ付與スルモノトス前審ニ於テ訴訟上ノ救助ヲ受ケタルトキハ上級審ニ於テハ無資力ヲ證スルコトヲ要セス相手方上訴ヲ提出シタルトキハ上級審ニ於テハ訴訟上ノ救助ヲ求ムル原告若クハ被告ノ權利ノ伸張又ハ防禦ノ輕忽ナラス又ハ見込ナキニ非ズト見ユルヤヲ調査スルコトヲ要セス

註疏　訴訟上ノ救助ヲ受クルモノハ訴訟ノ完結スルニ至ル迄常ニ繼續シテ無資力ナリト斷定スルヲ得ズ訴訟中財産ヲ取得シ救助ヲ仰グノ必要ナキニ至ルヤモ知ル可カラザレバ訴訟上ノ救助ハ各審毎ニ之ヲ附與スベキモノト定メタリ故ニ第一審ノ手續完結ヲ告ゲ控訴ヲ爲シタル場合ニ於テ控訴裁判所ハ控訴手續ニ就テ救助ヲ與フモノトス何トナレバ控訴ヲ爲スノ當時ニ於テハ之ヲ與フルノ必要ナキニ至ルコトアレバナリ上告ノ場合モ亦然リ然レドモ欠席判決ニ對スル不服ノ申立卽チ故障申立ノ場合ハ此限ニアラズ故障ハ同級審ニ於テ之ヲ爲スモノナレバ別ニ救助ノ申請ヲ要セズ其審級ニ於テ嘗テ與ヘタル訴訟上ノ救助ヲ以テ足レリトス再審ノ訴ニ就テハ救助ヲ新タニ申請スルヲ必要トス何トナレバ再審ノ訴ハ裁判確定後初メテ起訴スルモノニシテ其起訴ノ當時財産ヲ有シ救助ヲ求ムル必要ナキニ至リシヤモ知ルベカラザレバナリ又强制執行ハ第一審ノ手續ニアラズシテ裁判後ニ於ケル獨立シタル別途ノ手續ナリ故ニ第一審ニ就テ訴訟上ノ救助ヲ與フルモ當然執行迄ヲ包含スルモノト云フヲ得ズ然ルニ本條第一項ニ第一審ニ於テハ强制執行ニ付テモ之ヲ附與スルモノトスト定メタルハ假令上訴スルコトアリトスルモ假執行ヲ爲スヲ通例トスル故便宜上斯ク規定シタルナリ

前審ニ於テ訴訟上ノ救助ヲ受ケタル者控訴又ハ上告ヲ爲シ上級審ニ於テモ訴訟上ノ救助ヲ求ムル場合ニハ前審ニ於テ立證シタル無資力ノ證書ヲ再ビ上級審ニ差出シ立證スルヲ要ス然レドモ其立證ヲ要セザルガ爲メニ上級審ハ救助ノ申請アレバ常ニ之ヲ許サヾル可カラザルニ非ズ救助ヲ求ムルニ要スル條件ナシト認ムルトキハ何時ニテモ之ヲ拒ムコトヲ得ルナリ若シ救助ノ申請ヲ爲シタル者ノ相手方ヨリ上訴ヲ爲シタルニ因リ上級審ニ於テ再ビ救助ヲ求ムル場合ニ於テハ上級審ハ救助ヲ求ムル者ノ權利ノ伸張又ハ防禦ノ輕忽

ナラザルヤ否ヤ又見込ナキニアラザルヤ否ヤヲ審査スルヲ要セズ訴訟上ノ救助ヲ附與ス可キモノトス是レ相手方ノ行爲ニ因リテ救助ヲ求メタル者ニモ行爲ヲ爲ス能ハザルニ至ラシメタルモノナルガ故ナリ

**第九十五條** 訴訟上ノ救助ハ之ヲ受ケタル條件ノ存セサリシトキ又ハ消滅シタルトキハ何時タリトモ之ヲ取消スコトヲ得

**註疏** 條件ノ存セサリシトキハ自己及ビ家族ノ必要ナル生活ヲ害スルノ恐ナキ時チイヒ條件ノ消滅シタルトキハ一旦訴訟上ノ救助ヲ受クルモ其訴訟中ニ資産ヲ回復シタル場合ノ如シ本條ハ訴訟上ノ救助ヲ取消サルベキ場合ヲ定メタルナリ

**第九十六條** 訴訟上ノ救助ハ之ヲ受ケタル原告若クハ被告ノ死亡ト共ニ消滅ス

**註疏** 訴訟上ノ救助ヲ受ケタル者死亡シタルトキハ其權利ハ當然相續人ニ移轉スルモノニアラズ何トナレバ救助ヲ受クルノ權利ハ財産權ニアラザレバナリ若シ相續人其訴訟ヲ繼續セント欲スルトキハ復タ新ニ救助ノ申請ヲ爲サヾル可カラズ而シテ其許否ハ裁判所ノ權内ニ在リ

**第九十七條** 訴訟上ノ救助ハ之ヲ受ケタル原告若クハ被告ノ爲ニ左ノ效力ヲ生ス

第一 裁判費用(國庫ノ立替金ヲ包含ス)ヲ濟清スルコトノ假免除

第二 訴訟費用ノ保證ヲ申立ツルコトノ免除

第三 送達及ビ執行行爲ヲ爲サシムル爲メ一時無報酬ニテ執達吏ノ附添ヲ求ムル權利

受訴裁判所ハ必要ナル場合ニ於テハ訴訟上ノ救助ヲ受ケタル原告若クハ被告ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ一時無報酬ニテ辯護士ノ附添ヲ命スルコトヲ得

**註疏** 本條ハ訴訟上ノ救助ノ效力ヲ定メタルナリ卽チ訴訟上ノ救助ヲ受ケタル者ハ當然第一號乃至第三號ノ權利ヲ有スト雖モ其相手方ハ此ガ爲メニ勝訴シタルトキ訴訟上ノ救助ヲ受ケタル者ヨリ費用ノ支拂ヒヲ受クノ權利ヲ失ハザルヲ以テ訴訟上ノ救助ヲ受ケル者敗訴スレバ相手方ニハ訴訟費用ノ支拂ヲ爲ス義務ヲ免レズ

第一號ノ裁判費トハ訴訟ヲ爲スニ付キ必要ナル印紙、國庫ノ立替金公示送達ノ費用、郵便代、等ナリ而シテ此等費用ノ假免除ハ第百條ノ規定ニ從ヒ追拂ヲ爲スノ義務ヲ生ズル迄免除ス

第二號ノ訴訟費用ノ保證ハ第八十八條ノ規定ニ從ヒ原告若クハ原告ノ從參加人タル外國人ガ相手方タル被告ニ對シ訴訟費用ヲ立ツルノ義務ヲ免除スルモノニテ其ノ他ノ訴訟上

ノ保證ノ費用ヲ免除スルノ謂ヒニアラズ而シテ此費用ノ免除ハ第百一條ニ從ヒ訴訟費用ヲ取消ス迄繼續ス

第三號ノ送達及ヒ執行々爲ヲ爲サシムル執達吏ノ附添ヲ無報酬ニテ求ムル權利ハ第百一條ニ從ヒ訴訟上ノ救助ヲ取消ス迄繼續ス

受訴裁判所ハ當事者ノ申立又ハ職權ヲ以テ辯護士ノ附添ヲ命ズルコトヲ得然レドモ本法ハ本人訴訟ヲ以テ原則トスルガ故ニ實際辯護士ノ附添ヲ要スル場合ハ甚ダ稀ニシテ本人疾病又ハ第百二十七條ニ於ケル本人演述ヲ爲スノ能力ヲ欠キタル場合ニ於テ然ルノミ

**第九十八條** 訴訟上ノ救助ハ相手方ニ生シタル費用ヲ辨濟スル義務ニ影響ヲ及ホサス

疏疏 訴訟上ノ救助ハ國ヨリ附與スルモノナレバ此ガ爲ニ相手方ノ權利ヲ剝奪スルヲ得ス故ニ本條ニ相手方ニ生ジタル費用ヲ辨濟スル義務ニ影響ヲ及ボサズト定メタルナリ

**第九十九條** 救助ヲ受ケタル原告若クハ被告ノ爲メ假ニ濟清ヲ免除シタル裁判所費用ハ訴訟費用ニ付キ確定裁判ヲ受ケタル相手方又ハ訴若クハ上訴ノ取下、拋棄、認諾若クハ和解ニ因リ訴訟費用ヲ負擔ス可キ相手方ヨリ之ヲ取立ツルコトヲ得

救助ヲ受ケタル原告若クハ被告ニ附添ヒタル執達吏又ハ辯護士ハ同一ノ條件アルトキハ亦自己ノ權利ニ依リ費用確定ノ方法ヲ以テ其手數料及ヒ立替金ヲ取立ツルヿヲ得

註疏 訴訟上ノ救助ヲ受ケタル者ガ敗訴シタルトキハ相手方ニ生ジタル費用ヲ辨濟スルノ義務アリ又訴訟上ノ救助ヲ受ケタル者ノ相手方ガ敗訴シタルトキモ亦同一ナリ然レドモ訴訟上ノ救助ヲ受ケタル者ハ國庫ニ支拂フベキ裁判費用ノ免除ヲ受ケ未ダ之ヲ支拂ハラザルガ故ニ勝訴シタルトキ相手方ニ之ヲ請求ス可キ理由アルコトナシ然レドモ相手方ニ之ヲ支拂フノ義務ヲ免除スルノ理由モ亦存在セズ故ニ通常ノ場合ニ於テ敗訴者ガ相手方ニ訴訟費用ヲ辨濟スルノ義務ノ存在スルニ依リ國庫ハ假免除シタル裁判費用ヲ敗訴者ヨリ取立ツルヿヲ得ルナリ右ノ費用ヲ取立ツルニハ訴訟費用ニツキ裁判確定シタルトキノミナラズ訴若クハ上訴ノ取下、拋棄認諾、若クハ和解ニ因リ判決ナクシテ訴訟ノ完結スル場合ニ於テハ恰モ裁判確定シタル場合ト其結果ヲ等フスルガ故ニ此レニ對シテ訴訟費用ヲ取立ツルコトヲ得

第二項執達吏又ハ辯護士ノ手數料及ヒ立替金ヲ取立ツルコトヲ得ルハ前項ト同一ノ精神ヨリ出デタルモノトス

**第百條** 救助ヲ受ケタル原告若クハ被告ハ自己及ヒ其家族ノ必要ナル生活ヲ害セスシテ費用ノ濟清ヲ爲シ得ルニ至ルトキハ假免除ヲ得タ

ル數額(第九十七條第一號)ヲ直チニ追拂ヒスル義務アリ

註疏　追拂トハ追納ト云フニ均シ事後ニ支拂ヲ爲スヲ意味ス本條ハ救助ヲ受ケタル貧困者ガ財産ヲ取得シタルトキハ第九十七條第一號ニ揭ゲタル裁判費用ヲ追拂スル義務ヲ生ズルコトヲ規定シタルモノナリ故ニ訴訟上ノ救助ヲ受ケタル者ガ裁判費用ヲ支拂フニ足ル財産ヲ有スルニ至ルトキハ當然追拂ノ義務ヲ生ズルモノトス若シ訴訟上ノ救助ヲ受ケタル者任意ニ裁判費用ヲ支拂フタルトキハ次條ノ追拂ヲ命ズルノ決定ヲ要セズ而シテ此追拂ノ義務ハ訴訟中又ハ訴訟完結後ニ生ズルモノトス

**第百一條**　裁判所ハ檢事ノ意見ヲ聽キタル後訴訟上救助ノ付與並ニ辯護士附添ノ命令ニ付テノ申請訴訟上救助ノ取消及ヒ數額追拂ノ義務ニ付キ決定ヲ爲ス

此裁判ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得

註疏　訴訟上ノ救助ヲ許スヤ否ヤノ決定ハ第九十七條ニ從ヒ訴訟上ノ救助ノ申請アリタルトキ又辯護士附添ノ命令ニ付テノ申請ノ決定ハ第九十七條末項ニ依リテ其申請アリタルトキニ於テス而シテ訴訟救助ノ取消ノ決定ハ之ヲ附與シタル原因ノ消滅シタルトキ又ハ之ヲ附與ス可キ條件ノ存セザリシトキ又ハ本件ノ消滅シタルトキ又數額追拂ノ義務ニ付テノ決定ハ前條ニ依リ訴訟上ノ救助ヲ受ケタル者ガ財産ヲ得タル場合ニ於テス而シテ右等ノ決定ハ之ヲ爲スニ先ダチ檢事ヲシテ其意見ヲ述ベシムルナリ是レ畢竟訴訟上ノ救助ヲ附與スルトキハ第九十七條ニ規定スル所ノ裁判費用等ヲ免除シ國庫ニ於テ其費用ヲ擔當スルコトヽ爲ル而シテ其費用ハ許多ノ場合ニ於テ辨償ヲ受クルコトヲ得ズ故ニ右數個ノ決定ハ獨リ裁判官ノ意見ニ放任セズ公益ノ保護官ナル檢事ノ意見ヲ聽キテ決定セシムルモノトス

第二項ハ別ニ述ブ可キコトナシ

**第百二條**　訴訟上ノ救助ヲ付與シ又ハ其取消ヲ拒ミ若クハ費用追拂ヲ命スルコトヲ拒ム決定ニ對シテハ檢事ニ限リ抗告ヲ爲スコトヲ得

辯護士ノ附添ヲ命スル決定ニ對シテハ上訴ヲ爲スコトヲ得ス

訴訟上ノ救助ヲ拒ミ若クハ取消シ又ハ辯護士ノ附添ヲ拒ミ又ハ費用ノ追拂ヲ命スル決定ニ對シテハ原告若クハ被告ハ抗告ヲ爲スコトヲ得

註疏　訴訟上ノ救助ヲ附與シ又ハ其取消ヲ拒ミ若クハ費用ノ追拂ヲ命ズルコトヲ拒ムトキハ卽チ國庫ニ費用ノ生ズル場合ナルヲ以テ檢事ヲシテ公益保護ノ爲メ其決定ニ對シテ抗告ヲ爲スコトヲ得セシムル之ニ反シ訴訟上ノ救助ノ申請ヲ爲シタル者ハ自己ニ於テ利益ナルモ不利益ト爲サルガ故ニ抗告ヲ爲スノ權ヲ與フルノ必要ナシ之レ第一項ニ檢事ニ限

リ抗告ヲ爲スヲ得ト定メタルナリ第二項ハ辯護士ノ附添ヲ命ズル場合ニ於テ之ヲ附添セラレタル者ハ利益ナルモ決シテ不利益ナルコトナキガ故ニ其決定ニ對シテ上訴ヲ爲スノ必要ナシ第三項訴訟上ノ救助ヲ拒ミ若クハ之ヲ取消シ又ハ辯護士ノ附添ヲ拒ミ又ハ費用ノ追拂ヲ命ズル決定ニ對シテハ國庫ニ損害ノ生ズル筈ナキガ故ニ此決定ニ對シ檢事ハ抗告ヲ爲スノ必要ナシ反之原告若クハ被告ハ利害ノ關係ヲ有スルヲ以テ獨リ抗告ヲ爲スコトヲ得ル旨ヲ規定シタルモノトス

## 第三章　訴訟手續

註疏　本章ノ規定ハ各審級ニ於ケル訴訟手續ニ適用スベキ通則ニシテ强制執行ニ付テモ亦之ヲ適用ス而シテ第一節ハ口頭辯論ニ關シ第二節ハ送達ニ關シ第三節ハ期日及ビ期間ニ關シ第四節ハ懈怠ノ結果及ビ原狀回復ニ關シ第五節ハ訴訟手續ノ中斷及ビ中止ニ關スル規定トス

### 第一節　口頭辯論及ビ準備書面

**第百三條**　判決裁判所ニ於ケル訴訟ニ付テノ當事者ノ辯論ハ口頭ナリトス但此法律ニ於テ口頭辯論ヲ經スシテ裁判ヲ爲スコトヲ定メタルトキハ此限ニ非ラス

註疏　判決裁判所トハ訴訟ニ付キ判決ヲ爲ス爲メ組織シタル裁判所ヲ云フ即チ本案ニ付テ裁判ヲ與フル裁判所是ナリ之ニ相對スル裁判所ハ決定裁判所ナリ此決定裁判所ハ本案ニ付テハ裁判ヲ爲サズ只手續上ニ關スル問題ニ付キ裁判ヲ與フル裁判所ナリ而シテ本法ガ判決裁判所ニ於ケル訴訟ニ付テ當事者ノ辯論ヲ口頭ト爲シタルハ裁判官ヲシテ直接ニ當事者ヲ審理シ其辯論ヲ聽キ以テ裁判ヲ爲サシムルニアリ蓋シ本法ガ書面審理ニ依ラズシテ口頭審理ヲ採リタルハ書面上ノ辯論ニテハ十分ニ當事者ノ意見ヲ知リ得ザルモ口頭辯論ナルトキハ能ク當事者ノ意見ヲ知ル事ヲ得從テ裁判ニ誤謬ナキヲ期シ得ベキガ故ナリ然レドモ口頭辯論ノ原則ハ絶對的ノモノニアラズ即チ訴訟上書面ヲ用ユルコトヲ禁ジタルニアラズ時トシテ書面ヲ用ユルコトアリ例ヘバ口頭辯論ニ付キ調書ヲ作ルガ如キ判決書ヲ作ルガ如キ又口頭辯論ノ準備ニ要スル準備書面ノ如キ其他訴狀、故障控訴狀、上告狀等ノ如キ即チ是ナリ而シテ右書面ヲ以テ爲スベキモノヽ中ニ書面ヲ以テ爲サヾレバ效力ナキモノト書面ヲ以テ爲サヾルモ可ナルモノトアリ

口頭辯論ハ當事者ノ訴訟ヲ爲ス場合ニ限リ適用スルモノニシテ訴訟中當事者ト第三者例ヘバ從加人トノ間ニ起リタル爭ニハ之ヲ適用セズ然レドモ口頭辯論ハ必ズシモ本案ノ訴訟ニ限ルモノニアラズ中間訴訟ニ付テモ亦口頭辯論ヲ適用スルヲ通例トス口頭辯論ノ原

則ハ判決裁判所ニ於ケル訴訟ニノミ適用スルモノニシテ判決ヲ要セザル訴訟行爲ニハ之ヲ適用セズ例ヘバ裁判所書記ノ面前ニ於テ當事者ガ訴訟上ノ行爲ヲ爲ストキ又ハ受命判事若クハ受託判事ノ面前ニ於テ行爲ヲ爲ス場合ノ如シ訴訟ニ付テノ裁判ニ非ザル裁判ヲ爲ストキ裁判所ガ口頭辯論ヲ爲サシムル義務アル場合ト又口頭辯論ヲ爲ストキ爲サヾルトヲ裁判所ノ意見ニ任シタル場合アリ然リ而シテ口頭辯論ヲ爲サシムル義務アル場合ハ追加裁判ノ第二百四十二條ノ場合又ハ假執行ニ關スル申立(第五百六條及ビ第五百八條)假差押假分處ヲ命ズル決定ニ對スル異議(第七百四十二條及ビ第七百四十五條)ノ場合是レナリ而シテ口頭辯論ヲ爲スト爲サヾルトヲ裁判所ノ意見ニ任シタル場合ハ即チ管轄裁判所ヲ指定シタルトキ(第二十八條)裁判官ヲ忌避スル申請(第三十七條)又ハ從參加ノ許否(第五十七條)等ナリトス

口頭辯論ヨリ生ズル結果ニ付キ其一二ヲ辯センニ口頭辯論即チ審理中ニ裁判官ノ變ハリタル場合ニ於テハ復タ新タニ辯論ヲ仕直サヾル可カラズ又判決ヲ爲スニ當テハ裁判官ハ當事者ガ口頭辯論ニテ陳述シタル事實ノミニ注意スルヲ要ス故ニ若シ當事者ノ陳述ガ準備書面中ニ掲ゲタルモノト牴觸スルコトアルモ裁判官ハ唯タ當事者ガ口頭辯論ノ際陳述シタル事實ノミニ根據スベキモノニシテ準備書面ノ如キハ口頭辯論ノ豫備タルニ過ギズ又同一ノ事件ニ付キ數回ノ辯論ヲ要スルコトアリ此場合ニ於テハ數回ノ辯論ヲ一ノ辯論ト看做シ別箇ノモノト看做サズ例ヘバ初メノ期日ニ於テ辯論ノ末證據調ノ必要ノ生ズルコトアルモ證人出廷シ居ラザルヲ以テ即時ニ證據調ヲ爲スヲ得ザル場合又ハ裁判官證據ノ存在スル場所ヘ望マザルヲ得ザル場合等ニ於テ延期ヲ爲サヾルヲ得ズシテ數回ノ辯論ヲ爲スコトヲ要スルトキ之ヲ一ノ辯論ト看做ス

**第百四條** 口頭辯論ハ書面ヲ以テ之ヲ準備ス

**註疏** 口頭辯論ヲ準備スル書面ハ所謂準備書面ナリ此準備書面ハ相手方ニ口頭辯論ノ準備ヲ爲ス便利ヲ與ヘ且裁判所ガ訴訟ノ指揮ヲ適當ニ爲シ得ル便宜ヲ與フルヲ其目的トスレドモ訴訟ニ付キ必ズ之ヲ作ルヲ要セズ故ニ本條ノ規定ヲ遵守セザルモ爲メニ失權ノ效果ヲ生ズルコトナシ只單ニ準備書面ナキガ爲メ辯論期日ニ於テ爲シタル陳述ニ對シ相手方ガ即時陳述ヲ爲シ能ハザルヲ以テ從テ口頭辯論ヲ延期セザルベカラズ之ヲ延期スルガ爲メニ生シタル費用ハ原告負擔セザル可ラザルヤ必セリ

**第百五條** 準備書面ニハ左ノ諸件ヲ掲ク可シ

第一 當事者及ヒ其法律上代理人ノ氏名、身分、職業、住所、裁判所、訴訟物及ヒ附屬書類ノ表示

第二 原告若クハ被告カ法廷ニ於テ爲サント欲スル申立

第三 申立ノ原因タル事實上ノ關係

第四　相手方ノ事實上ノ主張ニ對スル陳述

第五　原告若クハ被告カ事實上主張ノ證明又ハ攻擊ノ爲メ用ヰントスル證據方法及ヒ相手方ノ申出タル證據方法ニ對スル陳述

第六　原告若クハ被告又ハ其訴訟代理人ノ署名及ヒ捺印

第七　年月日

註疏　本條ハ準備書面ニ掲グベキ事項ヲ定メタルナリ第一號別ニ述ブベキコトナシ只此ニ云フ所ノ表示トハ第一號ニ掲ゲタル事項ノ分カル丈ト云フ字ナリ例ヘバ當事者ノ表示ハ人違ナキコトヲ表ハスニ足レバ可ナリ必シモ詳細ニ記載スルヲ必要トセズ故ニ有名ナル人ナルトキハ只其姓名ノミヲ記載シ住所ヲ記載セザルモ可ナリ

第二號地方裁判所以上ノ訴訟ニ付テハ第二百二十二條ノ規定ニ從ヒ書面ニ基キ申立ヲ爲スヲ要スルガ故ニ法庭ニ於テ爲サント欲スル語辭ヲ掲ゲザル可カラズ區裁判ナルトキハ法庭ニ於テ爲サント欲スル申立ノ大要ノミヲ掲グレバ足レリ

第三號事實上ノ關係モ相手方ノ申立ニ對シテ答辯ヲ爲シ得可キ丈ニテ可ナリ別ニ詳細ノ事柄ヲ記載スルヲ要セズ

第四號ハ相手方ヨリ準備書面ヲ送ラレタル場合ナリ此場合ニ於テ其準備書面ニ掲ゲタル事柄ニ對シテ陳述ヲ爲サヾルベカラズ

第五號ハ各當事者ガ事實上ノ證明又ハ辯駁ノ爲メ用ヰントスル證據方法ノ準備書面中ニ掲ゲテ相手方ガ口頭辯論ノ期日ニ於テ直チニ答辯ヲ爲サシムル爲メナリ

第六號署名捺印ナキトキハ準備書面ノ性質ヲ失フヤ否ヤノ疑アレドモ署印捺印ナキトキハ準備書面ノ性質ヲ失フヤ否ヤノ疑アレドモ署印捺印ナキモ準備書面ノ性質ヲ失フモノニアラズ然レドモ之ヲ差出シタル者ノ何人ナルカ知ラザル可カラザルトキハ其效力ナキモノナラン

第七號日附ハ其準備書面ノ提出ヲ知ルニ必要アリ

**第百六條**　準備書面ニ於テ提出スヘキ事實ハ簡明ニ之ヲ記載スヘシ此他事實上ノ關係ノ說明幷ニ法律上ノ討論ハ書面ニ之ヲ掲クルコトヲ得ス

註疏　本條ハ訴狀答辯書其他ノ準備書面ニ事實上ノ關係併ニ法律上ノ議論ヲ冗長ニ掲ゲタルガ爲メニ不必要ナル時間ヲ要シ且錯誤ヲ來ラシムルコトヲ避クルガ爲メノ規定ナリ然レドモ事實上ノ說明及ヒ法律上ノ議論ヲ掲ゲタリトテ無效ト爲ルモノニアラズ可成之ヲ掲ゲシメザルノ主旨ナルノミ

**第百七條**　準備書面ニハ訴訟ヲ爲スヘキ資格ニ付テノ證書ノ原本正本又ハ謄本其他總テ原告若クハ被告ノ手中ニ存スル證書ニシテ書面中

ニ申立ノ原因トシテ引用シタルモノ、謄本ヲ添附スヘシ

證書ノ一部分ノミヲ要用トスルトキハ其冒頭、事件ニ屬スル部分、終尾、日附、名署及印章ヲ謄寫シタル抄本ヲ添附スルヲ以テ足ル

證書カ既ニ相手方ニ知レタルトキ又ハ大部ナルトキハ其證書ヲ表示シ且相手方ニ之ヲ閲覧セシメント欲スル旨ヲ附記スルニ以テ足ル

註疏　訴訟ヲ爲ス可キ資格ニ付テノ證書トハ法律上ノ代理人例ヘバ法人ノ理事ガ訴訟ヲ爲ス場合ニ於テ理事タル資格ヲ證スル任命書ノ如キヲ云フ而シテ準備書面ニハ此等ノ證書ノ原本正本又ハ其謄本ヲ添付スルコトヲ要ス其他原告若クハ被告ノ手中ニ存スル證書ニシテ準備書面中ニ引用シタルモノハ其謄本ヲ添付セザル可カラズ若シ證書ノ一部分ノミ必要ナルトキハ其必要ノ部分ノミヲ摘要シタル抄本ヲ添附スルヲ以テ十分ナリ又證書ガ既ニ相手方ニ知レタルトキ又ハ其大部ナルトキハ其證書ヲ表示シ且ツ相手方ニ之ヲ閲覧セシメント欲スル旨ヲ附記スルヲ以テ足レリトス

**第百八條**　當事者ハ準備書面及ヒ其附屬書類并ニ相手方ニ付與スル爲メ必要ナル謄本ヲ裁判所書記課ニ差出ス可シ

註疏　準備書面及ヒ其附屬書類并ニ相手方ニ附與スル爲メ必要ナル謄本ヲ差出サシムルノ目的ハ裁判所ガ其謄本ニ依リテ訴訟ノ下調ヲ爲シ又相手方ヲシテ口頭辯論ノ準備ヲ爲サシムル爲メ之ヲ要スルニアリ故ニ二通ヲ差出サシメ其一通ヲ裁判所ニ留置キ他ノ一通ヲ相手方ニ送達ス而シテ其送達ノ手續ハ第百三十六條ノ規定ニ從フベキモノトス然レドモ準備書面ハ口頭辯論ノ爲メ必要欠ク可カラザルモノニ非ズ之ヲ差出サヾルモ爲メニ權利ヲ失ハズ然レドモ之ヲ差出サヾリシガ爲メ相手方ガ辯論ノ準備ヲ爲スコトヲ得ズシテ口頭辯論ノ期日ヲ延期スルニ至リタルトキハ第七十五條ノ規定ニ從ヒ爲メニ生シタル費用ヲ負擔セザル可カラザルニ至ルベシ

**第百九條**　裁判長ハ口頭辯論ヲ開キ且之ヲ指揮ス

裁判長ハ發言ヲ許シ又其命ニ從ハサル者ニ發言ヲ禁スルコトヲ得

裁判長ハ事件ニ付キ十分ナル說明ヲ爲サシメ且間斷ナク辯論ノ終了スルコトニ注意ス又必要ナル場合ニ於テハ直チニ辯論續行ノ期日ヲ定ム

裁判所ニ於テ事件ニ付キ十分ナル說明ヲ爲セリト認ムルトキハ裁判長ハ口頭辯論ヲ閉チ及ヒ裁判所ノ判決并ニ決定ヲ言渡ス

註疏　裁判長ハ區裁判所ニ於テハ單獨判事之ガ職權ヲ行ヒ合議裁判所ニ於テハ多クハ部長裁判長ト爲リ部長差支アルトキハ次席ノ判事裁判長ト爲ルモノトス而シテ其裁判長ガ口頭辯論ヲ開キ又ハ之ヲ閉ヂ發言ヲ許シ又ハ之ヲ禁シ辯論續行ノ期日ヲ指定シ若クハ判

決決定ヲ言渡ス等ハ皆形式上ノモノニシテ裁判長ガ訴訟事件ニ付キ原告若クハ被告ヲシテ充分ノ説明ヲ爲サシムルハ是レ實體上ノ權利ナリトス

第二項ハ裁判長ガ有スル形式上ノ權利ノ一ナリ固ヨリ裁判長ハ辯論ニ與ル者ヲシテ發言ヲ許シ辯論ヲ爲サシムルト雖モ辯論ガ訴訟事件ニ不必要ナルトキ關係ナキトキ若クハ枝葉ニ渉ルトキハ之ヲ禁ズルコトヲ得而シテ發言禁止ノ命ヲ受クル者ハ當事者ノミナラズ證人鑑定人モ亦然リ

第三項ノ裁判長ガ事件ニ付キ十分ナル説明ヲ爲サシムルノ必要ハ第百十二條第二項ノ規定ニ從ヒ當事者ノ陳述ノ不明瞭又ハ不完全ナル場合ナリ然レドモ民事訴訟法ハ刑事訴訟法ト異リ不干渉主義ナレバ此原則ニ戻リ當事者ノ欲セザルコトヲ强テ明カナラシムルノ必要ナシ必要ナル場合ニ於テハ直チニ辯論續行ノ期日ヲ定ムトアリ之レ當事者ガ辯論ヲ爲シタル末證據調ノ必要ヲ生ジタルモ當日證據調ヲ爲スコトヲ得ズシテ辯論ノ期日ヲ他日ニ定メタル場合ノ如シ

第四項裁判所ニ於テ事件ニ付キ十分ナル説明アレバ判決又ハ決定ヲ爲スコトヲ得ルヲ示シタルモノナリ裁判所ニ於テ最早口頭辯論ノ必要ナシト認ムルトキハ事件ノ終局ヲ告グルヲ以テ裁判長ハ其終局シタル旨ヲ告ゲ直チニ判決并ニ決定ヲ言渡スモノトス

**第百十條** 口頭辯論ハ當事者ノ申立ヲ爲スニ因リテ始マル

當事者ノ演述ハ事實上及ビ法律上ノ點ニ於ケル訴訟關係ヲ包括ス可シ

口頭演述ニ換ヘテ書類ヲ援用スルコトヲ許サズ文字上ノ旨趣ヲ要用トスルトキハ其要用ナル部分ニ限リ之ヲ朗讀スルコトヲ得

**註疏** 當事者ノ申立トハ例ヘバ單ニ原告ガ被告ニ訴訟物タル五百圓ヲ支拂フ可キ判決アランコトヲ求ムト申立テ被告ハ之レニ對シ原告ノ請求ヲ却下アランコトヲ求ムト申立ツルガ如シ然リ而シテ口頭辯論ハ此ノ如キ原被告相牴觸シタル申立ニ依リテ開始セラル卽チ訴訟ガ申立アリテ對席トナルニ因リテ始マルモノナリ是民事訴訟法ノ不干渉主義ノ原則ニ據リ裁判所ハ職權ヲ以テ訴訟手續ヲ開始セズト云フ原則ヨリ出デタルモノナリ

第二項ハ當事者ガ第一項ノ申立ヲ爲シタル後ヲ爲スベキ演述卽チ事實上及ビ法律上ノ申立ヲ爲ス可キコトヲ示シタルモノナリ而シテ其申立ハ成ルベク充分ナルヲ以テ當事者ノ利益トス

第三項ノ口頭辯論ニ換ヘテ書類ヲ援用スルコトヲ許スハ口頭辯論ノ原則ニ戻ルガ如クナルモ文字ノ意味ノ必要ナル場合ニ於テ其必要ナル部分ニ限リ之ガ朗讀ヲ爲シタルハ後日ノ爭ヒヲ避クルガ爲メニシテ口頭辯論ノ趣旨ニ反セズ

**第百十一條** 各當事者ハ相手方ノ主張シタル事實ニ對シ陳述ヲ爲スベ

シ

明カニ爭ハサル事實ハ原告若クハ被告ノ他ノ陳述ヨリ之ヲ爭ハントスル意思カ顯レザルトキハ自白シタルモノト看做ス

不知ノ陳述ハ原告若クハ被告ノ自己行爲ニ非ス又自己ノ實驗シタルモノニモ非サル事實ニ限リ之ヲ許ス此場合ニ於テ不知ヲ以テ答ヘタル事實ハ爭ヒタルモノト看做ス

註疏　第一項ハ當事者ガ相手方ノ主張シタル事實ニ對シテ陳述ノ義務アルコトヲ示シタルモノナリ若シ相手方ノ主張シタル事實ニ對シテ反駁ヲ爲サズ默過スルトキハ第二項ニ於ケル自白ノ不利益ナル推測ヲ受クルニ至ルガ故ニ相手方ノ主張ニ對シ成ルベク陳述ヲ爲サシムル爲メナリ

第二項ハ相手方ノ主張シタル事實ニ對シ明ニ又ハ暗ニ之ヲ爭ハザルトキハ自白シタルモノト看做スコトヲ規定シタリ然レドモ相手方ノ事實上ノ主張ニ對シ直チニ之ニ異議ノ申立テヲ爲サヾルモ自白シタルモノト看做スヲ得ズ又口頭辯論ノ敷回ニ渉ルコトアリタル場合ニ於テ一ノ口頭辯論ニ爭ハザルモ直チニ自白シタルモノト看做スヲ得ズ判決ニ接着スル口頭辯論ノ終リニ至ル迄發テ爭ハザル場合ニ於テ始メテ自白シタルモノト看做ス可キナリ而シテ本項ノ推定ハ法律上ノ推定ニシテ裁判官ハ必ズ之ニ從ハザル可ラズ然リトヽ雖モ本項ノ自白ハ眞正ノ自白ニ非ラザルガ故ニ控訴アリタルトキハ控訴審ニ於テ其陳述ヲ爲シ前ノ自白ノ推定ヲ消滅ニ歸セシムルヲ得ルヤ必セリ

第三項ハ相手方ノ陳述ニ對シ單ニ知ラズト答ヘタル場合ニ於テハ之レ果シテ事實ヲ爭フヤ否ヤ明白ナラザルヲ以テ單ニ知ラズト答フコトヲ許サヾルヲ通例トシ若シ知ラズト答フル時ハ自白シタルモノト看做ス然レドモ若シ其事實ニシテ自己ノ所爲ニ非ラザルカ又ハ自己ノ實驗シタルコトナキ事實ニ付テハ實際陳述ヲ爲シ得ザル故此場合ニ限リ知ラズト申立テタルトキハ相手方ノ陳述ニ對シ爭ヒタルモノト看做ストノ義ナリ

**第百十二條**　裁判長ハ職權上調査ス可キ點ニ關シ相手方ヨリ起ササル疑ノ存スルトキハ其疑ニ付キ注意ヲ爲スコト得

裁判長ハ問ヲ發シテ不明瞭ナル申立ヲ釋明シ主張シタル事實ノ不十分ナル證明ヲ補充シ證據方法ヲ申立テ其他事件ノ關係ヲ定ムルニ必要ナル陳述ヲ爲サシム可シ

陪席判事ハ裁判長ニ告ケテ問ヲ發スルコトヲ得

當事者ハ相手方ニ對シ自ラ問ヲ發スルコトヲ得ス然レトモ其問ヲ發ス可キ旨ヲ裁判長ニ求ムルコトヲ得

若シ其問ニ對シテ答ヘス又ハ判然答ヘサルトキハ相手方ノ利益ト爲

ル可キ答ヲ爲シタルモノト看做スコトヲ得

註疏　職權上調査ス可キ點トハ例ヘバ合意ニ因リテ裁判管轄ヲ變更セザルコト又ハ訴訟能力ノ欠缺等ノ場合ニ於テ裁判所之ニ關セズシテ裁判ヲ爲シタルトキハ後日其裁判ノ無效トナルガ爲メニ相手方ノ申立アリタルトキハ勿論假令其申立ナキモ職權ヲ以テ其疑ノ點ヲ注意セザル可カラズ

第二項ノ裁判長ノ有スル發言權ハ民事訴訟法ノ不干涉主義ノ原則ニ反スルガ如クナレ𪜈決シテ否ラズ當事者ノ意思ニ反セザル限リハ問ヲ發シ能ク其事實ヲ明晰ナラシメザル可ラズ而シテ裁判長ノ發言權ハ第百九條第三項第百十條及ヒ本項ノ範圍ニ於テ爲サヾル可ラズ裁判所ハ事實上及法律上ノ訴訟關係ニ付キ十分ナル陳述ヲ爲スコトニ注意シ問ヲ發シ不明晰ナル點ヲ明カニシ主張スベキ事實ニ付キ十分ナル說明ヲナサヾルトキハ其補充ヲ爲サシメ證據方法ヲ申立テシメ代理人ノ出廷アルトキト雖モ事實ノ關係上本人ニアラザレバ明カナラザル時ハ本人ヲ呼出シ以テ陳述ヲ爲サシムルコトヲ得ルナリ

第三項ハ陪席判事ニ於テ裁判長ノ爲シタル訊問ノミニテ事實未ダ明瞭ナラズト思料スルトキ自ラ問ヲ發スルコトヲ得ル旨ヲ定ム凡ソ訴訟指揮上ノ權利ハ裁判長ニ在ルモノナレバ裁判長ニ告ゲ後チ訊問ヲ爲スベキ義務ヲ負ハシムルハ當然ナリ

第四項ハ當事者ガ相互ニ直接ノ問ヲ發スルコトヲ禁シタルモノナリ若シ之ヲ許ストキハ爲メニ錯雜ニ至ルノ恐アルガ故ニ訊問セント欲スルトキハ裁判長ニ申立テヽ之レヲ爲ス

第五項ハ民事訴訟ハ不干涉主義ナレバ問ニ對シテ答ヘズ又ハ判然答ヘザル場合ニ於テ强ヲ之ヲ明瞭ナラシムルコトヲ得ザルガ故ニ相手方ノ利益ト爲ルベキ答ヘヲ爲シタルモノト看做トノ制裁ヲ付シタルナリ

## 第百十三條　事件ノ指揮ニ關スル裁判長ノ命又ハ裁判長若クハ陪席判事ノ發シタル問ニ對シ辯論ニ與カル者ヨリ不適法ナリトシテ異議ヲ述ヘタルトキハ裁判所ハ其異議ニ付キ直チニ裁判ヲ爲ス

註疏　本條ノ事件ノ指揮ニ關スル裁判長ノ命トハ裁判長ノ訴訟上ノ指揮權ニ基ク命令卽チ第百九條及ヒ第百十二條ノ口頭辯論ニ關スル命ナリ又不適法トハ法律上許サヾル場合又ハ事件ニ關セザル問ヲ發シタル場合是ナリ此場合ニ於テハ異議ヲ申立ツルトキハ裁判所ハ其異議ニ付直ニ裁判セラルヽナリ

## 第百十四條　裁判所ハ事件ノ關係ヲ明瞭ナラシムル爲メ原告若クハ被告ノ自身出頭ヲ命スルコトヲ得

註疏　裁判所ハ事件ニ付キ當事者ノ意思ヲ明瞭ナラシメザル可カラザルモノナルガ故ニ假令訴訟代理人ノ出廷アル時ト雖モ若シ事件ノ關係錯雜ニシテ明瞭ナラザルトキハ本人ヲ呼出シ陳述ヲ爲サシメ以テ事柄ヲ明瞭タラシムルコトヲ得ベシ

**第百十五條** 裁判所ハ原告若クハ被告ノ援用シタル證書ニシテ其手中ニ存スルモノヲ提出ス可キヲ命スルコトヲ得

裁判所ハ外國語ヲ以テ作リタル證書ニ付キテハ其譯書ヲ添附ス可キヲ命スルコトヲ得

**註疏** 本條ハ原告若クハ被告ノ援用シタル證書ニシテ其手中ニ存在スルモノハ之ヲ差出サシメ又外國語ナル時ハ其譯書ヲ添附シテ差出サシメ以テ其事件ヲ明カニシ得ルコトヲ規定ス之レ口頭辯論ニ於テ裁判官ニ發言權ヲ許スト雖モ未タ以テ其目的ヲ達スル能ハザルトキハ本條ノ規定ハ實ニ必要ナルガ故ナリ

**第百十六條** 裁判所ハ當事者ノ所持スル訴訟記錄ニシテ事件ノ辯論及ビ裁判ニ關スルモノヲ提出スヘキヲ命スルコトヲ得

**註疏** 訴訟記錄トハ原告若クハ被告ガ訴訟ヲ爲スニ付キ要スル一切ノ訴訟上ノ必要ナル書類ヲ云フ本條モ亦裁判長ノ發問ノミニテハ充分ナラザル場合ニ於テ右ノ書類即チ記錄ノ提出ヲ命ズル權ヲ規定スルナリ

**第百十七條** 裁判所ハ檢證及ヒ鑑定ヲ命スルコトヲ得

此手續ハ申立ニ因リ命スル檢證及ビ鑑定ニ付テノ規定ニ從フ

**註疏** 本條ハ裁判所ニ右ノ檢證及ビ鑑定ヲ命ズルノ權アルコトヲ示シタルモノナリ而シテ檢證ニ付テハ第三百二十七條鑑定ニ付テハ第三百五十七條ニ規定スル手續ニ依ルベシ檢證トハ裁判所ニ物ヲ移送スルコトヲ得ルト否トヲ問ハズ係爭物件ヲ實見スルヲ云ヘ鑑定トハ判事ガ爭ノ判斷ヲ爲ス爲メ特別ノ智識ヲ要スル事項ニ付自己ノ心證ヲ助ケシムル爲メ第三者ヲシテ意見ノ陳述ヲ爲サシムルヲ云フ

**第百十八條** 裁判所ハ一箇ノ訴ニ於テ爲シタル數箇ノ請求又ハ本訴及ヒ反訴ニ付テノ辯論ヲ分離シテ爲ス可キヲ命スルコトヲ得

**註疏** 本條ハ裁判所ガ辯論ヲ爲スニ分離シテ爲スヲ得ルノ權ヲ規定シタルモノナリ而シテ其分離ノ必要ヲ生ズル場合ハ蓋シ訴訟ニ付キ取調ヲ爲ス可キ材料ノ多クシテ爲メニ錯雜ヲ來ス場合ニアリ

一箇ノ訴ニ於テ數箇ノ請求ヲ爲ス場合ハ第百九十一條ノ規定ニ從ヒ原告ガ同一ノ被告ニ對スル數個ノ請求ヲ一ノ訴ヲ以テ爲ストキハ又第四十八條ノ規定ニ從ヒ數人ノ原告若クハ被告ガ共同シテ訴ヲ爲ストキナリ

本訴及ビ反訴ノ辯論ヲ分離スル必要ノ生ズル場合ハ反訴アリタル爲メ訴訟ノ遲延スルノ場合ナリ若シ反訴アリタル爲メ辯論ヲ分離シタルトキハ一ノ訴ヲ以テ爲シタル數個ノ請求ノ併合消滅ス是ニ於テカ其數個ノ請求ニ付キ最初ヨリ各別ニ訴ヲ起シタルモノト同一視シ辯論ハ勿論其證據調及ビ其判決ニ至ル迄悉ク皆之レヲ各別ニ爲スニ至ルモノナリ

**第百十九條** 同一ノ請求ニ關シ數箇ノ獨立ナル攻擊及ヒ防禦ノ方法ヲ提出シタル時ハ裁判所ハ先ツ辯論ヲ其一二ニ制限スベキヲ命スルコトヲ得

**註疏** 攻擊及ヒ防禦ノ方法トハ攻擊若クハ防禦ノ方法ニシテ之ニ依リ發生スル爭點ヲ各個ノ請求ノ如ク別訴訟トシテ審理スルニ適セザルモ其辯論ヲ分離シ且ツ其裁判ヲ仲間判決ヲ以テ爲スニ適當ナルモノヲ云フ今茲ニ實例ヲ擧グレバ甲者ガ乙者ニ對シ約定金支拂請求ノ訴ヲ起シ乙者其約定ノ事實ヲ認ムルモ時效及ヒ支拂ノ抗辯ヲ爲シ義務ナシト主張シタリトセンニ支拂ノ事實有無ニ關セズ先ヅ時效ノ抗辯ニ付キ其正當ナルヤ否ヤノ裁判ヲ爲スコトヲ得是レ卽チ獨立シタル抗辯ノ方法ナリ

攻擊若クハ防禦ノ方法ヲ其一二ニ制限ヲ爲スモ請求ニ付キテノ辯論ハ始終同一ノモノナリ假令其一ニ付キ辯論ヲ制限スルモ爲メニ他ノ攻擊若クハ防禦ノ方法ノ審理ヲ受クルノ權ヲ消滅スルニ非ラズ例ヘバ時效ノ抗辯ヲ爲シ其正當ニシテ訴ヲ却下スルニ至ルトキハ終局判決ヲ以テ事件ヲ結了シ他ノ抗辯ニ付キ辯論ヲ爲スヲ要セザルモ若シ其抗辯不當ナル時ハ其獨立スル抗辯ヲ仲間判決ヲ以テ結了シ猶ホ他ノ抗辯ニ付キ辯論ヲ爲サヾル可ラザルガ如シ

**第百二十條** 裁判所ハ同一ノ人又ハ別異ノ人ノ數箇ノ訴訟ニシテ其裁判所ニ繫屬スルモノ、辯論及ヒ裁判ヲ併合ス可キヲ命スルコトヲ但其訴訟ノ目的物タル請求ヲ元來一箇ノ訴ニ於テ主張シ得ヘキ時ニ限ル

**註疏** 本條ハ數箇ノ訴ヲ一ノ訴ニ併合スル權ヲ規定シタルモノナリ其目的ハ數箇ノ目的ヲ併合シテ同時ニ辯論及ヒ其裁判ヲ爲スニ在リ此併合ニヨリ當事者間ノ關係ハ自ラ訴ヲ併合シタルモノト同一ノ效力ヲ生ズ若シ當事者間ノ一方數人ナルトキハ則チ共同訴訟人ト爲ルナリ但書ハ訴訟ノ併合ヲ爲スノ條件ニシテ數箇ノ訴ヲ元來一個ノ訴ヲ以テ主張シ得ベキモノナルトキニ限ル例ヘバ普通手續ニ屬スルモノト爲替訴訟手續ニ屬スルモノトヲ併合スルガ如キ之ヲ許サヾルナリ

**第百二十一條** 裁判所ハ訴訟ノ全部又ハ一分ノ裁判カ他ノ繫屬スル訴訟ノ完結ニ至ルマテ可キ權利關係ノ成立又ハ不成立ニ繫ルトキハ他ノ訴訟ノ完結ニ至ルマテ辯論ヲ中止スベシ

**註疏** 本條ハ他ノ訴訟手續ノ完結スルマデ辯論ヲ中止スベキコトヲ規定シタルモノナリ而シテ他ノ訴訟手續トハ他ノ民事刑事又ハ行政訴訟ニ於ケル手續ヲ云フ辯論ヲ中止スル必要ハ如何ト云フニ他ノ裁判所ニ於テ確定スベキ權利關係ガ裁判ヲ爲スノ豫斷ト爲ル場合ニシテ例ヘバ利息ノ請求ヲ爲シタルニ既ニ他ノ裁判所ニ於テ其元本ニ付キ訴訟起リ居

リシトキハ其元本ノ請求ノ正否如何ノ裁判確定スルニアラザレバ利息ノ訴ノ辯論ヲ爲スモ或ハ其裁判ノ正鵠ヲ期スル能ハザルノ恐アルトキノ如シ

本條ノ場合ト同一事件ニ付キ他ノ裁判所ニ訴訟ノ繫屬スル場合トヲ混淆ス可ラス同一事件ニ付キ他ノ裁判所ニ訴ノ繫屬スル場合ニ於テ第百九十五條ノ規定ニ從ヒ權利拘束ノ抗辯アルトキハ訴ヲ却下セザルヲ得ズ若シ此抗束ナキトキハ其訴訟ニ付キ辯論ヲ爲サヾル可カラズ卽チ此場合ニ於テハ裁判ヲ爲スノ豫斷ト爲ラザルガ故ニ本條ヲ適用シテ辯論ヲ中止スルコトヲ得ズ中止ヲ命ズル決定ニ對シテハ第百八十九條ノ規定ニ從ヒ抗告スルヲ得ベシ

**第百二十二條** 裁判所ハ民事訴訟中罰ス可キ行爲ノ嫌疑生スルトキハ刑事訴訟手續ノ完結ニ至ルマテ辯論ヲ中止ス可シ但其罰ス可キ行爲カ訴訟ノ裁判ニ影響ヲ及ボストキニ限ル

註疏 本條ハ民事ノ裁判ヲ爲スニ付キ刑事訴訟手續ニ依リテ定マル事項ガ其豫斷ト爲ル可キトキ其中止ヲ命ズル規定ナリ而シテ本條ニ依リテ辯論ヲ中止スルニハ刑事裁判所ニ於テ訴訟手續ノ開始シタルコトヲ要スルカト云フニ否ラズ苟モ罰スベキ行爲ノ嫌疑アルトキハ其開始前ナルト否トニ拘ハラズ中止スルコトヲ得ルナリ然リ而シテ右辯論中止ハ當事者ノ一方ニ對シ罰ス可キ疑嫌アリタルトキノミナラズ第三者ニ對シテ此嫌疑アリタル場合ニ於テモ亦同一ナリ例ヘバ或ル證人ガ僞證ヲ爲シタル嫌疑アル場合ノ如シ此場合ニ於テハ人ニ對シテハ刑事上ノ裁判ハ民事訴訟ニ關係ナキモ事件ニ對シテハ直接ノ關係アレバナリ

**第百二十三條** 裁判所ハ分離若クハ併合ニ關シ發シタル命ヲ取消スコトヲ得

註疏 分離若クハ併合ニ付キテノ命令ハ必竟訴訟指揮上ノ性質ヲ有スルモノナルガ故ニ裁判所ハ何時ニテモ職權ヲ以テ之ヲ取消スコトヲ得ザルベカラズ若シ之ヲ取消ス能ハズトセンカ却テ當事者ヲ害シ訴訟ヲ遲延セシムル結果ヲ來タスニ至レバナリ

**第百二十四條** 裁判所ハ閉ヂタル辯論ノ再開ヲ命スルコトヲ得

註疏 辯論ヲ開閉スルハ裁判所ノ職權ナリトセバ一旦閉ヂタル辯論ト雖モ必要生ズルトキハ之レヲ再ビ開廷スルノ權ナカルベカラズ蓋シ裁判所一旦辯論ヲ閉ヂ裁判官評議室ニ退キ評議ノ末猶ホ辯論十分ナラズ不明瞭ノ廉アリト認ムルトキハ裁判所ハ何時ニテモ再ビ辯論ヲ開クノ權ナクンバ辯論ノ不充分ニシテ裁判官ニ於テ不明瞭ノ點アルニモ拘ラズ事實ヲ妄斷セザル可ラザルノ弊ニ陷レバナリ故ニ本條ニ辯論ノ再開ヲ規定スサレバ辯論ヲ開キタル時ハ未ダ曾テ辯論ヲ閉ヂザザル以前ノ形狀ニ復シ當事者ハ不明瞭ナル點ニ付キ辯論ヲ爲スノミナラズ其他ノ事項ニ付テモ亦辯論ヲ爲サヾルベカラズ

**第百二十五條** 裁判所ハ辯論ニ與カル者日本語ニ通セザル時ハ通事ヲ立會ハシムル但裁判所構成法第百十八條ノ場合ハ此限リニ在ラズ

註疏 本條ハ口頭辯論ノ際辯論ニ與カルモノ日本語ニ通ゼザルガ爲メ通事ヲ要スル場合ナリ即チ辯論ニ與カル原告又ハ被告證人鑑定人等日本語ニ通ゼザル時ハ通事トシテ通辯人ヲ用フト雖モ若シモ其通事タルベキ人ナキ時ハ裁判所書記外國語ニ通スルトセバ裁判長ノ承諾ヲ得テ書記ヲ通事ニ用フルコトヲ得ルナリ此場合ニ於テハ裁判所構成法第百十八條ノ規定ノ如ク其審問調書ハ日本語ヲ以テ之ヲ作ラザル可ラズ

本條ノ裁判所構成法第百十八條ノ場合トハ外國人ノ原告若クハ被告タル訴訟ニ關係アル者及ビ其訴訟ノ辯論ニ參與シタル官吏ガ或外國語ニ通ズル時ハ裁判長便利ト認ムル時ニ限リ外國語ヲ以テ辯論ヲ爲スコトヲ得ルヲ云フナリ

**第百二十六條** 裁判所ハ辯論ニ與カル者聾又ハ啞ナルトキハ之ニ文字ヲ以テ理會セシムルコトヲ得ザル場合ニ限リ通事ヲ立會ハシムルコトヲ得

註疏 本條ハ前條ト同一ノ精神ニ出デタル規定ナリ即チ辯論ニ與カル者聾者又ハ啞者ニシテ文字ニテ理會セシムルヲ得ザル時ハ通事ヲ用フルコトヲ得ト云フニアリ通事ヲ用フル時ハ形容ナドニテ容易ニ事物ヲ理會スルヲ得レバナリ

**第百二十七條** 裁判所ハ相當ノ演述ヲ爲ス能力ノ缺ケタル原告若クハ被告又ハ訴訟代理人若クハ輔佐人ニ其後ノ演述ヲ禁シ且新期日ヲ定メ辯護士ヲシテ演述セシムヘキコトヲ命ズ可シ

裁判所ハ裁判所ニ於テ辯論ヲ業トスル訴訟代理人若クハ輔佐人ヲ退斥セシムルコトヲ得此場合ニ於テハ新期日ヲ定メ且退斥ノ決定ヲ原告若クハ被告ニ送達ス可シ

本條ノ規定ニ從ヒ爲シタル命ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ズ

辯護士ニハ本條ノ規定ヲ適用セズ

註疏 相當ノ演述ヲ爲ス能力ノ缺ケタル者トハ身躰上又ハ精神上ニ欠缺アリテ相當ノ演述ヲ爲ス能ハザルモノヲ稱ス然レドモ未ダ日本語ニ通ゼザルモノヽ如キ或ハ聾者又ハ啞者ノ如キモ直ニ之ヲ相當ノ演述ヲ爲ス能力ノ缺ケタル者トハ云フベカラズ何トナレバ此等ノ者ト雖モ外國語又ハ日本文字ヲ以テ理會力ヲ有スルコトアレバナリ但其理會力ナキモノハ能力ノ缺ケタルモノト謂フベキカ

相當ノ演述ヲ爲ス能力ノ欠缺シタル者出頭スルトキハ事件ニ付キ充分ノ演述ヲ爲スニ至ラザルガ故ニ其演述ヲ禁シ且新期日ヲ定メ辯護士ヲシテ出頭セシムベキコトヲ命ズ若シコノ命ニ從ハズシテ新期日ニ辯護士ヲ出頭セシメズ自身ニ再ビ出頭シタルトキハ相手方

ハ其任意ニ法廷ヲ退キタルモノト看做シ欠席裁判ヲ請求スルコトヲ得ルニ至ル可シ

右ノ辯護士出頭ノ爲メ生ズル費用ハ第七十二條ニ謂フ權利伸張又ハ防禦ニ必要ナル費用ト看做ス可キモノタリ

第二項ノ辯論ヲ營業トスル者ノ中ニハ辯護士ヲ包含セズ此辯論ヲ營業トスル者ニ對シ辯論禁止ノ權ヲ裁判所ニ與ヘタルハ此等ノ者ハ多クハ不正ノ徒ニシテ弊害ヲ生ズルヲ以テナリ而シテ其出頭退斥ノ決定ハ之ヲ原告若クハ被告ニ送達ス是レ原告若クハ被告ハ退斥ノ決定アリタルコトヲ知ラザルコト往々アルガ爲メナリ

第三項ハ不服ヲ許ストキハ本條規定ノ目的ヲ達セザルヲ以テナリ

第四項辯護士ニ本條ノ規定ヲ適用セザルハ辯護士ニハ相當ノ演述ヲ爲スノ能力ノ欠缺シタル者ナシト看做シタルニ據ル

**第百二十八條** 辯論ニ與カル者秩席維持ノ爲メ辯論ノ場所ヨリ退斥セラレタルトキハ申立ニ因リ本人ノ任意ニ退去シタルト同一ノ方法ヲ以テ之ヲ取扱フコトヲ得但裁判所構成法第百十條ニ依リ中止シタル場合ハ此限ニ非ラス

前條ノ場合ニ於テ禁止又ハ退斥ノ命ヲ受ケタル者再ビ出頭スルトキハ前項ノ方法ヲ以テ之ヲ取扱フコトヲ得

註疏 本條ハ裁判長ノ秩序維持權ニ依リ辯論ニ與ル者ニ退斥ヲ命ズル場合ニ於ケル規定ナリ秩序維持ニ關スル規定ハ裁判所構成法第百八條乃至第百十一條ニシテ法廷ヨリ退斥スルニ付テノ規定ハ同法第百十條ニ在リ此規定ニ依リ退斥セラレタル者當事者ノ一方ナルトキハ本人任意ニ退去シタルモノト看做シ欠席裁判ヲ爲シ若シ既ニ辯論ヲ爲シタル後退斥ヲ命ゼラレタルトキハ其後ノ辯論ヲ爲ス權ヲ失フ若シコノ場合ニ於テ直チニ判決ヲ爲ス時ハ既ニ提出シタル事項ニ因リ判決ヲ爲スナリ若シ退斥セラレタル者證人若クハ鑑定人ナルトキハ欠席判決ヲ爲スヲ得ザルハ勿論ナリト雖モ原告若クハ被告ハ爲メニ損害ヲ受クルコトアル可シ卽チ其退斥セラレタルガ爲メ證據ヲ得ル能ハザル類ナリ依テ此場合ニ於テハ辯論ノ延期ヲ申立ツルヲ良シトス

但書ノ裁判所構成法第百十條ニ依リ中止シタル場合トハ卽チ原告若クハ被告ガ審問ヲ妨ゲ又ハ不當ノ行爲ヲ爲シタルニ依リ法廷ヨリ退カシメタル上卽時ニ處罰スルカ又ハ處罰ノ上猶本人宥恕ヲ請フテ悲願ヲ表シテ不敬ノ罪ヲ謝スル迄其審問ヲ中止スルヲ得ルコトヲ云フ第二項ハ演述ヲ禁ゼラレタル者又ハ法廷ヨリ退斥セラレタル者新期日再ビ出頭スルトキハ本條第一項ノ規定ニ因リ不利益ノ效果ヲ受クルコトヲ定メタルナリ

**第百二十九條** 口頭辯論ニ付テハ調書ヲ作ル可シ

調書ニハ左ノ諸件ヲ揭ク可シ

第一辯論ノ場所年月日
第二判事裁判所書記及ヒ立會ヒタル檢事若クハ通事ノ氏名
第三訴訟物及ビ當事者ノ氏名
第四出頭シタル當事者法律上代理人訴訟代理人及ビ輔佐人ノ氏名
若シ原告若クハ被告闕席シタルトキ其闕席シタルコト
第五公ニ辯論ヲ爲シ又ハ公開ヲ禁シタルコト

註疏、本條ハ口頭辯論ニ付キ裁判所ニ於テ裁判書記ノ作ル可キ調書ニ關スル規定ナリ

**第百三十條** 辯論ノ進行ニ付テハ其要領ノミヲ調書ニ記載ス可シ

調書ニ記載シ明確ニス可キ諸件ハ左ノ如シ
第一 自白、認諾、拋棄及ヒ和解
第二 明確ニス可キ規定アル申立及ヒ陳述
第三 證人及ヒ鑑定人ノ供述但其供述ハ以前聽カサルモノナルトキ又ハ以前ノ供述ニ異ナルトキニ限ル
第四 檢證ノ結果
第五 書面ニ作リ調書ニ添附セサル裁判(判決、決定及ヒ命令)
第六 裁判ノ言渡

附錄トシテ調書ニ添附シ且調書ニ附錄トシテ表示シタル書類ニ於ケル記載ハ調書ニ於ケル記載ニ同シ

**註疏** 本條ハ辯論ノ進行ニ付テ其要領ヲ調書ニ掲グベキコトヲ定メタルナリ

第一號ノ自白トハ當事者ノ一方カ己レニ不利ナル結果ヲ生ズルコトアル可キ事實ヲ認ムルコトヲ云ヒ認諾トハ相手方ノ權利ヲ承認スルコトヲ云ヒ拋棄トハ自己ノ權利ヲ棄捨スルヲ云フ和解トハ當事者交互ノ讓合卽チ出捐ヲ爲シテ爭ヒヲ落着セシムルコトヲ云フ

第二號此申立及ヒ陳述ヲ明確ス可キ規定ハ第二百二十二條第二百二十三條ニシテ區裁判所ニ於ケル手續ニ付テハ第三百八十條第二項計算事件等ニ付テハ第二百六十八條等ナリ

第三號但書ハ多々控訴審ニ適用スレドモ第一審ニ於テモ再訊問ヲ必要トスル場合ニ於テハ又但書ノ規定ヲ適用スルニ至ルヤ必セリ

第四號檢證シタルトキ其結果如何ヲ記スベシ

第五號裁判トハ裁判所ノ意思ノ陳述ヲ云フ而シテ裁判ハ判決、決定、命令、ノ三種アリ書面ヲ作リ調書ニ添附セザル裁判ハ決定命令ノ場合ニ多シ而シテ此場合ニ於テハ別ニ裁判書ヲ作ラズシテ直チニ調書ニ裁判ヲ記載スルコトアリ

第六號判決ノ言渡ニ付テハ第二百三十三條乃至第三百三十五條ヲ參照ス可シ

末項ハ調書ニ記載セザルモ其附錄トシテ之ニ添附シタル書類ニ記載シタル事項ハ調書ニ

記載シタル事項ト同一ノ效力ヲ有セシムルノ規定ニシテ之レ蓋シ訴訟ノ落着ヲ迅速ナラシムルニ在リ準備書面モ亦調書ノ附錄トシテ利用セラルヽモノトス

**第百三十一條** 前條第一號乃至第四號ニ揭ケタル調書ノ部分ハ法廷ニ於テ之ヲ關係人ニ讀聞カセ又ハ閲覽ノ爲メ之ヲ關係人ニ示ス

調書ニハ前項ノ手續ヲ履ミタルコト及ヒ承諾ヲ爲シタルコト又ハ承諾ヲ拒ミタル理由ヲ附記ス可シ

註疏 關係人トハ當事者及ヒ證人鑑定人等ヲ云フ而シテ調書ヲ關係人ニ讀聞カセ又ハ閲覽セシムル目的ハ其記載ノ事項ニ相違スル所アルヤ否ヤヲ示スニ在リ

調書ニ記載シタル事項ニ承諾ヲ與フルコトヲ拒ミタルトキハ其調書ハ毫モ證據力ヲ有セズ從テ控訴アリタルトキハ控訴審ニ於テ承諾ヲ拒ミタル調書ニ基キ第一審裁判ノ理由ニ依ルコトヲ得ズ而シテ承諾ヲ拒ミタル理由ヲ調書ニ附記スルノ目的ハ不服申立ノ理由ト爲スコトヲ得セシムルニ在リ若シ關係人ニ調書ヲ讀ミ聞カセ又ハ之ヲ示ス前ニ關係人法廷ヲ退キ爲メニ承諾ヲ經タルモノナルヤ否ヤ明カナラザル如キ場合ニ於テハ其旨ヲ調書ニ附記スベシ

**第百三十二條** 調書ニハ裁判長及ヒ裁判所書記署名捺印ス可シ

裁判長差支アルトキハ官等最モ高キ陪席判事之ニ代リ署名捺印ス區裁判所判事差支アルトキハ其裁判所書記ノ署名捺印ヲ以テ足ル

註疏 調書ニハ裁判長及ヒ書記ノ署名捺印ヲ必要トス若シ此署名捺印アラザルトキハ其調書ハ何等ノ證據力ヲモ有セズ而シテ裁判長及ヒ裁判所書記ノ署名捺印シタル調書ハ公正證書ノ證據力ヲ有スルニ至ルナリ然レドモ關係人ノ署名捺印ハ之ヲ要セズ何トナレバ調書ハ卽チ公正證書ナレバ僞造ノ申立アル迄ハ關係人ノ署名捺印ヲ要セザルノミナラズ完全ナル證據力ヲ有スルモノナレバナリ

第二項ハ裁判長疾病其他ノ事故ニ依リ調書ニ署名捺印スルコト能ハザルトキ其代理ヲ爲スベキ者ヲ定メタルナリ裁判長差支アルトキハ次席ノ陪席判事之ニ代リ區裁判所判事差支アルトキハ裁判所書記ヲシテ代テ署名捺印爲サシムルモノトス

**第百三十三條** 受命判事若クハ受託判事又ハ區裁判所判事カ法廷外ニ於テ爲ス審問ニモ亦裁判所書記ヲ立會ハシム

前四條ノ規定ハ右ノ審問調書ニ之ヲ準用ス

註疏 受命判事トハ裁判所ノ部員ニシテ組合ノ命ニ依リ審問ヲ爲ス判事ヲ云フ之レ蓋シ或ル證據調ニ付キ組合ノ部員擧テ其取調ヲ爲スノ必要ナキトキ部員中或ル一人ニ其取調ヲ任ズルハ訴訟上必要ナリ受託判事トハ他ノ裁判所ノ囑託ヲ受ケ審問ヲ爲ス判事ヲ云フ而シテ其囑託ヲ受クル判事ハ區裁判所ノ判事ヲ以テ通例トス此ノ如ク規定シタルハ他ノ

裁判所ノ囑託ニ依リ審問ヲ爲スハ區裁判所判事ガ最モ適當ナレバナリ卽チ證人ノ取調ヲ爲スニ當リ證人ノ居所區裁判所ノ近傍ニ在リテ取調上便利ナルヤ勿論ナリ

區裁判所判事ガ法廷外ニ於テ爲ス審問トハ元來區裁判所ハ合議裁判所ニ非ザルガ故ニ法廷外ニ於テ檢證ヲ爲ス場合ニ於テ其行爲ヲ爲サシムル爲メ其部員卽チ受命判事ヲ命スルコトヲ得ズ單獨判事自ラ其地ニ臨ミ審問ヲ爲スヲ云フ

右等ノ判決裁判所ニ於テ爲ス行爲ニ非ザル場合ト雖モ尙ホ裁判所書記ヲ立會ハセ其調書ヲ確實ニ爲サヾル可カラズ

第二項ノ口頭辯論外ノ審問ニ付キ適用スベキ事項ハ調書ノ朗讀又ハ閲覽等ナリ

**第百三十四條** 口頭辯論ノ爲メ規定シタル方式ノ遵守ハ調書ヲ以テノミ之ヲ證スルコトヲ得

註疏 本條ハ調書ノ證據力ヲ示シタルモノナリ而シテ本條ヲ適用スベキ場合ハ例ヘバ第四百三十六條第一號ノ規定ニ從ヒ判決裁判所ヲ構成セザリシトキ之ヲ理由トシテ上告ヲ爲ス場合ノ如シ

**第百三十五條** 此法律ニ從ヒ口頭ヲ以テ訴、抗告申立、申請及ヒ陳述ヲ爲シ又ハ證言ヲ拒ム場合ニ於テハ裁判所書記ハ其調書ヲ作ルヘシ

註疏 本法中ニ申立申請等ヲ口頭ヲ以テ爲スコトヲ得トアル場合往々之レアリ此場合ニ於テ裁判所書記ハ如何ナルコトヲ爲スベキヤト云フニ此ニ規定シタル如ク調書ヲ作リ其訴、抗告、申立、等ヲ錄取スベシ

## 第二節 送達

註疏 送達トハ書類ノ正本又ハ謄本等ヲ當事者ニ送付スルコトヲ云フ其ノ目的ハ當事者ガ訴訟ニ付キ裁判ヲ爲ス爲メ必要ナル通知ヲ爲スニアリ送達ハ必ズ本人又ハ其代人タルベキ者ノ受取リタル確證ヲ要ス是送達ハ訴訟上重要ナルモノニシテ之ニ依リテ權利及ヒ義務ヲ發生スルモノナレバナリ例ヘバ合式ノ送達ニ依リ訴訟物ノ權利拘束始マリ合式ノ送達ナキトキハ闕席判決ヲ受クルニ至ラザルガ如シ

**第百三十六條** 送達ハ裁判所書記職權ヲ以テ之ヲ爲サシム

裁判所書記ハ執達吏ニ送達ノ施行ヲ委任シ又ハ送達ヲ施行スヘキ地ヲ管轄スル區裁判所ノ書記ニ送達ノ施行ヲ執達吏ニ委任スヘキコトヲ囑託ス

裁判所書記ハ郵便ニ依リテモ亦送達ヲ爲サシムルコトヲ得

第二項ノ場合ニ於テハ執達吏又第三項ノ場合ニ於テハ郵便配達人ヲ以下ニ規定スル送達吏ト爲ス

註疏　裁判所書記職權ヲ以テ云々トハ當事者ノ一方カ裁判所ニ他ノ一方ヘ通知ヲ爲スベキコトヲ申立テ裁判所ノ手ヲ經テ相手方ニ其通知ヲ爲スヲ云フ元來民事訴訟ハ不干涉主義ナレバ本人ヲシテ自ラ其送達ヲ爲サシムルヲ以テ正當ト爲スト雖モ若シ此ノ如クスルトキハ爲ニ幾多ノ弊害ヲ釀スニ至ルベキヲ以テ本法ハ裁判所書記ノ手ヲ經テ相手方ニ通知ヲ爲スベキモノト定メタルナリ

第二項ハ裁判所書記カ送達ノ施行ヲ執達吏ニ委任シ又ハ送達ヲ施行ス可キ地ヲ管轄スル區裁判所ノ書記ニ送達ノ施行ヲ執達吏ニ委任ス可キコトヲ囑託スルコトヲ得ルナリ

第三項ハ裁判所書記ハ必ズ執達吏ヲシテ送達ノ施行ヲ爲サシメザル可カラザルモノニ非ズ其意見ニ依リ郵便ヲ以テモ亦送達ヲ爲スコトヲ得ルナリ其方法ハ送達ス可キ書類ヲ郵便ニ託シテ配達人ヲシテ執達吏ニ代ラシム

第四項ハ裁判所書記カ執達吏ヲシテ送達ヲ爲サシメ郵便配達人ヲシテ送達ヲ爲サシメタルトキハ此等ノ者ヲ送達吏ト爲ストノ義ナリ

## 第百三十七條

送達ハ其送達スヘキ書類ノ正本又ハ認證シタル謄本ヲ交附スヘキ規定アルトキハ其正本又ハ其謄本ノ交附ヲ以テ之ヲ爲シ其他ノ場合ニ於テハ謄本ノ交付ヲ以テ之ヲ爲ス

原告若クハ被告數人ノ代理人ニ爲シ又ハ同一ナル原告若クハ被告ノ代理人數人中ノ一人ニ爲スヘキ送達ハ謄本又ハ正本ノ一通ヲ交付スルヲ以テ足ル

註疏　正本トハ官廳又ハ官吏ガ一定ノ方式ニ從ヒ調製シタル證書ヲ云ヒ認證シタル謄本トハ正本ト符合スルコトヲ保護シタル謄本ヲ云フ又單ニ謄本ト稱スルモノハ正本ト符合スルノ保證ナキモノヲ云フ若シ正本又ハ認證シタル謄本ヲ送達ス可キ規定アル場合ニ於テ謄本ヲ送達スルトキハ違法ノ送達ナルヲ以テ送達ノ效力ヲ生ゼズ反之正本又ハ認證シタル謄本ヲ送達スベキ規定ナキ場合ニ於テ正本又ハ認證シタル謄本ヲ送達シタルトキハ却テ其手續ヲ鄭重ニ爲シタルモノナレバ不法トイフコト能ハズ故ニ十分送達ノ效力アリ若シ又認證シタル謄本ヲ送達シタル場合ニ於テ正本ト相違スル所アルトキハ其送達ハ如何ナル效力ヲ有スルヤ曰ク送達ハ爲メニ無效ト爲ラズ謄本ニシテ認諾アル以上ハ其謄本ハ受取人ノ爲メニ正本ト同一ナルヲ以テ受取人ハ必ズ之ニ依リテ行爲ヲ爲サヾル可カラザレバナリサレドモ爲メニ受取人ニ不利益ナル行爲ヲ爲サヾル可カラザルトキハ受取人ハ其誤謬ヲ主張シ得ルヤ必セリ

第二項ハ原告若クハ被告ノ數人アリテ一人ノ代理人ヲ命シタルトキ又ハ原告若クハ被告ノ代理人數人アリタルトキハ其中一人ノ代理人ニ送達ヲ爲セバ有效ナルコトヲ定メタルナリコレ手數ト時間ヲ省クノ便宜ヨリ出デタルニ外ナラズ

**第百三十八條**　訴訟能力ヲ有セサル原告若クハ被告ニ對スル送達ハ其法律上代理人ニ之ヲ爲ス

公又ハ私ノ法人及ヒ其資格ニ於テ訴ヘ又ハ訴ヘラルヽコトヲ得ル會社又ハ社團ニ對スル送達ハ其首長又ハ事務擔當者ニ之ヲ爲スヲ以テ足ル

數人ノ首長若クハ事務擔當者アル場合ニ於テハ送達ハ其一人ニ之ヲ爲スヲ以テ足ル

**註疏**　本條ハ訴訟無能力者ニ對シテ爲ス送達ニ關スル規定ナリ

訴訟無能力者トハ卽チ未成年者ノ如キモノニシテ未成年者ノ代理人トハ父若クハ其後見人ノ如キ是レナリ故ニ未成年者ノ代理人タル父若クハ後見人ニ送達ヲ爲サズシテ未成年者ニ爲シタルトキハ其送達ハ無效ナリトス而シテ此例外ハ訴訟能力ノ欠缺アル原告若クハ被告ガ遲滯ノ爲メ危害アルガ故ニ假リニ訴訟ヲ爲スコトヲ許ス場合ナリトス

第二項ハ公又ハ私ノ法人及ヒ其資格ニ於テ訴ヘ又ハ訴ヘラルヽコトヲ得ル會社又ハ社團ニ對スル送達ハ其首長又ハ事務擔當者ニ之ヲ爲スヲ以テ足ルトアリ首長又ハ事務擔當人トハ公又ハ私ノ法人ノ法律上ノ代理人ナリト雖モ或ル場合ニ於テハ法律上代理人タラザルコトアリ例ヘバ某會社ノ取締役數名アル場合ニ於テ定款又ハ決議ニテ裁判上ノ代理人ハ甲者トシ其他ノ代理人ヲ乙者ト定メタルトキハ乙者ハ會社ノ法律上ノ代理人ニ非ラズ故ニ第一項ニ依ルトキハ甲者ニ送達ヲ爲スコトヲ得ルモ乙者ニ送達ヲ爲スヲ得ザルガ如シ尤モ第三項ニ於テ此等ノ者ニモ尙ホ送達ヲ爲スノ效アルコトヲ定メタリ

第三項ハ首長又ハ事務擔當人數人アルトキハ其數人ニ送達ヲ要スルヤ否ヤノ疑問アルヲ以テ其一人ニ送達ヲ爲シ有效ナラシムル便法ヲ設ケタルナリ首長ノ數人アル場合トハ會社ガ數人ノ取締役ヲ任シタル場合是レナリ

**第百三十九條**　豫備後備ノ軍籍ニ在ラサル下士以下ノ軍人軍屬ニ對スル送達ハ其所屬ノ長官又ハ隊長ニ之ヲ爲ス

**註疏**　本條ハ陸海軍ノ現役ニ屬スル下士以下ノ軍人軍屬ニ爲ス送達ニ關スル規程ナリ現役卽チ豫備後備ノ軍籍ニ在ラザル下士以下ノ軍人軍屬ノ陸軍ニ屬スル者ハ常ニ兵營ニ在リテ其海軍ニ屬スル者ハ常ニ軍艦ニ在リ從テ其軍人軍屬ニ對シ兵營又ハ軍艦ニ於テ送達スルトキハ不都合ヲ感ズルコトアリコレ特別ノ規定ヲ要スル所以ニシテ本條ハ士官以上ノ軍人又ハ士官以下ト同等ナル軍屬ニハ之ヲ適用セズ此等ノ者ニ對スル送達ハ普通ノ規定ニ依ルナリ本條ニ掲グル者ニ對スル送達ハ軍人ナルトキハ其隊長軍屬ナルトキハ其長官ニ之ヲ爲シ以テ本人ニ爲シタルモノト看做ス而シテ送達ヲ受ケタル隊長及ヒ長官ハ其配下ノ軍人又ハ軍屬ニ送達セラレタル書類ヲ交付スベキヤ否ヤハ特ニ法律ニ明記スル所ナラズト雖モ隊長又ハ長官ノ職務トシテ之ヲ交付スルカ又ハ相當ナル方法ヲ以テ傳達ス

ベキハ當然ノ義務ナリトス然リ而シテ送達ノ效力ハ本人其書類ヲ受取リタルト否トニ拘ハラズ隊長又ハ長官ニ送達シタルヲ以テ十分ナリトス

**第百四十條** 囚人ニ對スル送達ハ監獄署ノ首長ニ之ヲ爲ス

註疏 囚人ハ監獄署ニ在ルヲ以テ直接ニ之ニ送達スルトキハ不都合ヲ來タスガ故ニ監獄署ノ首長卽チ典獄ニ送達ヲ爲シ本人ニ送達シタルト同一ノ效力アルモノト爲シタリ

**第百四十一條** 送達ハ財産權上ノ訴訟ニ付テハ總理代人ニ之ヲ爲シ又商業上ヨリ生タル訴訟ニ付テハ代務人ニ之ヲ爲スヲ以テ原告若クハ被告ノ本人ニ爲シタルト同一ノ效力ヲ有ス

註疏 代務人トハ商業主人ノ商號ヲ用ヒ且之ニ代リ裁判上ト裁判外トヲ問ハズ其商業ニ關スル總テノ商取引及ビ權利行爲ヲ爲シ得ル者卽チ支配人ナイフ此總理代人及ビ代務人ハ恰モ後見人ノ未成年者ニ對スルガ如ク委任者又ハ主人ニ對シテ關係ヲ有スルガ故ニ此等ノ者ニ對シテ送達ヲ爲シタルキトハ原告若クハ被告ノ本人ニ爲シタルト同一ノ效力ヲ有スルナリ

本條ニ財産權上ノ訴訟トアルガ故ニ人事ニ關スル訴訟ニ付テハ總理代人又ハ代務人ト云フ如キ資格アル者ニテモ送達ノ效ナシ

**第百四十二條** 訴訟代理人アルトキハ送達ハ其代理人委任ノ旨趣ニ依リ原告若クハ被告ノ代理ヲ爲ス權ヲ有スルトキニ限リ其代理人ニ之ヲ爲ス

然レトモ原告若クハ被告ノ本人ニ爲シタル送達ハ其訴訟代理人アルトキト雖モ效力ヲ有ス

註疏 本條ハ代理人ニ爲ス送達ニ關スル規定ナリ原告若クハ被告ニシテ訴訟代理人ヲ有スル者ニ送達ヲ爲ストキハ其委任ノ趣旨ニ反セザル限リハ其訴訟代理人ニ之ヲ爲スヲ以テ正則トス辯護士ガ訴訟代理人ナルトキハ第六十五條及ビ第六十六條ノ規定ニ依リ當然委任中ニ包含スルモノトス反之辯護士ニ非ラザル者訴訟代理人ナルトキハ第六十六條第二項ニ依リ各箇ノ訴訟行爲ニ付キ委任ヲ爲スコトヲ得ルガ故ニ委任ノ趣旨ニ依リ送達ヲ受クルノ權アルトキニ限リ之ニ送達ヲ爲スコトヲ得

**第百四十三條** 受訴裁判所ノ所在地ニ住居ヲモ事務所ヲモ有セサル原告若クハ被告ハ其所在地ニ假住所ヲ選定シテ之ヲ屈出ツヘシ

假住所選定ノ屈出ハ遲クトモ最近ノ口頭辯論ニ於テ之ヲ爲シ又其前ニ書面ヲ差出ストキハ其書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

前項ノ屈出ヲ爲サヽルトキハ裁判所書記又ハ其委任ヲ受ケタル吏員交付スヘキ書類ヲ原告若クハ被告ノ名宛ニテ郵便ニ付シテ送達ヲ爲

スコトヲ得此送達ハ其書類ノ原告若クハ被告ニ到達スルト否トヲ問ハス又何時ニ到達スルトヲ問ハス郵便ニ付シタル時ヲ以テ之ヲ爲シタルモノト看做ス

註疏　受訴裁判所ノ所在地ニ住居ヲモ又事務所ヲモ有セザル原告若クハ被告ニ假住所ノ届出ヲ爲サシムルハ送達ノ便宜ヲ計リタル規定ニシテ若シ之レナクンバ假令送達ヲ爲スモ被告ニ非ズ又原告若クハ被告カ訴訟代理人ヲ受訴裁判所ノ所在地ニ撰定シタルトキハ假住所ヲ定ムルノ必要ナキハ勿論總理代人又ハ代務人ヲ其所在地ニ有スルトキモ亦其必要ナシ何トナレバ送達ヲ受クベキ者所在地ニ在ルヲ以テナリ

第二項ハ假住所撰定ノ時期ヲ定メタルモノナリ其時期必要ヲ生シタル後最近ノ口頭辯論ニ於テ之ヲ爲シ又ハ口頭辯論前書面ヲ以テ之ヲ爲ス是ヨリ以前ニハ假住所ヲ定ムルノ必要ナシト雖任意ニ假住所ヲ定ムルハ毫モ妨ケナキヲ以テ訴狀ノ提出ト同時ニ假住所ノ届出ヲ爲スモ亦可ナリ若シ訴訟中住所ヲ變更シ其後ノ最近ノ口頭辯論前ニ假住所ノ届出ヲ爲サヾルトキハ第三項ノ不利益ヲ蒙ルニ至ル

第三項ハ假住所ヲ前項ノ期間内ニ爲サヾルトキ如何ナル效果ヲ生スルヤヲ示シタルモノナリ假住所ノ届出ヲ爲サヾルトキハ裁判所書記又ハ其委任ヲ受ケタル吏員ガ交付ス可キ書類ヲ原告若クハ被告ノ名宛ニテ郵便ニ付シタルトキヲ以テ送達ヲ爲シタルモノト看做ス

郵便ニ付シタルトキヲ以テ送達ヲ爲シタルモノト看做スハ假住所ノ届出ナキガ爲メニ已ムヲ得ズ此方法ヲ採用シタル規定タルコト必セリサレバ此ノ方法ニ依リテ送達ヲ爲シ得ルコトハ假住所ノ届出アルマデニ限リ假住所撰定ノ必要ノ生シタル後最近ノ口頭辯論ニ届出ヲ爲サヾルモ其後一旦届出ヲ爲ストキハ其日ヨリ本項ノ規定ニ依リテ送達ヲ爲スヲ得ザルベシ故ニ遲クトモ最近ノ口頭辯論ニ届出ヲ爲ス可ク第二項ニ規定シタルハ本項ニ依リ送達ヲ爲シ得ル時期ノ始メヲ定メタルニ過ギズシテ右ノ時日ニ届出ヲ爲サヾルモ假住所撰定スルノ權ヲ失ハシムルノ趣意ニハアラズ

書類ヲ郵便ニ付シタルトキ送達ヲ爲シタルモノト看做ス場合ニ於テハ郵便ノ送達ヲ受クル爲メノ代理人ト看做シ書類ノ本人ニ到達スルト否トヲ問ハズ郵便ニ付シタルトキ有效ニ送達アリタルモノト看做ス此場合ニ於テハ郵便配達人ハ執達吏ハ同一ナル送達吏タルヤ明ケシ

**第百四十四條**　送達ハ何レノ地ヲ問ハス送達ヲ受クヘキ人ニ出會ヒタル地ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得然レトモ其人カ其地ニ住居又ハ事務所ヲ有スルトキ其住居又ハ事務所ノ外ニ於テ爲シタル送達ハ其受取ヲ拒マサリシトキニ限リ效力ヲ有ス

第百三十八條第二項ノ場合ニ於テ特別ノ事務所アルトキハ其事務所ノ外ニ於テ法律上代理人又ハ首長若クハ事務擔當者ニ爲シタル送達ハ其受取ヲ拒マサリシトキニ限リ效力ヲ有ス

註疏　裁判所ヨリ正本又ハ謄本其他ノ書類ヲ送達スルニハ其送達ヲ受クベキ者ニ出會ヒタル地ヲ以テ送達ノ場所トス然レドモ送達ヲ受ク可キ者ガ其地ニ住居又ハ事務所ヲ有スルトキハ其住居又ハ事務所ニ於テ送達ヲ受ク可キ求ヲ爲シ受取ルコトヲ拒マザルトキ限リ送達スルコトヲ得ルナリ此ニ云フ送達ヲ受クベキ者ニ出會ヒタル地トハ例ニハ出會ヒタル地ガ大阪ナルトキハ大阪全部ヲ云フ從テ住居又ハ事務所ヲ大阪内ニ有セルトキハ送達ヲ拒ムコトヲ得ルナリ又此ニ云フ住居トハ住所ヲ云フニ非ズシテ事實上住フ場合ヲ云フ故ニ住家ハ勿論下宿ニテモ旅館ニテモ永ク滯在スルトキハ住居ト爲ルナリ

第二項ハ第百三十八條第二項ノ場合卽チ公又ハ私ノ法人及ビ其資格ニ於テ訴ヘ又ハ訴ヘラルヽコトヲ得ル會社又ハ社團ニ對スル送達ヲ其首長又ハ事務擔當者ニ爲ス場合ニ於テ事務所ノ外ニ於テハ受取ヲ拒マザルトキニ限リ其送達ノ效アリ

**第百四十五條**　送達ヲ受クヘキ人ニ住居ニ於テ出會ハサルトキハ其住居ニ於テスル送達ハ成長シタル同居ノ親族又ハ雇人ニ之ヲ爲スコトヲ得

此規定ニ從ヒ送達ヲ施行スルコトヲ得サルトキハ其送達ハ交付スヘキ書類ヲ其地ノ市町村長ニ預置キ送達ノ告知書ヲ作リ之ヲ住居ノ戸ニ貼附シ且近隣ニ住居スル者二人ニ其旨ヲ口頭ヲ以テ通知シテ之ヲ爲スコトヲ得

註疏　送達ヲ受クベキ本人ニ送達ヲ爲シ能ハザルトキノ送達ニ關スル規定ナリ

送達ヲ受クベキ者ニ出會ハザルトハ送達ヲ受クベキ者其住居ニ現在スルト否トニ關セズ送達ヲ爲ス執達吏又ハ郵便配達吏ニ出會セザルヲ云フ故ニ送達ヲ受クル者例ヘバ疾病ナルトキ又ハ睡眠中ナルトキハ本人住居ニアルモ住居ニ於テ出會シ能ハザルコトアルベシ此場合ニ於テハ第一項ヲ適用シ得ルナリ又送達ヲ受取ルベキ者他行シ不在ナルトキ本項ヲ適用スベキハ勿論ナリ

第一項ニ成長シタルトアルハ成年ナルヲ要セズ成長シタル者ナルヤ否ヤハ事實上ノ問題ニシテ送達吏ノ見込ニ依ラザル可カラズ又此ニ同居スルコトヲ必要トスルガ故ニ親族ニシテ送達ノ際送達ヲ受ク可キ者ノ住居ニ在ルモ他ニ住所ヲ有スル者ニハ本項ヲ適用スルヲ得ズ而シテ其同居ノ親族ナルヤ否ヤハ亦事實上ノ問題ナレバ送達吏ガ其際ニ於テ判斷セザル可カラズ然レドモ雇人ニ付テハ同居スルコトヲ要セズ故ニ通勤ノ如キモノニテモ送達ノ當時送達ヲ受ク可キ者ノ住居ニ在ルトキハ之ニ送達ヲ爲シ得ルナリ

第二項ノ送達ヲ施行シ得ザルトハ如何、曰ク如何ナル方法ニ依リテモ全ク送達ヲ爲スコトヲ得ズト云フ意義ニ非ズ送達吏ノ見込ニ依リテ送達ヲ爲シ得サルモノト定メタル場合ヲ云フ從テ送達ヲ受ク可キ者在宅ナルモ送達ヲ施行シ能ハザル場合ニ屬スルコトアリ例ヘバ送達ヲ受ク可キ者ガ疾病又ハ食事中ニシテ親族又ハ雇人等ノ代テ送達ヲ受ク可キ者ノ非ザルトキノ如キカ第二項ヲ適用スルニ至ルハ送達ヲ受ク可キ者ガ送達ヲ爲ス地ニ前項ニ云フ住居ヲ有シ書類ヲ受取ル可キ者ニ出會ハズ又ハ正當ノ理由ニ依リテ書類ノ受取リヲ拒ムニ依リ送達ヲ施行シ得ザルコトヲ要ス本項ノ方法ニ依リ送達ヲ爲ストキハ送達ノ施行ヲ爲シ能ハザリシ證ヲ作ラザル可ラズ送達ヲ受ク可キ者住居外ニ於テ事務所ヲ有スルトキハ其事務所ニ至リ送達ヲ試ムルコトヲ要セズ住居ニ至リ送達ヲ爲スコトヲ得ザレバ直チニ本項ヲ適用シ得ルナリ

交付スベキ書類ノ送達ヲ爲ス可キ地ノ市町村長ニ只其書類ヲ預ケタルノミヲ以テ足レリトセズ送達アリシコトヲ本人ニ知ラシムルヲ必要トスルガ故ニ居住ノ戸ニ送達書類ノ所在ヲ示ス告知書ヲ貼付シ且近隣ニ住ム隣佑ノ人ニ其旨ヲ告ゲ置クベシ

**第百四十六條** 住居ノ外ニ事務所ヲ有スル人ニ對スル送達ハ事務所ニ於テ之ニ出會ハサルトキハ其事務所ニ在ル營業使用人ニ之ヲ爲スコトヲ得此規定ハ辯護士ニモ亦之ヲ適用ス但此場合ニ於ケル送達ハ筆生ニモ亦之ヲ爲スコトヲ得

註疏 第百四十四條ノ規定ニ據ルトキハ住居及ビ事務所ニ於テ送達ヲ爲スコトヲ得然ルニ若シ此住居及ビ事務所ニ於テ送達ヲ受ク可キ者ニ出會ハザルトキハ第百四十五條第一項ノ規定ニ從ヒ成長シタル同居ノ親族又ハ雇人ニ送達ヲ爲スコトヲ得此ノ如ク第百四十五條ハ住居ニ於テ送達ヲ爲スコトヲ得ザルトキノ規定ナリ故ニ本條ニ於テ之ヲ定メタルモノトス卽チ事務所ニ於テ出會ハザルトキハ其事務所ニ在ル營業使用人ニ對シ送達ヲ爲スヲ得ルナリ

此ニ云フ營業使用人トハ營業上ノ業務ヲ辯ゼンガ爲メ雇傭セラルヽモノ卽チ番頭手代ノ如シ又住居ノ外トアル外ノ字ハ必ズシモ住居ヨリ他所ニ事務所ノアルヲ云フニアラズ住居ト同ジ場所ニテ其一部分ハ住居ニシテ他ノ一部分ガ事務所ナレバ住居ノ外ニアル事務所ト見ルモ又ハ住居ト見ルモ可ナリ又事務所トハ店舗其他ノ營業場ヲ云フ

但書ノ筆生トハ書生ノ如キヲ謂フ書生ハ營業使用人ト云フヲ得ザルヲ以テ特記シタルナリ

**第百四十七條** 第百三十八條第二項ノ場合ニ於テ法律上代理人又ハ首長若クハ事務擔當者ニ事務所ニ於テ出會ハス又ハ此等ノ者受取ニ付キ差支アルトキハ送達ハ事務所ニ在ル他ノ役員又ハ雇人ニ之ヲ爲ス

コトヲ得

**註疏** 公又ハ私ノ法人及ヒ其資格ニ於テ訴ヘ又ハ訴ヘラルヽ會社又ハ社團ニ對シ爲ス送達ノ場合ニ於テハ其法律上代理人又ハ首長若クハ事務擔當者ニ事務所ニ於テ出會ハザルトキ本條ヲ適用ス即チ本條ハ送達ヲ受クベキ者事務所ニ在ルモ送達書類ヲ受取ルニ付キ差支ヘアルトキ例ヘバ餘事ヲナスノ執務中ナルトキノ如シ此ノ場合ニ於テハ其事務所ニ在ル役員又ハ雇人ニ送達ヲ爲スヲ得ルナリ此ノ如ク本條ハ事務所ニ於テ送達ヲ受ク可キモノニ出會ハザルトキハ勿論其差支アルトキヲモ包含ス

本條ニ掲グルモノニ對スル送達ハ第百四十四條第二項ニ依リ事務所ニ於テ之ヲ爲スヲ以テ本則トス其理由ハ法人又ハ其資格ニ於ケル會社又ハ社團ニ付テハ其事務所ガ通常人ノ住居ニ均シキモノナレバナリ

**第百四十八條** 前二條ノ規定ニ從ヒ送達ヲ施行スルコトヲ得サルトキハ第百四十五條第二項ニ準シ送達ヲ爲スベシ但住居ニ於ケル送達ヲ施行スルヲ得サルコトノ明白ナルトキニ限ル

前項ノ場合ニ於テハ送達告知書ノ貼附ハ事務所又ハ住居ノ戸ニ之ヲ爲ス

**註疏** 第百四十六條及ヒ第百四十七條ノ規定ニ從ヒ先ヅ住居又ハ事務所ニ於テ送達ヲ試ミ其效ナキトキ始メテ第百四十五條第二項ノ規定ニ從ヒ交附ス可キ書類ヲ市町村長ニ預ケ置キ其告知書ノ貼付ヲ爲シ近隣ニ住居スルモノ二人ニ其旨ヲ告知シ送達ヲ爲ス

第二項ハ第百四十七條ノ場合ニ於テハ第百四十四條第二項ノ規定ニ依リ送達書類ヲ受取ル可キモノ其住居ニ於テ受取ヲ拒ム權アルモノ故其住居ノ戸ニ告知書ヲ貼附スルヲ得ズ故ニ事務所又ハ住居ノ戸ニ告知書ヲ貼附シ得ル場合ハ第百四十六條ノ場合ニシテ第百四十七條ノ場合ニ於テハ事務所ノ戸ニノミ告知書ヲ貼附スルヲ得ベシ

**第百四十九條** 法律上ノ理由ナクシテ送達ノ受取ヲ拒ムトキハ交付スヘキ書類ヲ送達ノ場所ニ差置ク可シ

**註疏** 送達ノ受取ヲ拒ム可キ理由ナクシテ之ヲ拒ミタルトキ如何ニス可キヤハ本條ノ定ムル所ニシテ此場合ニ於テハ執達吏ハ交附ス可キ書類ヲ送達ノ場所ニ差置キタルノミニテ送達ハ有效ニ爲サシムルモノトス而シテ其差置ク可キ場所ハ家中ナルト路上ナルトヲ問ハズ送達ヲ受取ル可キ者ニ出會ヒタル場所ニ於テス尤モ此場合ニ於テハ執達吏ハ送達ノ受取ヲ拒ミタルコト及ヒ其書類ヲ差置キタルコトヲ送達狀ニ記シ後日ノ證據ニ備フベシ

**第百五十條** 日曜日及ヒ一般ノ祝祭日ニハ執達吏ノ爲スヘキ送達ハ裁判官ノ許可ヲ得ルトキニ限リ之ヲ施行スルコトヲ得

前項ノ規定ハ郵便ニ付シテ爲ス送達ヲ除ク外ハ夜間ニ爲ス可キ送達ニ之ヲ適用ス夜間トハ日沒ヨリ日出マテノ時間ヲ謂フ

右ノ許可ハ受訴裁判所ノ裁判長又ハ送達ヲ爲スヘキ地ヲ管轄スル區裁判所ノ判事之ヲ與ヘ又ハ受命判事若クハ受託判事ノ完結スヘキ事件ニ在テハ其判事之ヲ與フ

許可ノ命令ハ認證シタル謄本ヲ以テ送達ノ際之ヲ交付スヘシ

本條ノ規定ヲ遵守セサル送達ハ之ヲ受取リタルトキニ限リ效力ヲ有ス

註疏　祝祭日トハ大祀令節國祭ノ日ハ勿論ナレトモ寧ロ一地方ノ祝祭ヲモ指稱ス蓋シ此等ノ祝祭日ニ送達ヲ爲サヾルハ人民ハ之ヲ受クルニ頓着セズ送達ノ目的ヲ達セザルコト多キガ故ナラン

第二項ハ郵便ニ付シテ爲ス送達ハ書類ガ本人ニ到着シタルト否トヲ問ハズ郵便ニ付シタルトキヲ以テ送達アリタリト看做スガ故ニ別ニ時間ニ制限ナシ其他ノ場合ニ於テハ夜間ハ休息スヘキ時間ナルヲ以テ送達ヲ爲スヲ得ザルヲ通例トシ前項ト同一ニ裁判官ノ許可アル場合ヲ取除キト爲ス

第三項ハ前二項ノ場合ニ於テ許可ヲ與フル權ヲ有スル者ノ何人ナルカヲ定メタルナリ

第四項ハ許可アルモ送達ヲ受クル者ハ許可アリシヤ否ヤ知ラザルヲ以テ之ヲ知ラシムル爲メ認證シタル謄本ヲ交付スルトノコトヲ定ム

末項ハ適法ノ送達ニ非ラザルモ本人ニ於テ異議ナク受取リタルトキハ有效ナリト定メタルナリ

## 第百五十一條

送達ニ付テハ之ヲ施行スル吏員ハ送達ノ場所年月日時、方法及ヒ受取人ノ受取證并ニ送達吏ノ署名捺印ヲ具備スル證書ヲ作ルコトヲ要ス

受取人受取ヲ拒ミ若シハ受取證ヲ出タスコトヲ拒ミタルトキ又ハ受取證ヲ作ルコト能ハサル旨ヲ述フルトキハ之ヲ送達證書ニ記載スヘシ

第百四十三條第三項ノ場合ニ於テハ郵便ニ付シタル吏員報告書ヲ以テ送達ノ證ト爲スニ足ル

註疏　本條ハ送達ノ際執達吏ノ爲ス可キ手續ヲ定メタルナリ執達吏ハ各送達ニ付キ送達ヲ爲シタル證據ノ爲メ其證書ヲ作ラザルガ爲メ損害ヲ生ズルトキハ執達吏其責ニ任セザル可カラズ若シ此證書ヲ作ラザル可カラズ然リ而シテ執達吏ハ送達證書ヲ作リ其原本ヲ裁判所書記ニ送付シ復タ書記ヨリ之ヲ送達依賴者ニ送付シ其謄本ノ送達ヲ受ク可キ者ニ

交付スルナリ而シテ裁判所ニ於テハ其送達證書ノ謄本ヲ要セズ若シ裁判所ニ於テ證據ノ爲メ之ヲ要スルトキハ舉證ノ義務アル者ヨリ其證書ヲ提出セシム

第二項ハ別ニ述ブ可キ點ナシ

末項ノ郵便ニ付シタル吏員トハ裁判所書記又ハ執達吏ヲ云フ此場合ニ於テハ郵便ニ付シタリトノ吏員ノ報告書ヲ以テ送達ノ證據ト爲スナリ

**第百五十二條** 外國ニ在ル本邦ノ公使及ヒ公使館ノ官吏幷ニ其家族從者ニ對スル送達ハ外務大臣ニ囑託シテ之ヲ爲ス

**註疏** 本條ハ外國ニアル本邦ノ公使及ヒ公使館ノ官吏幷ニ其家族從者ニ爲ス送達ニ關スル規定ナリ卽チ執達吏又ハ郵便ニ依ラズシテ爲ス送達ナリ

外國ニ在ル本邦ノ公使及ヒ公使館ノ官吏等ニ對シテハ別ニ送達ヲ施行スル者ナキガ故ニ外務大臣ニ送達ヲ囑託ス可キナリ在外國ノ本邦ノ領事ニ付テハ別ニ規定ナキモ治外法權ヲ有セザルガ故ニ之ニ對シテ送達ヲ爲ストキハ第百五十三條ノ規定ニ從ヒ外國ノ管轄官廳又ハ外國駐在ノ公使ニ囑託シテ送達ヲ爲ス可キモノトス而シテ其囑託ハ何人ニ於テ爲スカト云フニ受訴裁判所ノ裁判長ガ相當ノ期間ヲ定メテ之ヲ爲スナリ又或ル場合ニ於テハ外國ニ於テ送達ヲ爲スヲ要セザルナリ第六百十條及ヒ第六百二十九條ノ如キ卽チ是レナリ

**第百五十三條** 前條ノ場合ヲ除ク外外國ニ於テ施行スヘキ送達ハ外國ノ管轄官廳又ハ外國ニ駐在スル帝國ノ公使又ハ領事ニ囑託シテ之ヲ爲ス

**註疏** 外國ノ管轄官廳トハ送達ヲ施行ス可キ外國ノ送達ヲ掌ル官廳ヲ謂フ此官廳ニ囑託ヲ爲シ得ルヤハ國際條約ノ定ムル所ニ依ルナリ而シテ外國ノ管轄官廳又ハ領事中其何レニ送達ヲ囑託スルヤハ受訴裁判所ノ裁判長ノ意見ニ依テ之ヲ定ムルナリ

**第百五十四條** 出陣ノ軍隊又ハ役務ニ服シタル軍艦ノ乘組員ニ屬スル人ニ對スル送達ハ上班司令官廳ニ囑託シテ之ヲ爲スコトヲ得

**註疏** 出陣ノ軍隊トハ憲法第三十三條ニ於テ天皇戰ヲ宣シタル後ノ軍隊是レナリ從テ外國ニ在ル軍隊タルコトアリ又內國ニ在ル軍隊タルコトアリ役務ニ服シタル軍艦トハ天皇ノ戰ヲ宣シタル後役務ニ服スル軍艦及ヒ平時ニテモ練習ノ爲メ役務ニ服スル軍艦ヲ謂フ

**第百五十五條** 前三條ノ場合ニ於テ必要ナル囑託書ハ受訴裁判所ノ裁判長之ヲ發ス

送達ハ囑託ヲ受ケタル官廳又ハ官吏ノ送達施行濟ノ證書ヲ以テ之ヲ證ス

**註疏** 受訴裁判所トハ訴訟ノ繫屬スル裁判所ヲ云フ又此ニ裁判長トハ獨リ合議裁判所ノ裁判長ノミナラズ區裁判所ノ訴訟ニ付テハ其審理ヲ爲ス區裁判所ノ判事ヲモ含包ス

第二項ハ如何ナル方法ニ因リテ囑託ヲ受ケタル官廳又ハ官吏ガ送達ヲ施行セシヤハ受訴裁判所ニ於テ詮索スルヲ要セズ其送達施行濟ノ證書ヲ以テ之ヲ證スルモノトス

**第百五十六條** 原告若クハ被告ノ現在地知レサルトキ又ハ外國ニ於テ爲スベキ送達ニ付テハ其規定ニ從フコト能ハズ若クハ之ニ從フモ其效ナキコトヲ豫知スルトキハ其送達ハ公ノ告示ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

註疏 本條ハ本節中ニ定メタル方法ニ依リテ送達ヲ爲スコトヲ得ザルトキ實際書類ヲ交付セザルモ交付シタリト看做ス方法卽チ公示送達ニ付テ規定シタルナリ

(イ) 當事者ノ一方ノ現在地ノ知レザルトキ

(ロ) 外國ニ於テ爲ス可キ送達ニ付テハ其規定ニ從フコト能ハザルトキ之ヲ例ヘバ日本ノ官吏ガ外國ニ駐在セザルトキ又ハ外國ノ官廳ガ送達ノ囑託ニ應ゼザルトキノ如シ

(ハ) 外國ニ於テ爲ス可キ送達ヲ其規定ニ從ヒテ爲スモ其效ナキコトヲ豫知スルトキ之レヲ例ヘバ日本ノ官吏ガ居ラザル外國ニ於テ送達ヲ施行ス可キ場合ニ於テ始メヨリ外國官廳ノ其囑託ニ應ゼザルコトヲ想像シタルトキノ如シ

本條ニ云フ原告若クハ被告トハ廣義ニ解ス可キ者ニシテ其訴訟代理人ヲモ包含スルナリ

**第百五十七條** 公示送達ハ原告若クハ被告ノ申立ニ因リ裁判所ノ命ヲ以テ裁判所書記之ヲ取扱フ

此送達ハ交付スベキ書類ヲ裁判所ノ掲示板ニ貼附シテ之ヲ爲ス判決及ビ決定ニ在テハ其裁判ノ部分ノミヲ貼附スベシ

右ノ外裁判所ハ送達スベキ書類ノ抄本ヲ一箇又ハ數箇ノ新聞紙ニ一回又數回掲載スベキヲ命スルコトヲ得其抄本ニハ裁判所當事者幷ビニ訴訟物及ビ送達スベキ書類ノ要旨ヲ掲クルコトヲ要ス

註疏 本條ハ公示送達ヲ定メタルナリ公示送達ハ原告若クハ被告ノ申立ニ因リ裁判所ガ決定ヲ以テ之ヲ爲ス故ニ原告若クハ被告ノ申立テナクンバ裁判所ガ職權ヲ以テ公示送達ヲ決定スルモノニアラズ若シ申立ヲ俟タズシテ職權ヲ以テ公示送達ヲ決定スルトキハ原告若クハ被告ノ爲メニ損害ヲ生ズルコトアルベク又不利益ナルコトアリ何トナレバ公示送達ハ本條末項ニアル如ク新聞紙等ニ掲載スベキモノナルニ因リ爲メニ生ズル費用ト訴訟ノ價格トヲ比較ナルトキハ公示送達ノ費用却テ多キニ至リ訴訟ヲ取リ下グルノ優レルニ若カザルコトアリ又被告ニ於テモ自己ニ利益アルコト少ナキガ故ニ之ヲ欲セザルコトアレバナリ

第二項ハ公示送達ノ方法ヲ示シ第三項ハ公示送達ナルモノハ交付スベキ書類ヲ裁判所ノ掲示場ニ貼附シテ法律上ノ期間卽チ次條ニ示ス十四日間ヲ經過シタル後其效力ヲ生ズル

モノナリ此ノ如ク公示送達ハ裁判所ノ掲示場ニ書類ヲ掲示シタルノミニテ其效力ヲ生ズルモノナリト雖モ是レ畢竟書類ヲ受取ル可キ者ニ公示送達アリタルコトヲ知ラシムルヲ目的トスルガ故ニ裁判所ニ於テ適當ト思料スルトキハ新聞紙ニ一回若クハ數回公告ヲ爲シ書類ヲ受取ル可キ者ニ公示送達アリタルコトヲ知ラシムルヲ必要トス而シテ新聞紙トハ內國ノ新聞紙ハ勿論外國ノ新聞紙ヲモ包含ス

**第百五十八條** 公示送達ハ書類ノ貼附ヨリ十四日ヲ經過シタル日ヲ以テ之ヲ爲シタルモノト看做ス然レトモ裁判所公示送達ヲ命スルニ際シ此ヨリ長キ期間ヲ必要トスルトキハ相當ナル期間ヲ定ムルコトヲ得同一ノ事件ニ付キ同一ノ原告若クハ被告ニ對シテ爲ス其後ノ公示送達ハ貼附ヲ以テ之ヲ爲シタルモノト看做ス

**註疏** 本條ハ公示送達ノ期間ヲ定メタルナリ公示送達ノ效力ヲ生ズル期間ハ書類ノ貼附後十四日間トス然レドモ此期間ハ裁判所ニ於テ本人ガ公示送達アリタリト知ルニ短シト思料スル時ハ猶長キ期間ヲ定ムルコトヲ得而シテ一旦公示送達ヲ爲シ其期間ヲ經過セバ其效力ヲ生ズルモノナルヲ以テ假令其期間中書類ヲ受取ル可キ者ハ又ハ其代理人ノ住所明カナルカ又ハ其者ガ裁判所ニ出頭スルモ爲メニ公示送達ノ效力ハ消滅セズ

第二項ハ同一ノ事件ニ付キ同一ノ原告若クハ被告ニ再三公示送達ヲ爲スノ必要生ズルトキハ既ニ一回公示送達ヲ爲スモ之ニ應セザレバ其後モ亦同樣ナリト看做シ書面ノ貼附ヲ以テ直ニ效力ヲ生ズルモノトセリ故ニ若シ最初ノ公示送達ニ因リテ行爲ヲ爲ストキハ其後再ビ公示送達ノ必要生ズレバ第一項ヲ適用セズシテ第二項ヲ適用シ十四日ヲ經過セザルモ效力アルコトヽナルナリ

## 第三節 期日及ビ期間

**註疏** 期日トハ裁判所ニ於テ行爲ヲ爲ス確定ノ日ヲ云ヒ期間トハ行爲ヲ爲ス可キ一定ノ時間ヲ云フ依テ期日トハ當事者ノ方ヨリ云ヘバ辯論ヲ爲ス確定ノ日ナリ卽チ裁判所ニ出頭シテ訴訟ニ關スル事柄ヲ口頭ニテ演述シ又ハ申立ヲ爲ス時日ナリ又裁判所ノ方ヨリ云ヘバ審理及ビ言渡ヲ爲ス時日卽チ當事者ノ辯論ヲ聽キ證據調ヲ爲シ裁判ヲ口頭ニテ告知スル時日ナリ反之期間ハ當事者ノ行爲ヲ爲スベキ一定ノ時間ニシテ其行爲ハ必ズ裁判所ニ於テ爲スヲ必要トセリ又口頭ノ演述ヲ要セズ書面ヲ以テ申立若クハ陳述ヲ爲スコトヲ得ルナリ

而シテ右期間ヲ區別シテ裁判官指定ノ期間ト法律上ノ期間ノ二種トス裁判官指定ノ期間トハ期間ト爲スベキ時日ヲ裁判官ノ定メタルモノヲ云ヒ法律上ノ期間トハ期間ト爲スベキ時日ヲ法律ヲ以テ定メタルモノヲ云フ此裁判官指定ノ期間ニ裁判所ノ定ムルモノト裁

判官ノ定ムルモノアリ而シテ法律上ノ期間ニ變更ヲ許サヾル期間即チ不變期間ト變更ヲ許ス期間アリ不變期間ニ付テハ法律ニ不變期間ト爲スコトヲ明示セリ又變更ヲ許ス期間ハ本法中ニ所々ニ散在シテ其場合極メテ多シ

**第百五十九條** 期日ハ裁判長日及時ヲ以テ之ヲ定ム

註疏 本條ハ期日ヲ定ムルコトニ付テ規定シタルナリ唯タ裁判長ハ期日ヲ定ムルニ際シ期日ヲ定ムベキ法律上ノ期間第百九十四條第三百七十七條第三百九十條及ビ第四百二條等ヲ注意セザル可ラズ

**第百六十條** 期日ハ已ムヲ得サル場合ニ限リ日曜日及ヒ一般ノ祝祭日ニ之ヲ定ムルコトヲ得

註疏 期日ハ日曜日又ハ祝祭日ニ之レヲ定ムルコトヲ得ザルヲ原則トス只タ已ムヲ得ザル場合ニ限リ日曜日又ハ祝祭日ニ之レヲ定ムルコトヲ得ルナリ

**第百六十一條** 期日ニ付テノ呼出ハ裁判長ノ命ニ從ヒ裁判所書記正本ノ送達ヲ以テ之ヲ爲ス但在廷シタル者ニ期日ヲ定メ出頭ヲ命シタルトキハ之ヲ送達スルコトヲ要セス

註疏 期日ニ付テノ呼出シハ本人ニ送達スルヲ以テ本則トスルモ期日ニ出頭シタル後辯論ヲ延期シ又ハ續行スル爲メ期日ヲ指定スル等ノ場合ニ於テハ直チニ次ノ期日ヲ定メ出頭ヲ命ズルガ故ニ因ヨリ本人ハ何日ガ次ノ期日ナルカヲ知ルヲ以テ別ニ送達ヲ爲サヾルナリ

**第百六十二條** 期日ハ裁判所内ニ於テ之ヲ開ク但臨檢又ハ裁判所ニ出頭スルニ差支アル人ノ審問其他裁判所内ニ於テ爲スコトヲ得サル行爲ヲ要スルトキハ此限ニ在ラス

註疏 辯論等ノ期日ハ裁判所内即チ裁判所ノ建物内ニ於テ開クモノトス而シテ其裁判所トハ事件ノ繫屬シタル裁判所又ハ受命判事若クハ受託判事ノ面前ニ於テ爲スコトヲ云フ之ニ對スル例外ハ但書ニ在ル所ノ臨檢又ハ裁判所ニ出頭スルニ差支アル人例ヘバ公務ハ疾病ノ爲ニ出廷シ能ハザルモノヽ如シ如此者ノ審問其他裁判所ニ於テ爲スコト能ハザル行爲ヲ要スルトキニ在リ要スルニ裁判所内ニ於テ行爲ヲ爲スコトヲ得ザル場合是レナリ

**第百六十三條** 期日ハ事件ノ呼上ヲ以テ始マル

原告若クハ被告カ期日ノ終ニ至ルマテ辯論ヲ爲サヾルトキハ期日ヲ怠リタルモノト看做ス

註疏 事件ノ呼上トハ例ヘバ何某ヨリ何某ニ對スル何々ノ訴訟事件トカ又何某ト單ニ氏名ヲ呼ブトキノ如シ其呼上ヲ爲ス者ハ通常裁判所廷丁ノ職務ナリ蓋シ事件ノ呼上ハ出頭シタル當事者及ビ證人等ニ期日ノ始メヲ知ラシメ何人ガ期日ニ出頭シタルカヲ確定スル

モノナリ如此期日ハ呼上ヲ以テ始マルヲ以テ呼出狀中ニ期日ト定メル時刻ニ必シモ始マルモノニ非ラズ故ニ呼出狀中ニ掲ケタル時刻ニ出頭スルモ事件ノ呼上ノ際訟廷ニ居ラザル時ハ出頭セザルモノト看做シ闕席判決ヲ受クルニ至ルベシ然レドモ期日ノ呼上ノ際裁判所ニ居ラザルコトアルモ期日ノ終リマデニ裁判所ニ出頭スレバ期日ヲ怠リタルモノトナラズ

第二項ハ當事者ノ一方ガ期日ノ開始後其終ル前ニ出頭シテ辯論ヲ爲ストキハ總テ陳述ヲ爲スコトヲ得レドモ若シ折角出頭スルモ辯論ヲ爲サヾル時ハ期日ヲ怠リタルモノ卽チ闕席者ト看做サヾルコトヲ示シタルモノトス

**第百六十四條** 裁判所又ハ裁判長ノ定ムル期間ノ進行ハ期間ヲ定メタル書類ノ送達ヲ以テ始マリ又其送達ヲ要セサル場合ニ於テハ期間ノ言渡ヲ以テ始マル但期間指定ノ際此ヨリ遲キ起期ヲ定メタルトキハ此限ニ在ラス

註疏 期間ニ裁判指定ト法律上ノ期間アルコトハ既ニ之ヲ述ベタリ裁判官指定ノ期間ハ正當ノ理由アルトキハ裁判官ハ何時ニテモ之ヲ伸張シ又ハ之ヲ短縮スルコトヲ得反之法律上ノ期間ハ法律ニテ伸張シ又ハ短縮スルコトヲ許ス場合ニ限リ之ヲ爲スコトヲ得ルナリ本條ハ裁判官指定ノ期間ノ進行スル始メヲ定メタルモノニシテ法律上ノ期間ニ付テハ一般ノ規定ナキナリ何トナレバ法律上ノ期間ノ進行ハ定マリタル訴訟上ノ出來事ヨリ始マルガ故ニ一般ノ規定ヲ設クルヲ得ズ又其必要ナケレバナリ例ヘバ再審ヲ求ムル訴ノ期間ニ付テハ其訴ヲ起ス者ガ不服ノ理由ヲ知リタル日ヨリ始マルモノトシ又原狀回復ノ訴ニ付テハ障碍ノ止ミタル日ヨリ始マルモノト爲スガ如シ

而シテ裁判官指定ノ期間ハ期間ヲ定メタル書類ノ期間ヲ以テ始マル然レドモ總テノ場合ニ於テ然ルニ非ズ書類ノ送達ヲ要セザル場合ニ於テハ唯其言渡ヲ以テ始マルモノトス

裁判官指定ノ期間ハ決定ノ送達又ハ其言渡ヨリ始マルト規定シタレドモ是レ明カニ期間進行ノ期日ヲ定メザルトキニ限ルモノニシテ若シ裁判官ガ他ノ點ヨリ計算スルトキハ本條但書ノ適用ヲ見ル卽チ假處分ノ場合ニ於テハ其保證金ヲ立テタル日ヨリ何日後ニ假處分ノ行爲ニ着手スルコトヲ得ト定ムルガ如シ

**第百六十五條** 期間ヲ計算スルニ時ヲ以テスルモノハ卽時ヨリ起算シ又日ヲ以テスルモノハ初日ヲ算入セス

註疏 本條ハ期間計算方法ヲ定メタルナリ時ヲ以テ計算スル期間ハ第三百七十七條第四百二十一條第四百五十四條第八號及ヒ第四百九十六條第三項等ナリ又日ヲ以テ計算スル期間ハ第百五十八條第百九十四條及ヒ第三百七十七條等ナリ此時又ハ日ヲ以テ計算スル期間ハ共ニ初日ヲ算入セザルモノトス

**第百六十六條**　一日ノ期間ハ二十四時トシ一ケ月ノ期間ハ三十日トシ一ケ年ノ期間ハ曆ニ從フ

期間ノ終カ日曜日又ハ一般ノ祝祭日ニ當ルトキハ其日ヲ期間ニ算入セス

註疏　本條ハ期間ノ計算標準ヲ定メタルナリ一日ノ期間ハ二十四時間トシ前條ニ因リ初日ヲ算入セズ即チ有事ノ日ノ午後十二時ヨリ起算シテ翌日ノ午後十二時ニ終ル一箇月ノ期間ハ三十日トスルガ故ニ日ニ於テ期間ヲ定メタルトキト同ジク午後十二時ヨリ起算シテ三十一日ノ午後十二時ニ終ル故ニ二月ノ如キ日數二十八日ノ場合ニ於テモ三十日ヲ以テ一ケ月トセザルヲ得ザルヲ以テ一月三十一日ニ期間ヲ定ムレバ三月二日ノ午後十二時ニ終ルナリ一箇年ノ期間ハ曆ニ從フモノナレバ一月十日ニ起算スルトキハ翌年一月十一日午後十二時ヲ以テ終ヲ告グルモノトス故ニ一箇年ト期間ヲ定ムル時ハ三百六十五日ナリト雖モ十二箇月ト定ムル時ハ三百六十日ト爲リ二者ノ間五日ノ差異ヲ生ズルニ至ルナリ第二項ノ日曜日祝祭日ハ休業日ナルヲ以テ期間ニ算入セザルニアリ

**第百六十七條**　法律上ノ期間ハ裁判所ノ所在地ニ住居セサル原告若クハ被告ノ爲メ其住居地ト裁判所ノ所在地トノ距離ノ割合ニ應シ海陸路八里毎ニ一日ヲ伸張ス八里以外ノ端數三里ヲ超ユルトキモ亦同シ裁判所ハ外國又ハ島嶼ニ於テ住所ヲ有スル原告若クハ被告ノ爲メ特ニ附加期間ヲ定ムルコトヲ得

註疏　本條ハ法律上ノ期間ノミニ關スル規定ナリ然レドモ裁判官指定ノ期間ト雖モ裁判官タル者ハ本條ノ規定ヲ斟酌シ之ヲ標準トシテ期間ヲ定ムベキハ勿論ナリ第二項ハ外國又ハ內地ノ島嶼ニ住居ヲ有スル原告若クハ被告ノ爲メニ期間ヲ定ムルトキハ普通ノ期間ニ於テハ不便ナルヲ以テ此場合ニ於テハ普通ノ期間ノ外猶ホ附加期間ヲ與フルコトヲ得ルコトヲ定メタリ例ヘバ在米國ノ者ニハ五箇月ノ附加期間ヲ與ヘ在上海ノ者ニハ三十日ノ附加期間ヲ與フト云フ

**第百六十八條**　期間ノ進行ハ裁判所ノ休暇ニ依リテ停止ス其期間ノ殘余ノ部分ハ休暇ノ終ヲ以テ其進行ヲ始ム期間ノ初カ休暇ニ當ルトキハ其期間ノ進行ハ休暇ノ終ヲ以テ始マル

前項ノ規定ハ不變期間及ヒ休暇事件ノ期間ニハ之ヲ適用セス

不變期間ハ此法律ニ於テ不變期間トシテ揭ケタル期間ニ限ル

休暇事件トハ裁判所構成法第百二十八條第百二十九條ニ揭ケタル事件ヲ謂フ

註疏　本條ハ法律上ノ期間ニモ又ハ裁判官指定ノ期間ニモ適用スルモノナリ裁判所ノ休

暇ハ裁判所構成法第百二十七條ニ因リ七月十一日ニ始マリ九月十日ニ終ルモノナリ而シテ如何ナル方法ニ依テ進行スルカト云フニ本文ニテ明カナル如ク休暇ノ終ヲ以テ進行ヲ始ム

第二項ノ不變期間ハ其性質上公益ノ爲メニ定メタルモノナレバ其伸張又ハ短縮ヲ許サズ從テ裁判所ノ休暇ハ之ニ影響ヲ及ボサズ又休暇事件トハ休暇中審理ヲ要スル事件ヲ云フ此休暇事件ハ急訴事件又ハ特別ニ休暇事件ト爲シタルモノナレバ期間ノ進行ヲ妨ゲザルモノトス

第三項ハ不變期間ハ法律ニ定メタルモノニ限ルコトヲ示シタルモノナリ

未項ハ別ニ述ブベキ點ナシ

**第百六十九條** 期日ノ變更辯論ノ延期辯論續行ノ期日ノ指定ハ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得但申立ニ因レル期日ノ變更ハ合意ノ場合ヲ除ク外顯著ナル理由アルトキヨリ之ヲ許ス

**註疏** 期日ノ變更トハ裁判所ノ定メタル期日ヲ廢棄スルコトヲ云フ當事者ハ此期日廢棄ノ權アリ故ニ期日ノ前又ハ期日ノ後ニ於テ此權ヲ利用シ變更ヲ申立ツルコトヲ得ルナリ然レドモ此權ハ只期日ヲ廢棄スルニ止リ自ラ新期日ヲ定ムルヲ得ザルナリ新期日ヲ定ムルノ權ハ裁判長ノ職權ニノミアルモノトス而シテ當事者ガ期日變更ノ合意ヲ爲スニ付テハ別ニ其方法ヲ規定セザルガ故ニ書面、口頭又ハ其他ノ方法ニ因テ合意ヲ爲スコトヲ得ルナリ

裁判所ハ申立アルトキハ期日ノ變更辯論ノ延期辯論續行ヲ決定スルコトヲ得又其申立ナキモ必要ト認ムルトキハ職權ヲ以テ此決定ヲ爲スコトヲ得ルナリ此決定ハ裁判所ノ爲スモノニシテ裁判長ノ爲スモノニアラズ然レドモ期日ヲ變更スル場合ニ於テ新期日ヲ定ムルノ必要アルトキハ裁判長ニ於テ第百二十九條ノ規定ニ從ヒテ之ヲ定ムルコトヲ得ベシ而シテ辯論ノ延期辯論續行ノ期日ヲ指定ス可キ場合ニ於テハ當事者ノ双方裁判所ニ在ルガ故ニ口頭辯論ヲ經テ之ヲ決定スルヲ以テ別ニ顯著ナル理由ノ存スルヲ要セズ反之期日ノ變更即チ期日ノ開始前申立ニ因リ新期日ヲ指定スル場合ハ第百七十一條ニ依リ口頭辯論ヲ經ルヲ要セザルガ故ニ合意ノ場合ヲ除クノ外ハ顯著ナル理由ヲ要ス

**第百七十條** 期間ハ不變期間ヲ除ク外當事者ノ合意ノ申立ニ因リ之ヲ短縮シ又ハ伸張スルコトヲ得

裁判所又ハ裁判長ノ定ムル期間及法律上ノ期間ハ合意ナキモ申立ニ因リ顯著ナル理由アルトキハ之ヲ短縮シ又ハ伸張スルコトヲ得然レトモ法律上ノ期間ノ短縮又ハ伸張ハ此法律ニ特定シタル場合ニ限リ之ヲ許ス

伸張ニ係ル新期間ハ前期間ノ滿了ヨリ之ヲ起算ス

註疏　裁判所ハ職權ヲ以テ期間ヲ伸縮スルヲ得ザルモ當事者ハ合意ニテ之ヲ爲スヲ得ルヲ以テ當事者ノ權ハ裁判所ノ權ヨリ寧ロ大ナリト云フベシ然レドモ不變期間ハ公益ノ爲メニ存スルモノナレバ此期間ノ變更ハ合意ヲ以テ之ヲ左右スルヲ得ズ其結果トシテ裁判所又ハ裁判長ハ故障又ハ上訴ノ場合ニ於テ職權ヲ以テ法律上ノ期間内ニ其申立アリシヤ否ヤヲ調査スルコトヲ得ルナリ

右期間變更ノ合意ノ方式ニ付テモ別段ノ定メナキガ故ニ期日ノ廢棄ト同ジク書面又ハ口頭其他ノ方法ニ依リ合意ヲ爲スコトヲ得ベシ

第二項ハ第一項ニ云フ合意ナキト雖モ當事者ノ一方ガ期間變更ノ申立ヲ爲シ得ル場合ヲ規定シタルモノナリ而シテ其申立ヲ爲スニ付テノ要件ハ期間ノ變更ヲ要スル顯著ナル理由アルコト、法律上ノ期間ニ付テハ法律ニ之ヲ許スノ規定アルコトノ二條件ナカル可カラズ然リ而シテ法律上ノ期間ノ短縮又ハ伸張ヲ許ス規定アルモノハ訴狀ノ送達ト答辯書ヲ差出ス可キ時日トノ間ニ存スル十四日ノ期間等ニシテ短縮ヲ許ス場合ハ訴狀ト口頭辯論ノ期日トノ間ニ存スル二十日ノ期間是ナリ

第三項ハ新期間ヲ定メズシテ先キノ期間ヲ伸長スルトキハ前期間ノ滿了ヨリ起算スルコトヲ定メタルモノアリ此ニ注意ス可キハ期間伸長ノ申立ヲ爲スニハ前期間ノ經過後ハ之ヲ爲スコトヲ得ズ必ズ前期間ノ經過前ニ於テセザル可カラズ若シ期間ノ經過後ニ之ヲ申立ツルトセバ新期間ト爲リ前期間ノ伸長ニ非ラザルニ至レバナリ



**第百七十一條**　期日ノ變更又ハ期間ノ短縮若クハ伸張ニ付テノ申請ノ理由ハ之ヲ疏明ス可シ其申請ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

申請ノ裁判ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得

同一期日ノ再度ノ變更又ハ同一期間ノ再度ノ伸張ハ相手方ノ承諾書ヲ提出セサルトキトハ相手方ヲ審訊シタル後ニ限リ之ヲ許スコトヲ得又相手方カ異議ヲ述フルトキハ顯著ナル差支ノ理由及ヒ其差支ヲ除去スルコトノ特別ナル困難ヲ生シタルコトヲ證スルトキニ限リ之ヲ許スコトヲ得訴訟代理人ノ差支ニ原因スル期日ノ再度ノ變更又ハ期間ノ再度ノ伸張ハ相手方ノ承諾アルニ非サレハ之ヲ許サス

期日ノ變更又ハ期間ノ伸張ニ付テノ申請ヲ却下スル裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

註疏　第一項ノ申請ハ多ク口頭辯論ノ期日外ニ於テ之ヲ爲スモノナレバ其必要ナル理由ヲ十分ニ裁判官ニ信ゼラレザルベカラズ故ニ法律ハ此ニ疏明ス可キコトヲ命ジタルナリ

第二項ハ別ニ述ブ可キ點ナシ

第三項　ノ同一期日ノ再度ノ變更トハ期日ニ於テ爲ス可キ行爲ヲ爲サズシテ之ヲ他ノ期日ニ送リ其新期日ニ至ルモ終ニ之ヲ爲サズ再ビ之ヲ他ノ期日ニ送ル爲メ新期日ヲ定ムル場合ニシテ同一期間ノ再度ノ伸長トハ既ニ行爲ヲ爲スモ尚ホ行爲ヲ爲スノ必要アルトキ期間ヲ伸長シ尚ホ其時ニ不足スルトキ再ビ伸長スルヲ云フ此等ノ場合ニ於テ相手方ノ承諾アルニ非ザレバ期日ノ變更又ハ期日ノ伸長ヲ許サヾルヲ本則トス故ニ相手方ノ承諾書ナキトキハ相手方ヲ審訊シタル後ニ非ザレバ之ヲ許サズ又相手方ガ異議ヲ述ブルトキハ顯著ナル差支ノ理由及ビ其差支ヲ除去スルコトノ特別ナル困難ヲ生ジタルコトヲ立證スルニ非ザレバ之ヲ許サヾルナリ而シテ右顯著ナル差支トハ例ヘバ期日ニ當事者ノ一方ヨリ或ル有力ナル證據物ヲ提出ス可キ場合ニ於テ該所在ノ分明ナラザルニヨリ出廷當日提出スルヲ得ザル爲メ期日ノ變更又ハ期間ノ伸長ヲ要スル場合ノ如シ

代理人ノ差支ニテハ同一期日ノ變更又ハ期間ノ伸長ヲ許サズ是レ代理人ニ差支アルトキハ自身ニ訴訟行爲ヲ爲スヲ得ベク又他ノ代理人ヲ任ズルヲ得ベケレバナリ然レドモ相手方ニ於テ承諾スルトキハ裁判所ノ强ヒテ干渉スベキニ非ザレバ合意アレバ之ヲ許スコトヽ定メタルナリ

第四項ハ期間ノ短縮ノ申請ヲ却下スル決定ハ本條第二項ニ依リ口頭辯論ヲ經ズシテ之ヲ爲スコトヲ得ル故、抗告ヲ爲スコトヲ得ルト雖モ期日ノ變更又ハ期間ノ短縮若クハ伸長ヲ許容スル決定ニ對シ口頭辯論ヲ經テ決定ヲ爲スモノナレバ第四百五十五條ノ規定ニ依リ不服ノ申立卽チ抗告ヲ爲スコトヲ許サヾルニアリ

## 第百七十二條　本節ニ於テ裁判所及ヒ裁判長ニ與ヘタル權ハ受命判事又ハ受託判事モ亦其定ム可キ期日及ヒ期間ニ付キ之ヲ行フコトヲ得

註疏　本條ハ裁判所又ハ裁判長ニ與ヘタル權ヲ受命判事又ハ受託判事ニモ附與スルコトヲ定メタルナリ卽チ裁判所又ハ裁判長ノ有スル權ヲ受命判事及ヒ受託判事ニ其定ム可キ期日及ヒ期間ニ付キ附與スルコトヲ規定ス之レ實際上ノ必要ヨリ出デタルモノトス

## 第四節　懈怠ノ結果及ヒ原狀回復

註疏　懈怠トハ期日又ハ期間ニ訴訟行爲ヲ施行セザル爲メ失權ノ效果ヲ生ズルヲ云フ原狀回復トハ一言之ヲ謂ヘバ失權ナキ舊狀ニ立戻ルト云フ義ナリ而シテ期日又ハ期間ヲ懈怠スルトキハ其期日又ハ期間ニ於テ爲ス可キ訴訟行爲ヲ爲スノ權ヲ失フモ或ル場合ニ於テハ之レヲ回復スルノ方法アリ卽チ口頭辯論ノ期日全ク訴訟行爲ヲ爲サズ闕席スルカ或ハ闕席セザルモ辯論ヲ爲サヾレバ闕席判決ヲ受ケ訴訟行爲ヲ爲スコトヲ得ザルモ故障ノ方法ヲ以テ前ニ怠リタル行爲ヲ再ビ爲スコトヲ得ルナリ又タ口頭辯論ガ一ノ期日ニ於テ終ラザルトキ數回口頭辯論ノ期日ヲ定ムルトキハ最初ノ期日ニテ爲サヾル訴訟行爲ハ後

ノ期日ニ於テ爲スコトヲ得又不變期間ハ當事者ノ合意ヲ以テモ其變更又ハ伸長ヲ許サズト雖モ不變期間ヲ懈怠シタルコトガ本人ノ過失ニ非ズシテ已ムヲ得ザルニ出ヅルトキハ原狀回復ヲ爲スヲ得ルナリ

**第百七十三條** 訴訟行爲ヲ怠リタル原告若クハ被告ハ其訴訟行爲ヲ爲ス權利ヲ失フ但此法律ニ於テ追完ヲ許ストキハ此限ニアラス

法律上懈怠ノ結果ハ當然生スルモノトス但此法律ニ於テ失權ヲ爲サシムルコトニ付キ相手方ノ申立ヲ要スルトキハ此限ニ非ス

註疏 本條ハ懈怠ニ付一般ノ結果ヲ定メタルナリ故ニ云々ノ場合ニハ失權スルトノ特別ノ條文ヲ要セズ或ル訴訟行爲ヲ怠リタルトキハ當然失權ノ效果ヲ生ズルモノトス例ヘバ控訴ノ期間內ニ控訴セザル爲メ失權スルトキノ如シ之ニ反シ特別ノ懈怠ノ結果ハ條文ニ明記アル場合ニ限レリ

第二項ノ法律上懈怠ノ結果ハ其一般ナルモノト特別ナルモノトヲ問ハズ又裁判官ガ如何ナル結果ノ生ズルコトヲ前以テ示スコトヲ要セズ又相手方ノ申立ヲモ要セズ懈怠シタル結果ニ依リ自然ニ生スルヲ以テ原則トス其例外ハ但書ニ定メタリ

**第百七十四條** 天災其他避ク可カラサル事變ノ爲ニ不變期間ヲ遵守スルコトヲ得サル原告若クハ被告ニハ申立ニ因リ原狀回復ヲ許ス

原告若クハ被告カ故障期間ヲ懈怠シタルトキハ其過失ニ非スシテ闕席判決ノ送達ヲ知ラサリシ場合ニ於テモ亦之ニ原狀回復ヲ許ス

註疏 不變期間ハ公益上法律ニ依リ設ケタルモノナレバ當事者ノ合意ヲ以テ之ヲ短縮シ又ハ伸長スルコトヲ許サズト雖本條ノ條件ヲ具備スルトキハ原狀回復ノ方法ニ依リ他ノ期間ヲ伸長シタルト同一ノ效力ヲ生ズルニ至ルナリ

天災其他避ク可カラザル事變トハ所謂不可抗力ト云フ意義ト同一ナリ卽チ原告若クハ被告ノ過失ニ非ズシテ生シタル意外ノ出來事ヲ云フ此事變ノ爲メ不變期間ヲ遵守シ得ザリシコトヲ證明スルトキハ原狀回復ヲ許ス例ヘバ原告若クハ被告ガペスト病ノ爲メ不變期間ヲ遵守シ得ザルコトヲ證明スルトキ又ハ戰爭若クハ洪水ニ依リ通行ニ差支ヲ生シ上訴狀ヲ提出シ得ザリシ場合ノ如シ而シテ此原狀回復ヲ許スハ不變期間ヲ遵守シ能ハザリシコトノ原告若クハ被告自身ノ差支ニ出デタル場合ニシテ若シ訴訟代理人ヲ任シ之ニ上訴ヲ爲スノ權ヲ委任セシ場合ニ於ケル委任者ノ差支ハ以テ原狀回復ノ理由ト爲スベカラズ然レドモ其代理人ニシテ過失ニアラザル差支ニ依リ不變期間ヲ遵守シ能ハザルトキハ原狀回復ヲ許サルルナリ但此場合ニ於テハ委任者代テ行爲ヲ爲シ得ルカ又ハ他ノ代理人ニ委任シ上訴ヲ爲シ得ルトキハ原狀回復ノ理由ト爲ラズ而シテ事變ノ避ク可カラザリシヤ否ヤハ裁判官ガ事實ニ付キ之ヲ認定ス可キモノニシテ別ニ標準アルコトナシ

第二項ハ不變期間ノ一ナル故障期間ヲ懈怠シタルトキ原狀回復ヲ許スノ規定ナリ此故障期間ノ懈怠ハ前項ノ條件ヲ有スルトキハ勿論假ホ本項ニ依リ原告若クハ被告ノ過失ニ非ズシテ闕席判決ノ送達ヲ知ラザリシトキニモ亦之ヲ許ス如斯故障期間ニ付キ特別ノ規定ヲ設ケタルハ他ニ非ズ元來書類ノ送達ハ必シモ本人ニ爲スヲ要セズ送達ヲ受ク可キ者ノ同居ノ親族若クハ其雇人ニ有效ニ爲スコトヲ得可ク又假住所ヲ撰定セザルトキハ書類ノ本人ニ到着スルト否トヲ問ハズ郵便ニ付シタルヲ以テ送達アリシモノト看做ス規定ヲ以テ實際闕席判決ノ送達ヲ知ラザルコトアルベケレバ其過失ナクシテ送達ヲ知ラザル者ニ原狀回復ヲ許スノ妥當ナルニ如カザレバナリ

**第百七十五條** 原狀回復ハ十四日ノ期間內ニ之ヲ申立ツルコトヲ要ス

右期間ハ障碍ノ止ミタル日ヲ以テ始マル此期間ハ當事者ノ合意ニ因リ之ヲ伸長スルコトヲ得ス

懈怠シタル不變期間ノ終ヨリ起算シテ一ケ年ノ滿了後ハ原狀回復ヲ申立ツルコトヲ得ス

**註疏** 本條ハ原狀回復ノ申立期間ニ關スル規定ナリ卽チ原狀回復ノ申立ハ十四日內ニ於テセザル可カラズ而シテ此ニハ不變期間トアラザルガ故ニ十四日ノ期間內ニ申立ヲ爲サヾルニモセヨ其懈怠ニ對シテ復タ原狀回復ヲ許スコトナシ若シ原狀回復ノ原狀回復ヲ許ストセバ遂ニ際限ナキニ至ル可シ是レ回復ノ回復ヲ許サズトノ原則ニ基キタルモノトス而シテ此期間ハ懈怠シタル不變期間ノ回復ヲ求ムルモノナルモ不變期間ニ非ザルガ故ニ裁判所ノ休暇ニ依リテ其進行ヲ停止セラルヽコトナシ

第二項ハ右ノ期間ハ障碍ノ止ミタル日卽チ第百七十四條第一項ノ場合ニ於テハ原告若クハ被告ガ行爲ヲ爲シ得ルニ至リタル日ヨリ又同條第二項ノ場合ニ於テハ闕席判決ノ送達アリシコトヲ知リタル日ヨリ始マルコトヲ示シタルモノナリ此期間ハ不變期間ニ非ズ從テ當事者ノ合意ヲ以テ伸長シ得ルガ如クナルモ若シ之ヲ許ストキハ原狀回復ヲ制限シタル旨趣ニ戻リ期間ノ際限ナキニ至ルガ故ニ本項ニ當事者ノ合意ヲ以テ伸長スルコトヲ得ズト定メタリ

第三項ハ懈怠シタル不變期間ノ終ヨリ起算シ一ケ年ヲ過グルトキハ大抵原狀回復ノ申立ヲ爲ス者尠ナカラン然レドモ申立ノ期間ハ障碍ノ止ミタル日ヨリ十四日內ニ爲スベキモノニテ障碍ノ止マラザル間ハ或ハ一年二年ノ長キニ繼續スルコトアレバナリ故ニ茲ニ期間ニ制限ヲ立テ其際限ナキヲ防ギタルナリ

**第百七十六條** 原狀回復ハ追完スル訴訟行爲ニ付キ裁判ヲ爲ス權アル裁判所ニ書面ヲ差出シテ之ヲ申立ツヘシ

此書面ニハ左ノ諸件ヲ具備スルコトヲ要ス

第一　原狀回復ノ原因タル事實
第二　原狀回復ノ疏明方法
第三　懈怠シタル訴訟行爲ノ追完

即時抗告ノ提出ヲ懈怠シタルトキハ原狀回復ノ申立ハ不服ヲ申立テラレタル裁判ヲ爲シタル裁判所又ハ抗告裁判所ニ之ヲ爲スコトヲ得

註疏　本條ハ原狀回復ノ書面提出ニ關スル規定ナリ訴訟行爲ニ付キ裁判ヲ爲ス權アル裁判所トハ若シ不變期間ヲ懈怠セズシテ其期間ニ或ル行爲ヲ爲シタルトキ其事項ニ付キ裁判權ヲ有スル裁判所ト云フ義ナリ例ヘバ故障ノ原狀回復ナルトキハ闕席判決ヲ爲シタル裁判所上告ノ原狀回復ナレバ控訴院若クハ大審院ガ其管轄裁判所タルトキノ如シ

原狀回復ノ申立アルトキハ裁判所ハ抗告ノ原狀回復ヲ除クノ外期日ヲ定メ申立人ノ相手方ヲ呼出シ口頭辯論ヲ經テ申立ノ許否ニ付キ裁判ヲ爲サヾル可カラズ抗告ヲ除ク所以ハ抗告ニ付テハ相手方ヲ呼出スヲ要セズ又口頭辯論ヲ爲スニ及バザレバナリ

第二項ノ「要ス」ト云フ詞ハ敷度述ベタルコトアリ必ズ爲サヾル可カラザルヲ示スモノナリ

第一號　ハ第百七十四條ニ掲グル原狀回復ノ原因タル事實即チ疾病戰爭洪水ニテ云々ノ障碍アリタル事等ヲ述ブベシ

第二號　申請書ニハ疏明ノ方法即チ裁判官ヲシテ原狀回復ヲ申立ツル原由タル事實ヲ信ゼシムルニ足ル方法ハ口頭辯論ニ於テ之ヲ爲ス

第三號　懈怠シタル訴訟行爲ノ追完トハ例ヘバ控訴ノ不變期間ヲ懈怠シタルトキ控訴ヲ對スル不服申立ノ訴仲裁判斷取消ノ訴ニ關スル場合是ナリ

末項ハ即時抗告ヲ懈怠シタル場合ニ於ケル原狀回復ノ申立ニ付キ別段ノ規定ヲ設ケタルナリ元來抗告ハ不服ヲ申立テラレタル裁判ヲ爲シタル裁判所ニ提出ス可キモノニシテ訴訟行爲ニ付キ裁判ヲ爲ス權ヲ有スル裁判所即チ抗告裁判所ニ提出ス可キモノニ非ザルガ故ニ此規定ナキトキハ當然抗告裁判所ニ爲スコトヲ得ザレバナリ

**第百七十七條**　原狀回復ノ申立ニ付テノ訴訟手續ハ追完スル訴訟行爲ニ付テノ訴訟手續ト之ヲ合併ス然レトモ裁判所ハ先ツ申立ニ付テノ辯論及ヒ裁判ノミニ其訴訟手續ヲ制限スルコトヲ得

申立ノ許否ニ關スル裁判及ヒ其裁判ニ對スル不服ノ申立ニ付テハ追完スル訴訟行爲ニ於テ行ハル可キ規定ヲ適用ス然レトモ申立ヲ爲シタル原告若クハ被告ハ故障ヲ爲スコトヲ得ス

原狀回復ノ費用ハ申立人之ヲ負擔ス但相手方ノ不當ナル異議ニ因リ

生シタルモノハ此限ニアラス

**註疏** 本條第一項ハ原狀回復ノ許否ヲ裁判スル手續ト本案ノ手續ヲ併合スルコトヲ得ルモノニシテ必シモ原狀回復ヲ許スヤ否ヤノ辯論裁判ヲ別ニスルヲ要セズ若シ訴訟手續ヲ分離シテ爲シタル場合ニ於テ原狀回復ヲ許スノ裁判ヲ爲ストキハ本案ノ手續ニ着手セザルヲ得ザルガ故ニ其判決ハ中間判決ニシテ又若シ原狀回復ヲ許サヾルノ裁判ヲ爲ストキハ本案ニ付テノ手續ヲ爲サヾルガ故ニ其判決ハ終局判決ト爲ルナリ

第二項ハ申立ノ許否即チ原狀回復ノ許否ニ關スル裁判及ビ裁判ニ對スル不服申立ニ關スル規定ニシテ右等ノ事項ニ付テハ追完スル訴訟ニ付テ行ハルヽ訴訟行爲ト同一ナリ例ヘバ故障ニ付テノ原狀回復ナルトキハ其申立ノ許否ノ裁判ヲ爲スニ故障ニ關スル規定ヲ適用シ又控訴ナルトキ控訴ニ關スル規定ヲ適用ス

申立ノ許否ニ關スル裁判ニ對スル不服ノ申立ハ追完スル訴訟行爲ニ付キ爲ス裁判ニ對シ不服ノ申立ヲ爲シ得ルトキニ限リ不服ヲ申立ツルコトヲ得例ヘバ控訴ニ付テノ原狀回復ノ場合ニ於テハ申立許否ノ裁判ニ不服ナルトキハ上告ヲ爲スコトヲ得然レドモ上告ノ裁判ニ對スル原狀回復ナルトキハ不服ノ申立ヲ爲スヲ得ズ是レ他ナシ上告ノ裁判ニ對シテハ更ニ不服ヲ爲スベキ方法ナケレバナリ而シテ原狀回復ノ申立ヲ爲シタルモノハ故障ヲ許サズ何故ニ闕席判決ニ對シ不服ノ申立ヲ許サヾルヤト云フニ若シ再三之ヲ許ストキハ其際限ナキニ至ルヲ以テナリ然レトモ第三百九十八條ノ條件ヲ具備スルトキハ控訴又ハ上告ヲ爲スコトヲ得ベシ

末項ハ原狀回復ヲ申立テタル者敗訴スルトキハ總テノ費用ヲ負擔セザルベカラザレに相手方ノ不當ノ異議即チ無益ナル攻擊若クハ防禦ノ方法ノ提出ノ爲メ別段ノ費用ヲ生シタルトキハ其者ニ於テ之ヲ負擔ス可シト定メタルナリ

## 第五節　訴訟手續ノ中斷中止

**註疏** 一旦裁判所ニ繫屬シタル訴訟ハ停止スルコトナク完結セシメザル可カラズト雖モ或ル場合ニ於テハ其停止ヲ必要トシ又便宜トスルコトアリ此停止ニ三箇ノ種類アリ即チ訴訟手續ノ中斷及訴訟手續ノ休止是ナリ訴訟手續ノ中斷トハ當事者ノ意思ニ拘ハラズ法律上或ル事實ニ依リ自然生ズル訴訟手續ノ中止トハ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ爲シ得ル訴訟手續ノ停止ヲイヒ訴訟手續ノ休止トハ當事者ノ隨意ニ爲ス訴訟手續ノ停止是ナリ

**第百七十八條** 原告若クハ被告ノ死亡シタル場合ニ於テハ承繼人カ訴訟手續ヲ受繼クマテ之ヲ中斷ス

受繼ヲ遲滯シタルトキハ裁判所ハ申立ニ因リ受繼及ヒ本案辯論ノ爲メ其承繼人ヲ呼出ス

承繼人期日ニ出頭セサルトキハ申立ニ因リ相手方ノ主張シタル承繼ヲ自白シタルモノト看做シ且裁判所ハ闕席判決ヲ以テ承繼人訴訟手續ヲ受繼キタリト言渡ス又本案ノ辯論ハ故障期間ノ滿了後始メテ之ヲ爲シ又其期間內ニ故障ヲ申立テタルトキハ其完結後始メテ之ヲ爲ス

**註疏** 承繼人トシテ中斷シタル訴訟手續ノ受繼グ者ハ其承繼人タル資格ヲ證明セザル可ラズ而シテ此ニ云フ承繼人トハ原告若クハ被告ノ死亡ニ依リ其權利及ヒ義務ヲ取得スルモノヲ稱ス故ニ一般ノ承繼人卽チ相續人ナルト特別ノ承繼人卽チ遺產者ノ遺贈ニ依リ物ヲ取得スル受贈者タルトヲ問ハズ而シテ其承繼人タル可キ者ノ如何ハ民法ノ定ムル所ニ從フ

又本條ハ原告若クハ被告自ラ訴訟ヲ爲ス場合ニ適用シ訴訟代理人ヲ任シタルトキハ第百八十三條ノ規定ニ因ルベシ而シテ中斷シタル訴訟手續ノ受繼ハ第百八十七條ノ規定ニ從ヒ承繼人受繼ヲ爲ス旨ヲ記シタル書面ヲ受訴裁判所ヘ差出シ裁判所ヨリ之ヲ相手方ニ送達シ以テ之ヲ爲スナリ承繼人ノ相手方ヨリ受繼ヲ爲ストキハ第二項ノ規定ニ從ヒ申立ニ依リ期日ヲ指定シ受繼人ヲ呼出シテ之ヲ爲ス

第二項以下ハ任意ニ訴訟ノ受繼ヲ爲サヾルコトニ關スル規定ナリ受繼ヲ遲滯シタル時ハ承繼ヲ爲シタルニモ拘ハラズ訴訟ヲ爲サヾルヲ云フ然レドモ承繼アリシ日ニ直ニ訴訟ヲ受ケ繼ガザルモ之ヲ以テ未ダ受繼ノ遲滯ト云フヲ得ザルナリ必ズヤ承繼後訴訟ヲ爲スニ十分ナル時日存スルニモ拘ハラズ猶ホ之ヲ爲サヾルトキニ非ラザレバ受繼ノ遲滯ト云フベカラズ而シテ承繼後訴訟ノ受繼ヲ爲スニ十分ナル時日ヲ經過セシヤ否ヤハ裁判所ノ意見ヲ以テ判斷ス

此訴訟受繼ニ關スル手續ハ當事者間ノ中間訴訟ナリ而シテ訴訟ノ受繼ヲ爲ス者ノ主張スル所ノ承繼ヲ相手方ニ於テ爭フトキ又ハ相手方ノ主張スル所ノ承繼ヲ呼出ヲ受ケタル者爭フトキ承繼人ナリト裁判ヲ爲シタルトキハ引續キ本案ニ着手セザルヲ得ザルニ依リ仲間判決ナレモ承繼人ニ在ラザル裁判ヲ爲ス時ハ終局判決トナルナリ

末項ハ承繼人期日ニ出頭セザル場合ニ關スル規定ナリ

## 第百七十九條

原告若クハ被告ノ財產ニ付キ破產ノ開始シタル場合ニ於テ訴訟手續カ破產財團ニ關スルトキハ破產ニ付テノ規定ニ從ヒ手續ヲ受繼キ又ハ破產手續ヲ解止スルマテ之ヲ中斷ス

**註疏** 破產者ハ破產手續ノ繼續中自己ノ財產ヲ占有シ管理シ及ヒ處分スルノ權ヲ失フガ故ニ原告若クハ被告ノ財產ニ付破產ノ開始シタル場合ニ於テハ破產者タル原告若クハ被告ガ死亡シ又ハ訴訟能力ヲ失ヘタルト同一ノ結果ヲ生ズルヲ以テ勢ヒ訴訟手續ヲ中斷セ